

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

第6回折り紙の著作権に関する国際会議

6th International Origami Copyright Conference

小野友彰

Ono Tomoaki

折り図 Diagrams

ポニー

Pony

川畑文昭

Kawahata Fumiaki



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ポニー(3Dモデル)

A 3D Pony

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

つまみおり Information

世界各国のコンベンションレポート

Reports of Origami Conventions Worldwide

通巻 142 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

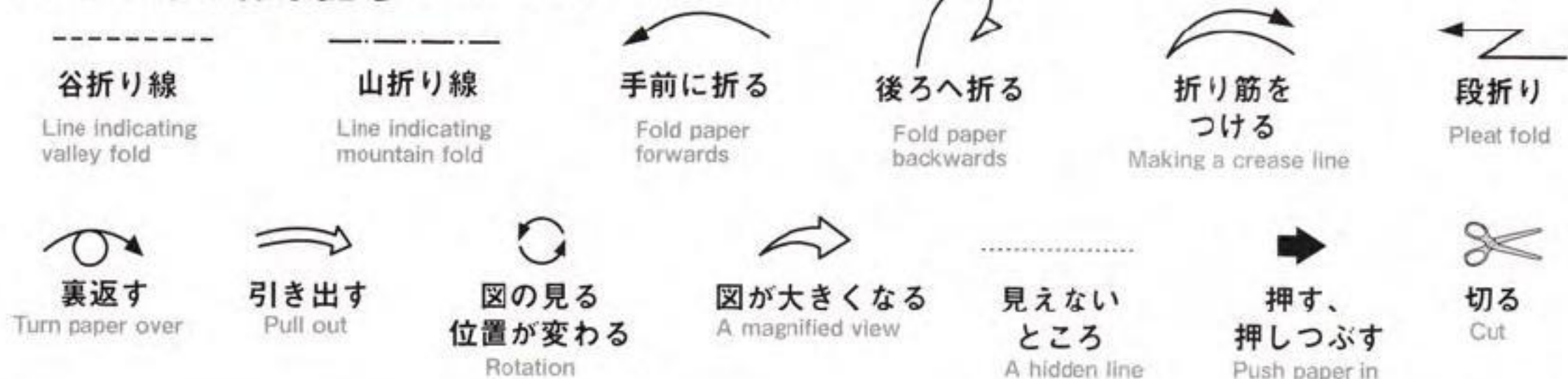
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「ポニー(3Dモデル)」(P.38) A 3D Pony (P.38)

作:川畑文昭
by Kawahata Fumiaki

■足のふさふさした長毛、重量感たっぷりの体型。垂れ下がったたてがみに大きめの頭部。かわいらしさが全身にあふれ出す的確な造形は、徹底的に作り込まれた展開図から導き出されたものでした。「いきなりこれに着手するのは心配」というかたは、折り図になっている「より平面的なバージョン」から始めてみましょう。

(解説:北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **142**



A 3D Pony: Kawahata Fumaki

クローズアップ / Close-up

P.11 第6回折り紙の著作権に関する国際会議

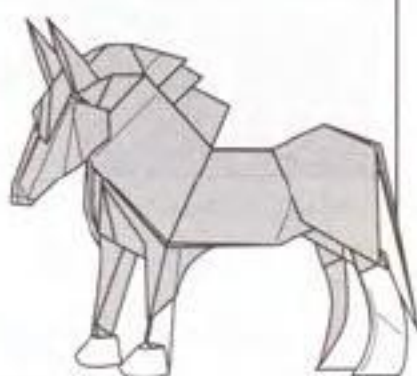
6th International Origami Copyright Conference

小野友彰
Ono Tomoaki

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 ポニー
Pony

川畑文昭
Kawahata Fumiaki



P.38 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

ポニー (3Dモデル)

A 3D Pony
川畑文昭
Kawahata Fumiaki

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋
Tomoko's Room

布施知子
Fuse Tomoko

にそう舟の切り子・四つ巴
A Twin-Boat Facet: Tomoe

P.8 おりがみ我楽多市
Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

氷の結晶
Snow Crystal

読み物 / Articles

P.14 蕩々たるおりがみ大河
The Swift Stream of Origami

笠原邦彦
Kasahara Kunihiro

おりがみ大河は、やがて「おりがみの大海」へ
The Stream of Origami Flows into the Ocean

P.16 折紙図書館の本棚から
From the Bookshelves of the JOAS Library

北條高史
Hojyo Takashi

エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー
ERIC JOISEL-The Magician of Origami-

P.18 ぼくらは折紙探偵団
Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

福島邦幸
Fukushima Kuniyuki

中学校教育における折紙の活用
Uses of Origami in Junior High School Curriculum

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺
Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.36 おりすじ
Orisuzi ("Fold-Creases")

中川幸治
Nakagawa Koji

P.37 折紙三昧
Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

何時も何処かで開催されている折り紙コンベンション
An Origami Convention, Anytime and Anywhere

にそう舟の切り子・四つ巴

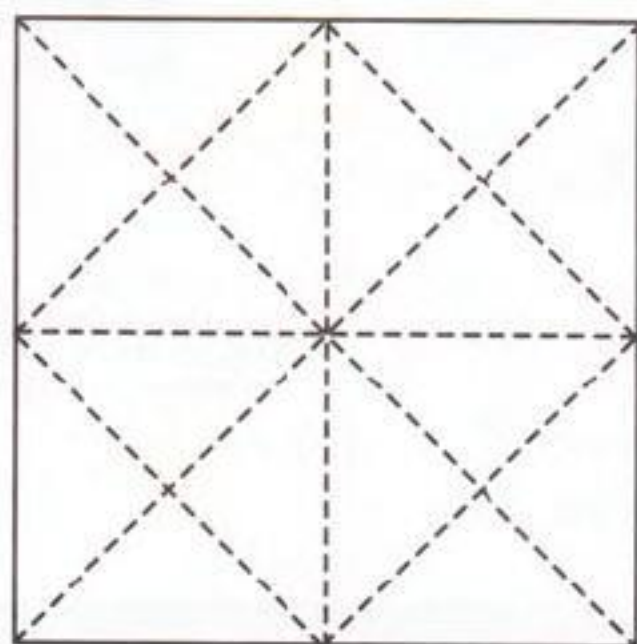
A Twin-Boat Facet: Tomoe



ポケットに差し込む組み方ではなく、順次はさんで下にあてがっていきます。丈夫な仕上がりになります。組みにくいですが、ばらばらになることもないので、システムを確認しつつ落ち着いて組んでください。表面の正方形は、飾りをいろいろに工夫できます。

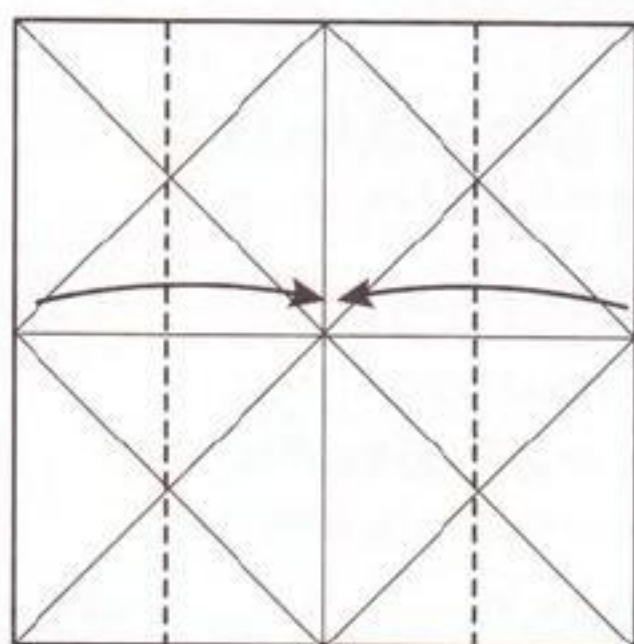
用紙: 15×15cmが基準

1

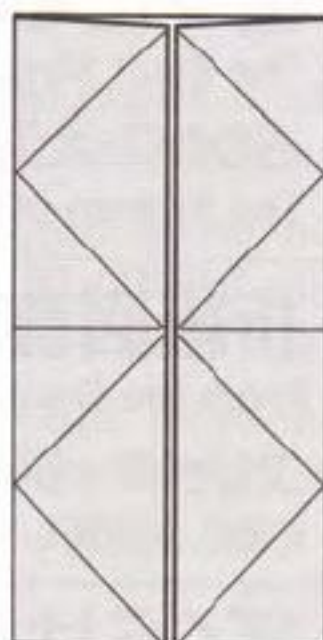


図のような
折り線をつける

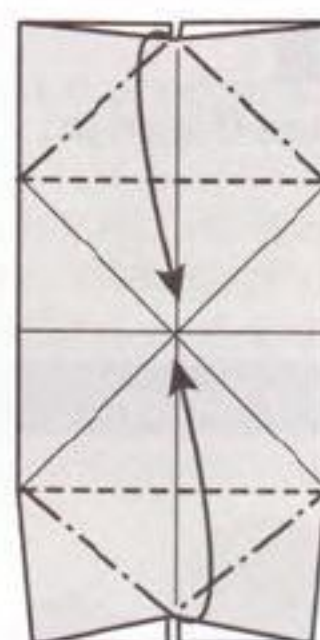
2



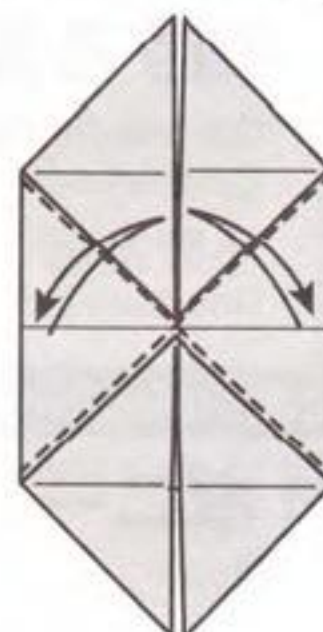
3



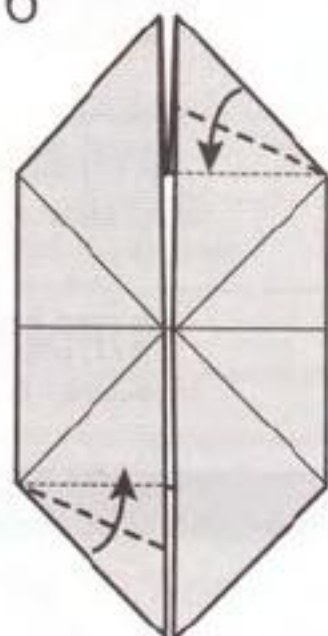
4



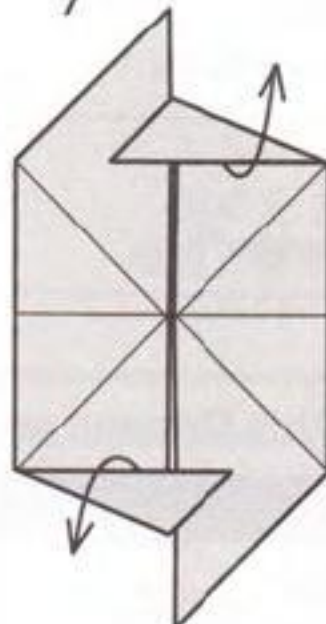
5



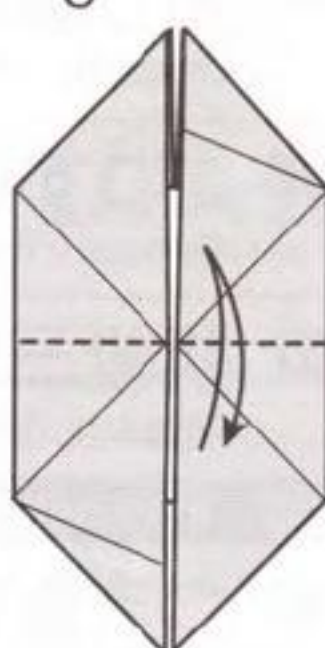
6



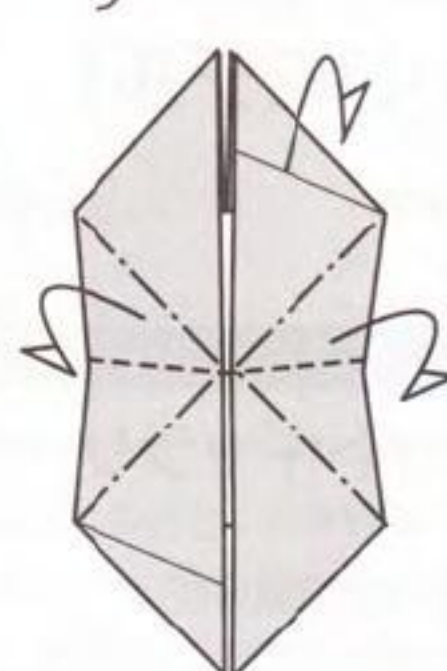
7



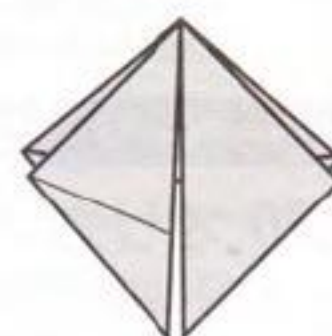
8



9



10



9まで開く

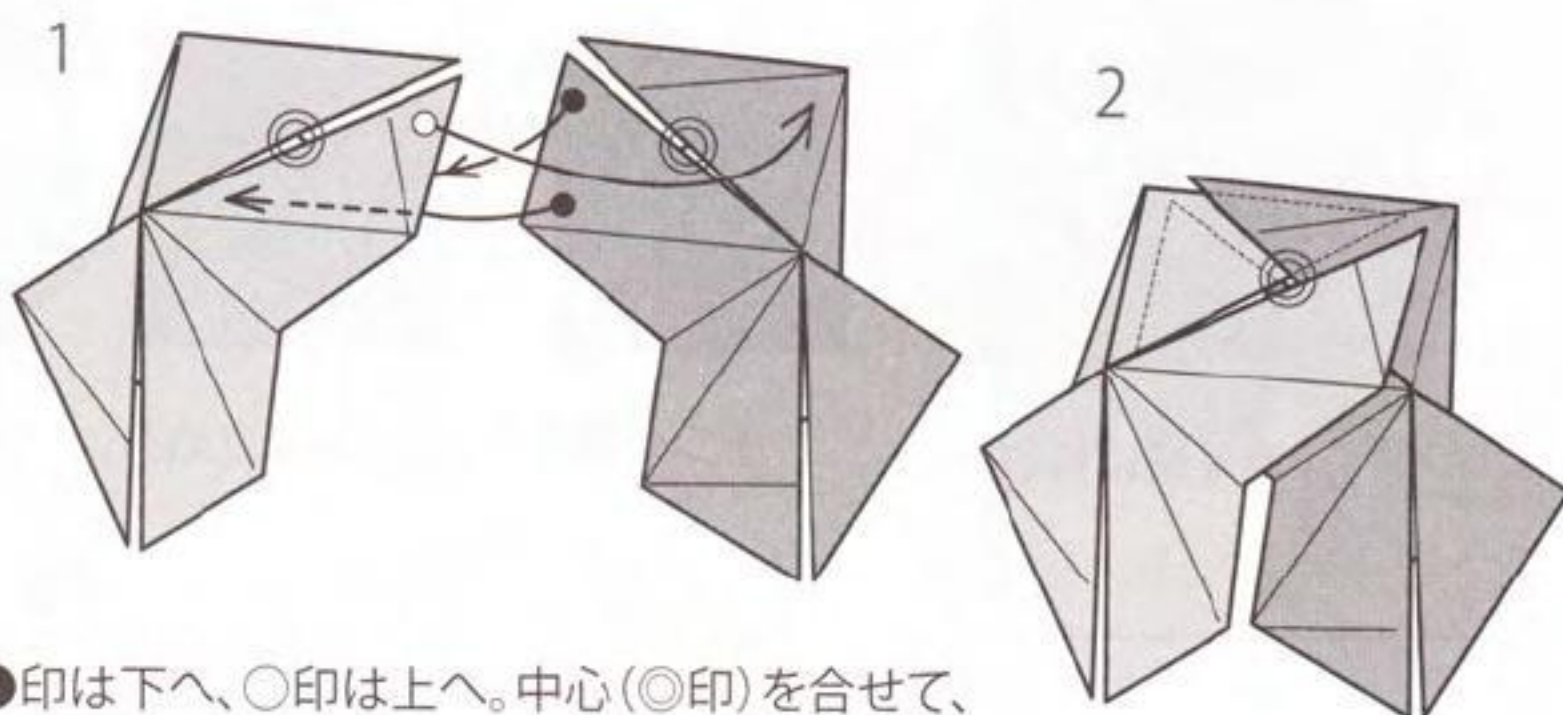
折り線どおりにまとめる

11



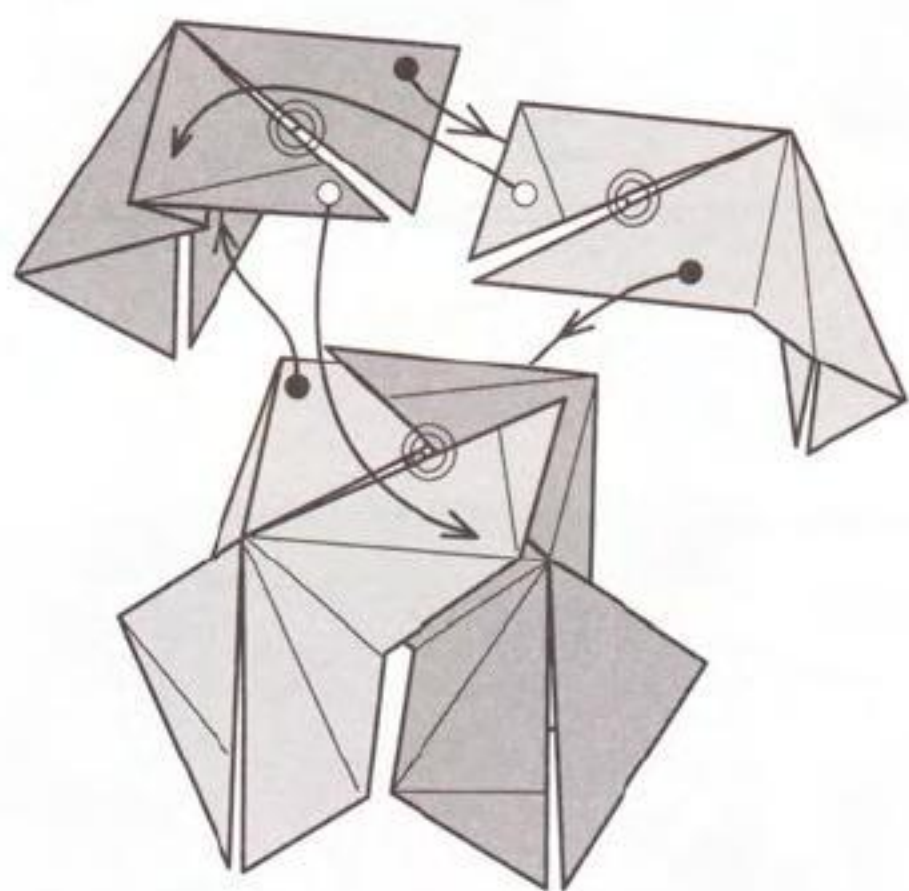
(×12)

[組み方]

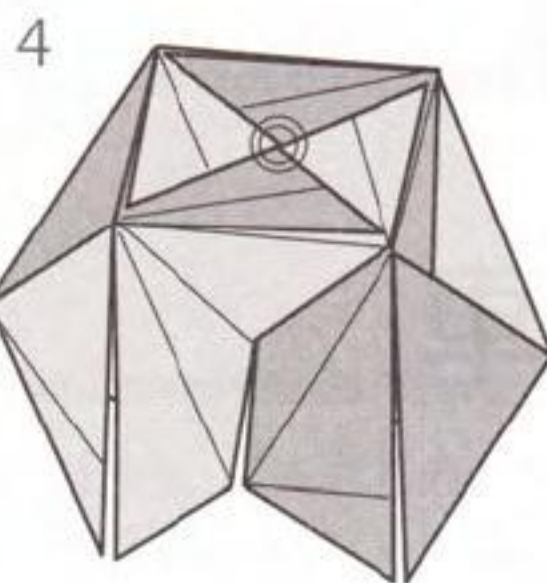


●印は下へ、○印は上へ。中心(◎印)を合せて、
お互いに挟んで組む。

3

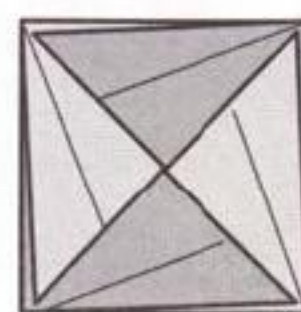


4枚組んだところ

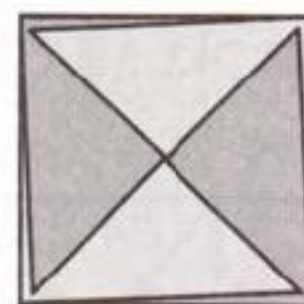


▶一面を真上から見た図◀

<表側>

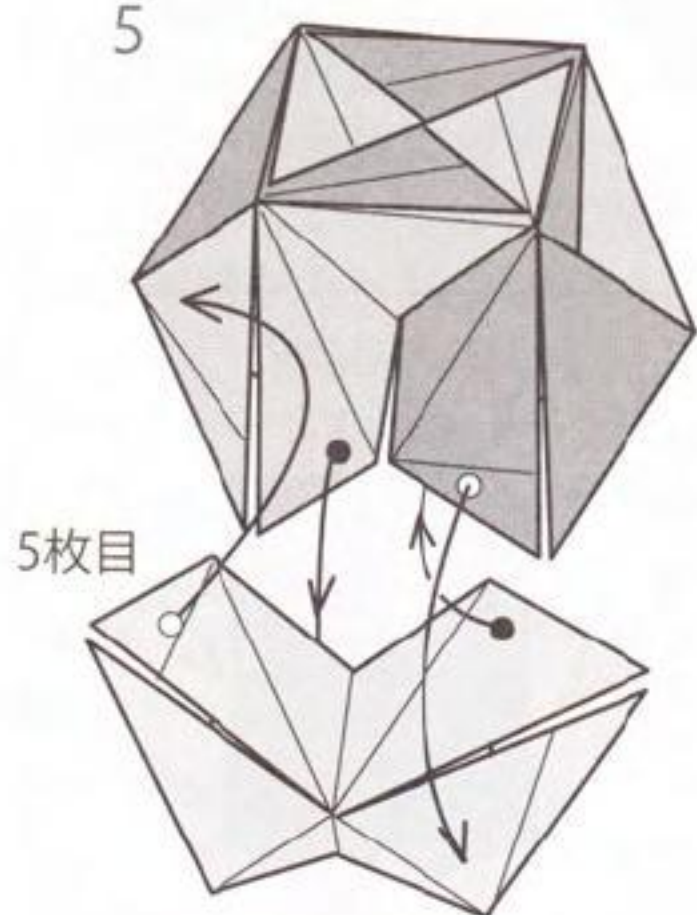


<裏側>



中心を合せて、順次挟みこんで組む。
内側はあてがうだけで、ポケットに入れなくてよい。

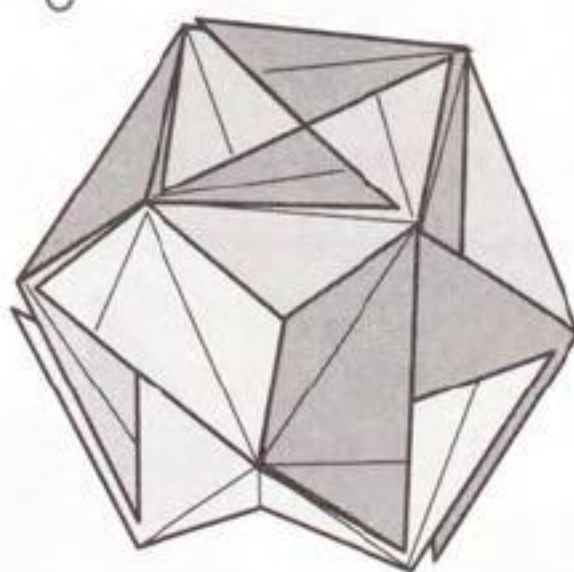
5



5枚目

中央は三角に組む

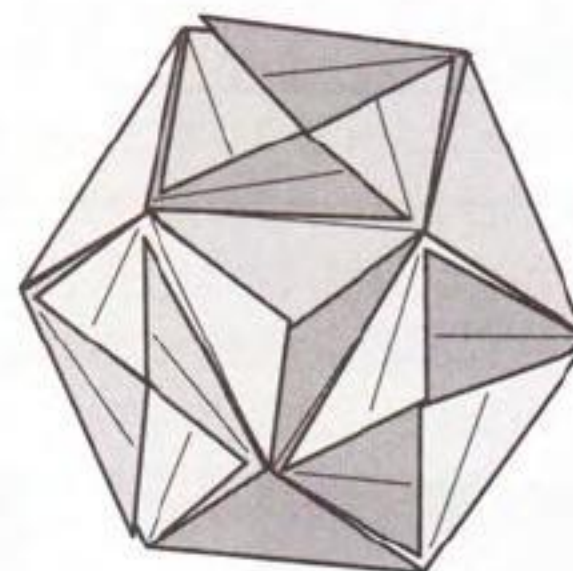
6



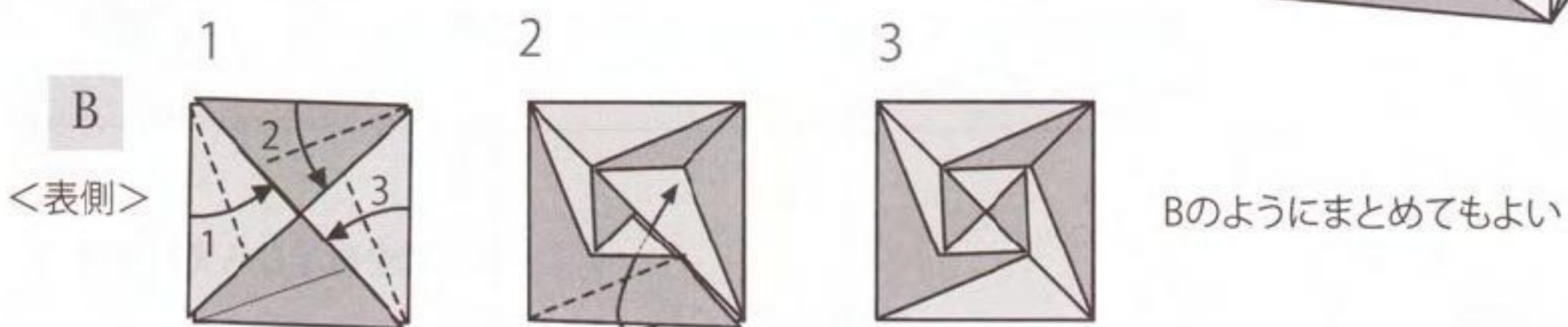
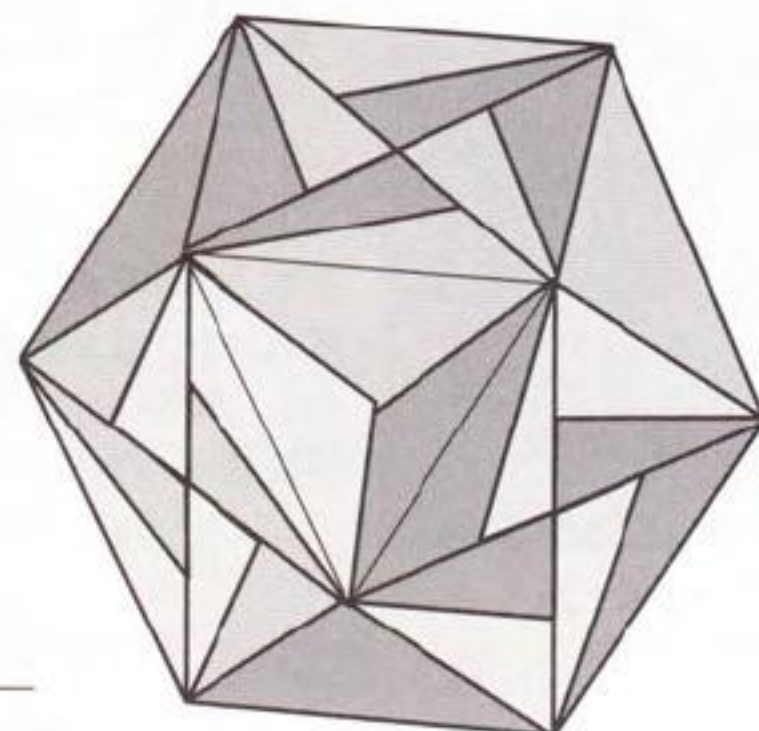
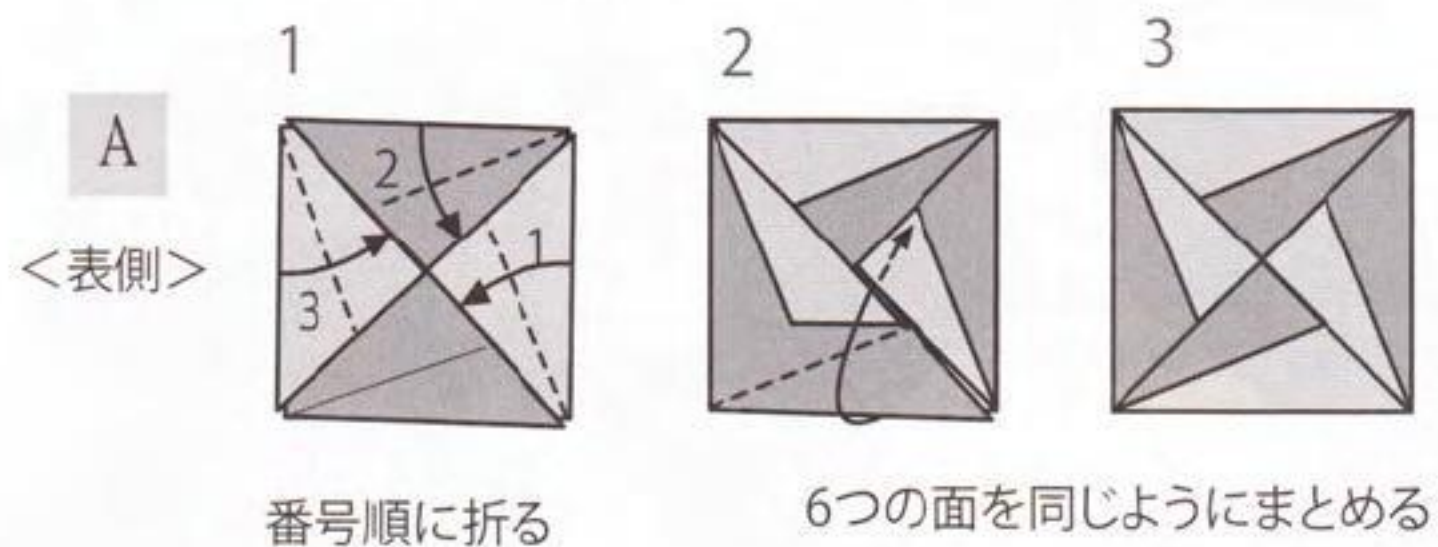
裏側からも見ながら、同じ
要領で残りを組む。

7

12枚組んだところ

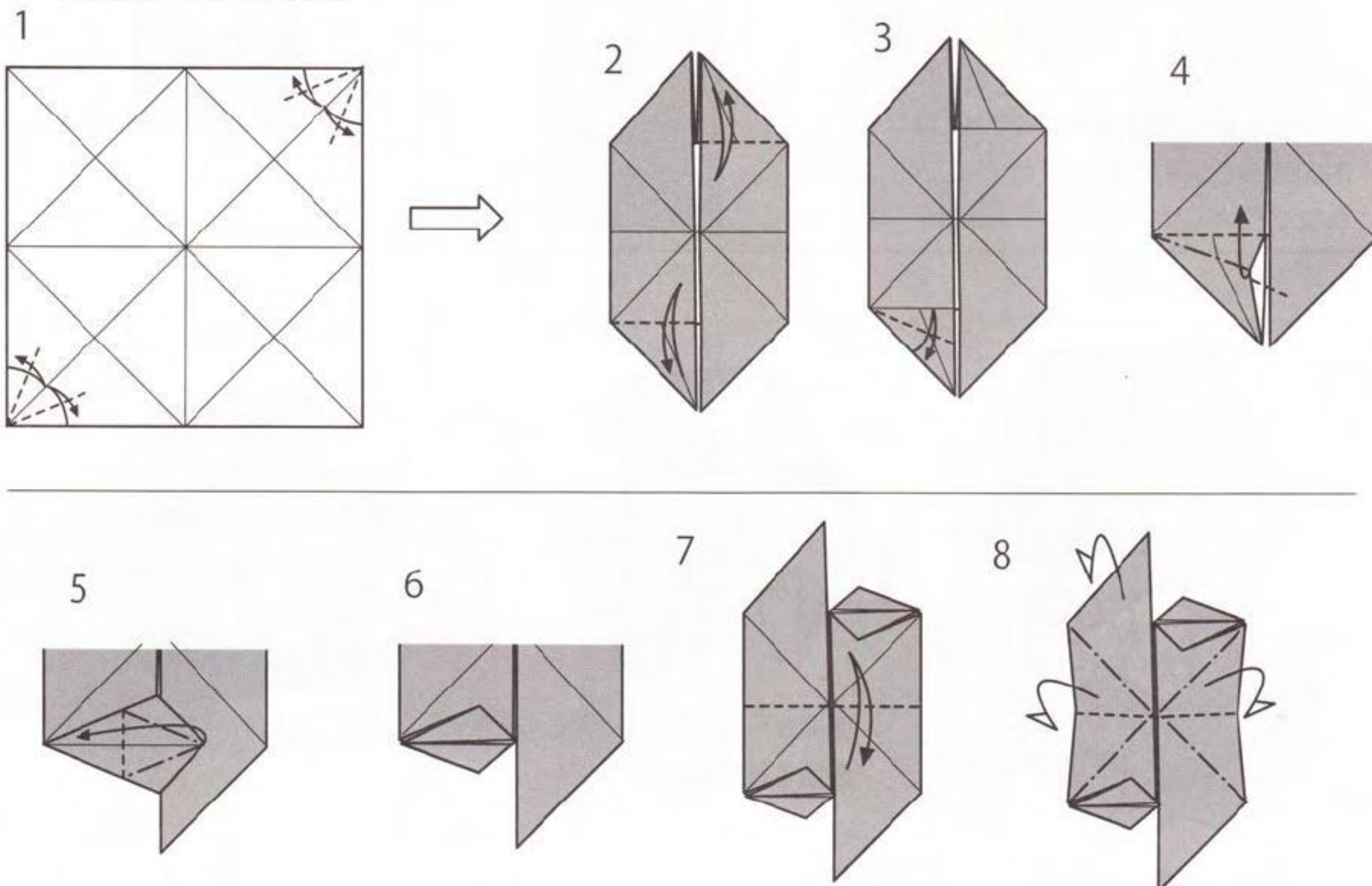


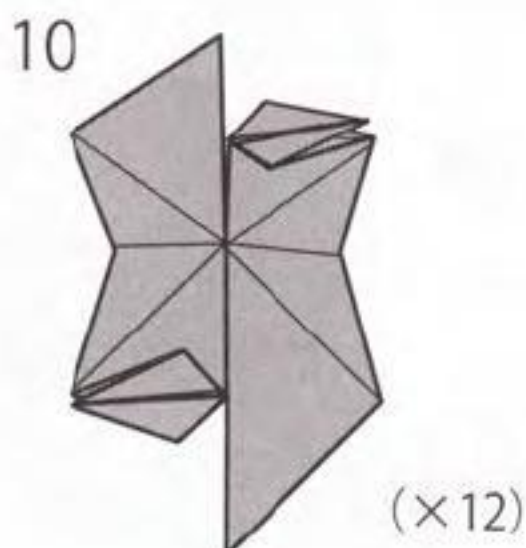
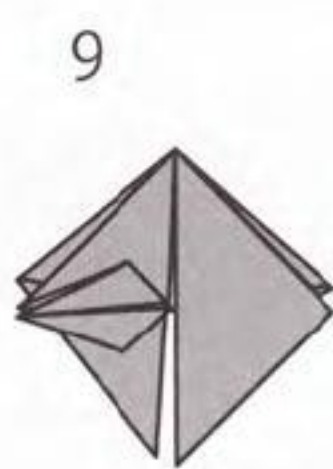
▶一面を真上から見た図◀



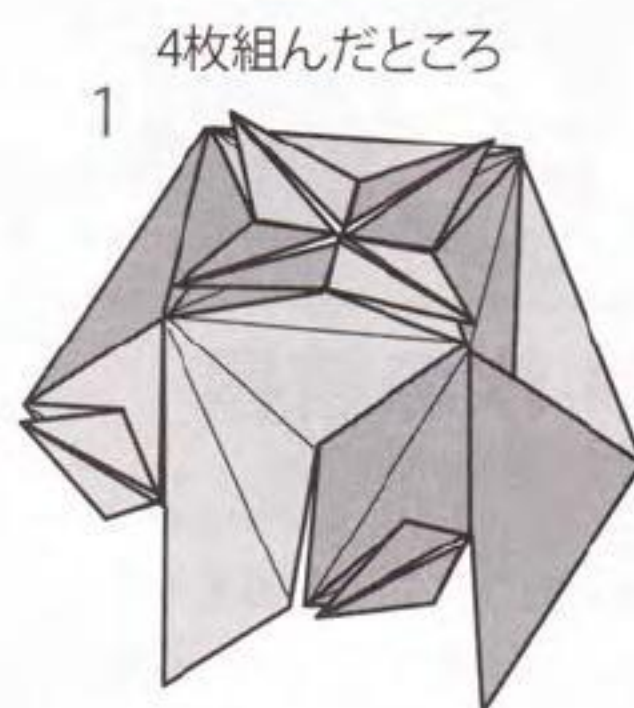
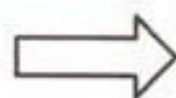
にそう舟の切り子・花車

4ページ1で、さらに図のような
 折り線をつけ、5まで折る



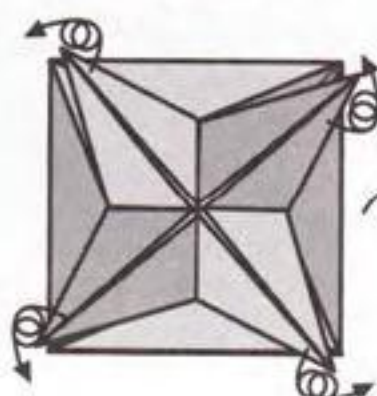


組み方は5ページ
と同じ



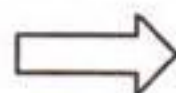
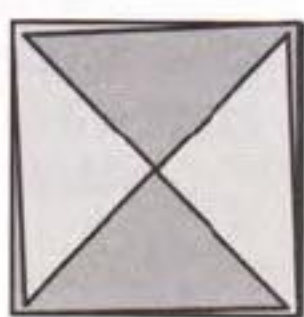
▶一面を真上から見た図◀

2 <表側>

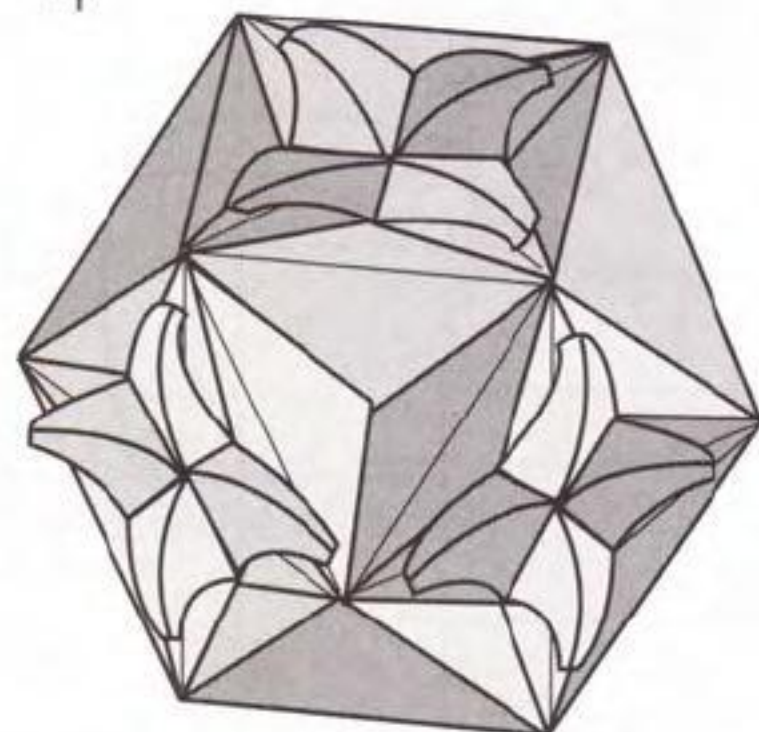


軽くカールする
方向は自由

3 <内側>



4



折り紙の 周辺

布施知子 Fuse Tomoko

第61回 報酬

Charge for Models/Ideas

Origami and
Its Neighbors

ときどき、『あなたの折り紙作品を、我社の広告に使いたい』という依頼がくる。直近では、某有名飲料メーカーの販促に使いたい、とだれもが知っている有名広告代理店から連絡があった。やりとりしている内に、作品使用料は想定していません、と言われた。つまり、無料で作品が使用されることがわかった。そこで私はプロなので作品使用料をいただきたいのですが、と適当と思われる金額を言ったら、あなたの金銭感覚はわかった、クライアントと検討する、という返事がきて、その後何の連絡も無い。他に

乗り換えたのだろう。そんなものなのだろうか。不採用であっても、せめて連絡は欲しいなあ。作品使用料を求める私の方がヘンなんだろう。相手が大きいだけに期待しちゃったなあ。お金だけでなく対応にも。某有名歌手のCDジャケットのときも初めは同じだった。しかしお互いにすり合わせる事ができた。結局ちょっとしか使われなかったそう。『そうだ』というのは、そのCDを送ることはできないので、どこかのお店で買ってください、と言われたから。間に入る制作会社はたいへんだなあ。でも、こんなことばかりではありませんとも。ちゃんと作品に敬意を払い、報酬をくださるところもたくさんあります。総じて、当たり前だが、折り紙に理解が深い所はきちんとした対応をしてくださる。

宅配を出しに集積センターに行ったら、受付デスクに折り紙が飾ってあった、おおこれは、と眺めていると、「私、この前の図書館の講習にいつ

たんですよ」と従業員の女性がつこり。私もにつこりして、二人の間に善きものが通った。これはある種折り紙の報酬だろう。折り紙ではこういう報酬をどっさりいただく。



某日外出から帰ると、ネコが知らない内にカケスを捕まえていた。茶の間に、あの美しい大きい鳥が横たわっていた。小さい実が稔る年老いた栗の木があって、その実を食べにくるのを、喉につまらないのかねえ、などと言いながら茶の間からたのしく見物していたのに。腿と尻に生えている羽毛がぼわぼわして『王様パンツ』とニックネームをつけて、横跳に枝を移動する姿を喜んでいたので。うちのネコはこの大きさの鳥は食べない。

しばらくするとネコがどこからともなく意気揚々と帰ってきた。私たちは彼に何も言えない。

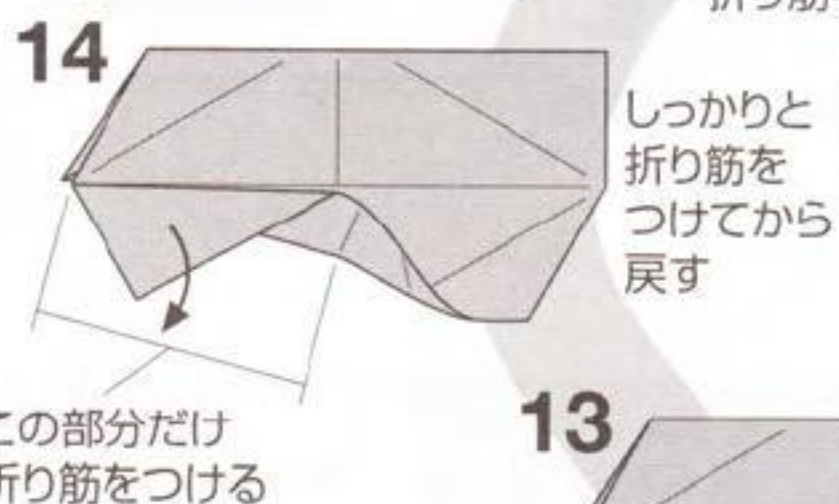
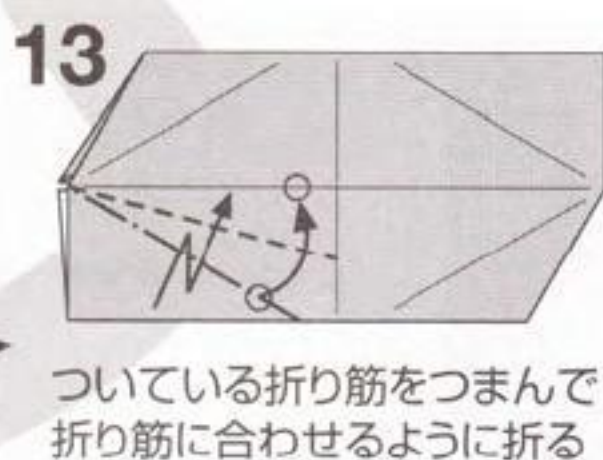
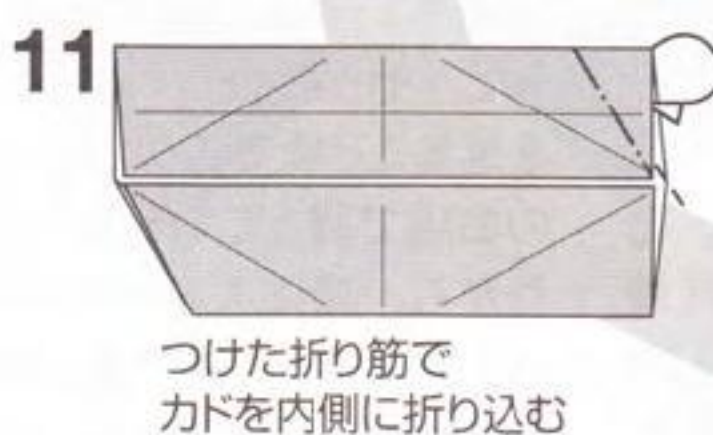
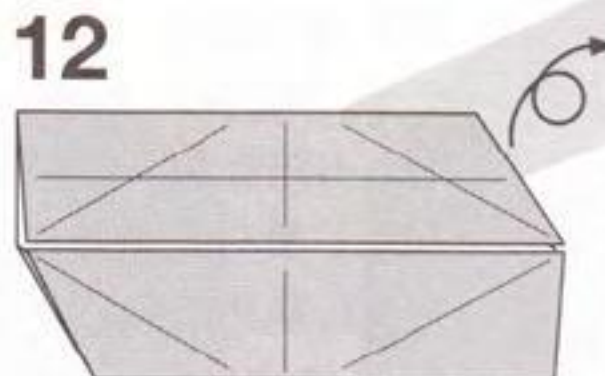
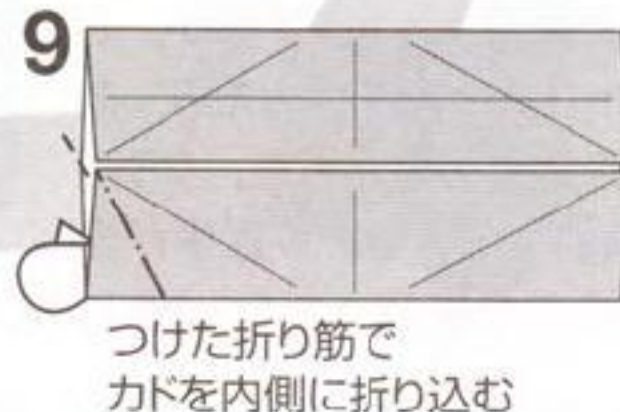
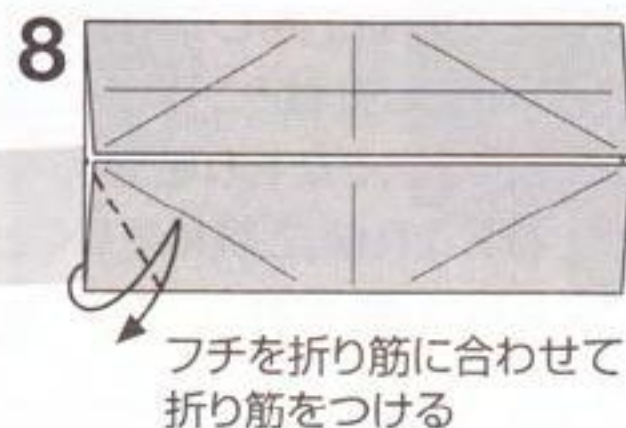
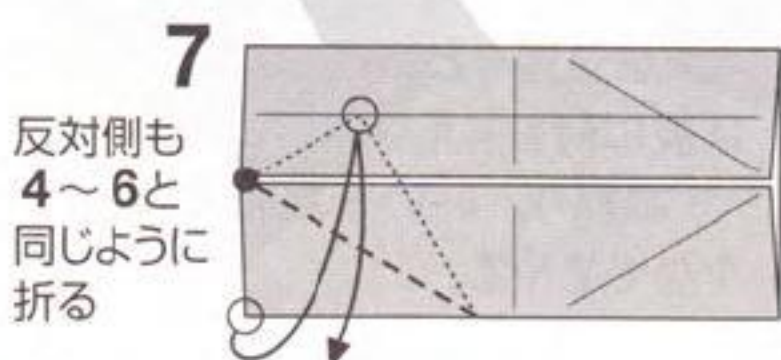
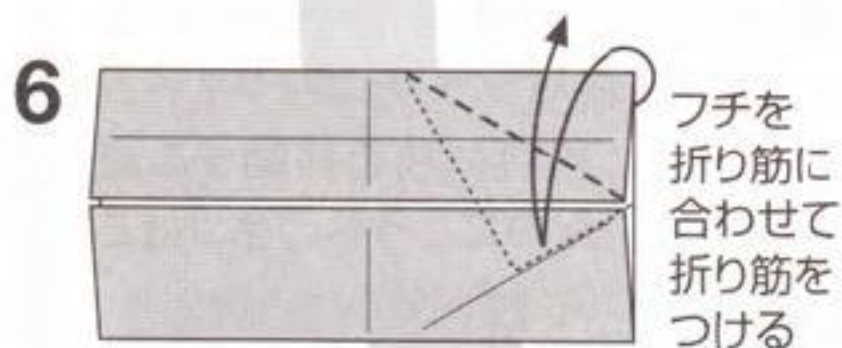
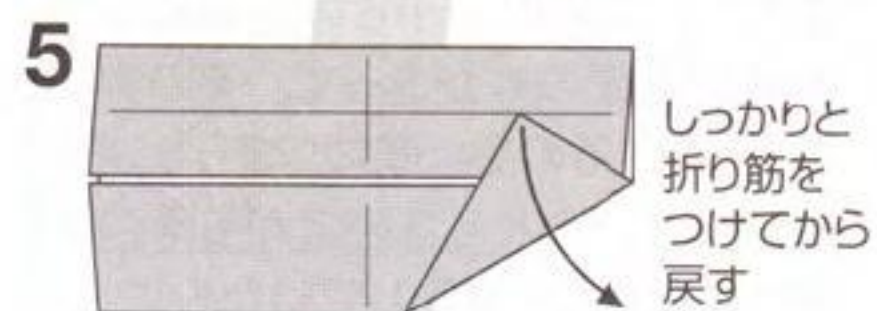
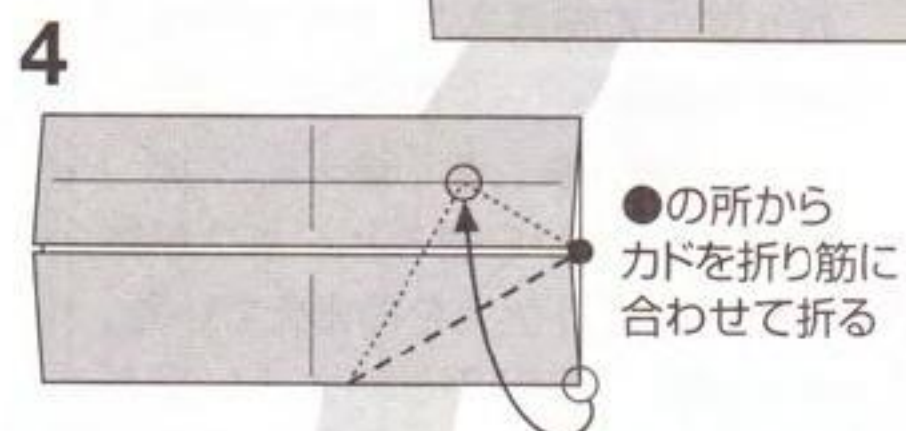
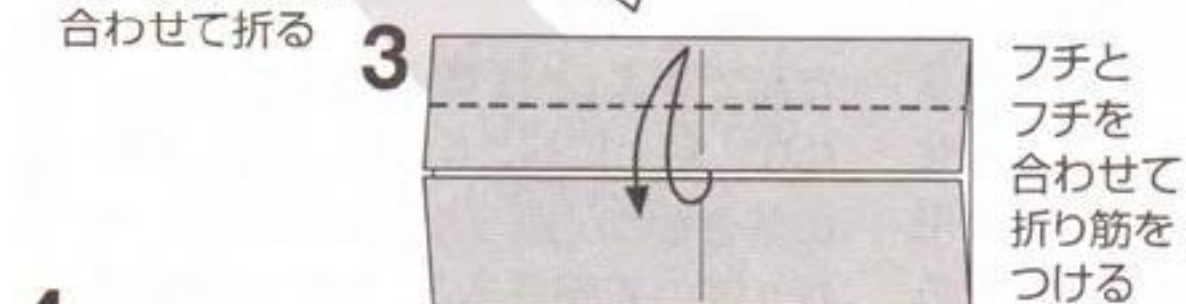
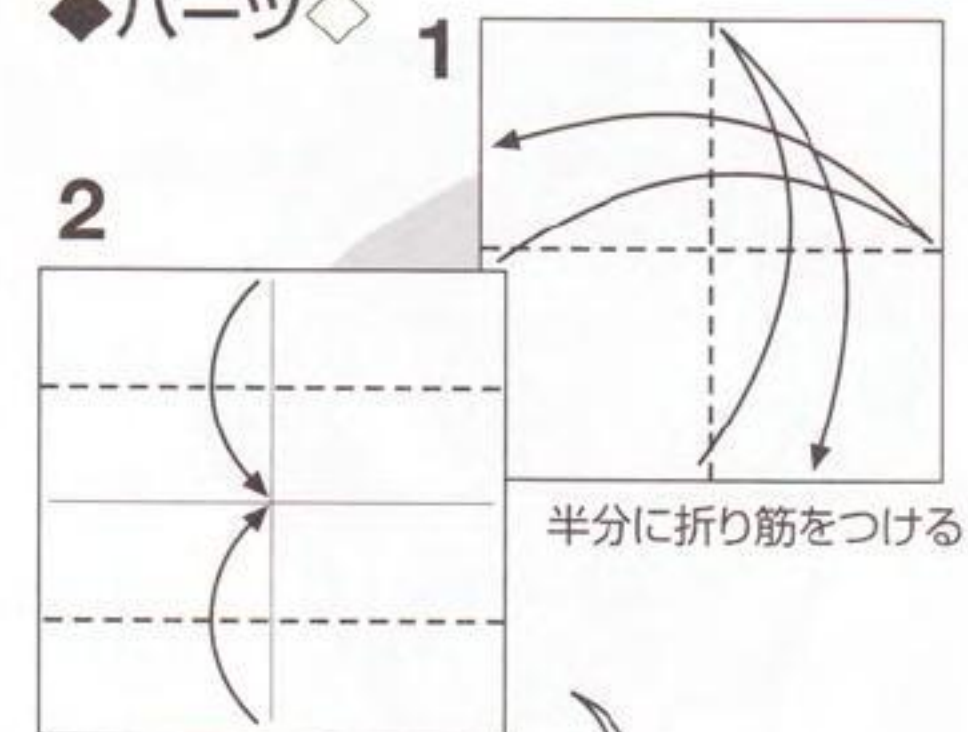
「お帰り、いい子だねえ」と背中をなでてやる。

第63回 氷の結晶 Snow Crystal

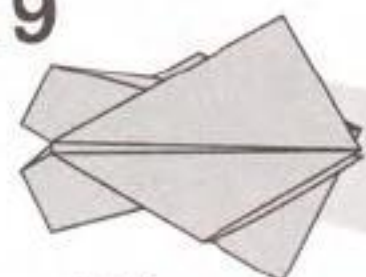
今度出版される「折り紙オーナメント」を主題にした私の本からご紹介します。この作品は、同じパーツを用いてアレンジが楽しめる事が特長で、くすだまに変身するほか、立体になる12枚組みも可能です。



◆パーツ◇



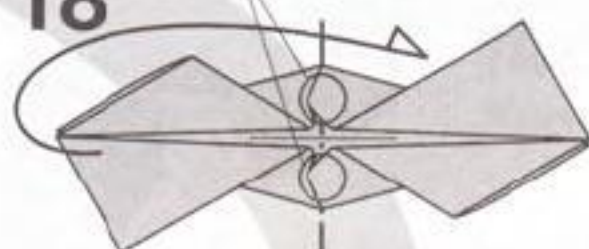
19



**[パーツ]
できあがり**

同じものを6個作る

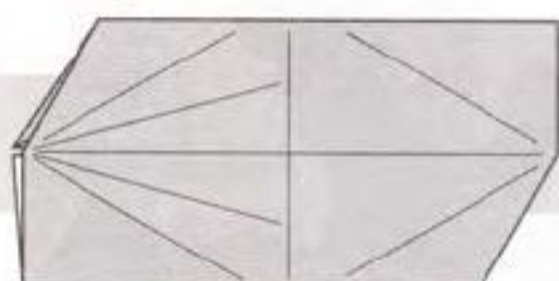
18



この部分は
平らにならない

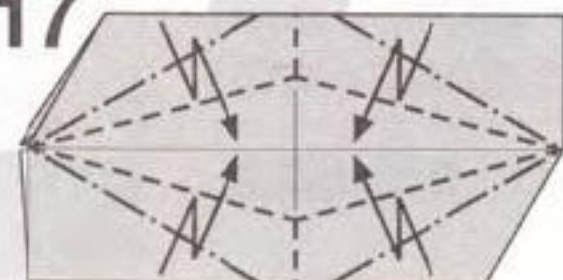
後ろへ半分に折る

16



反対側も13~15と
同じように折る

17



ついている折り筋で
それぞれ段折り

◆組み立て方◆

1



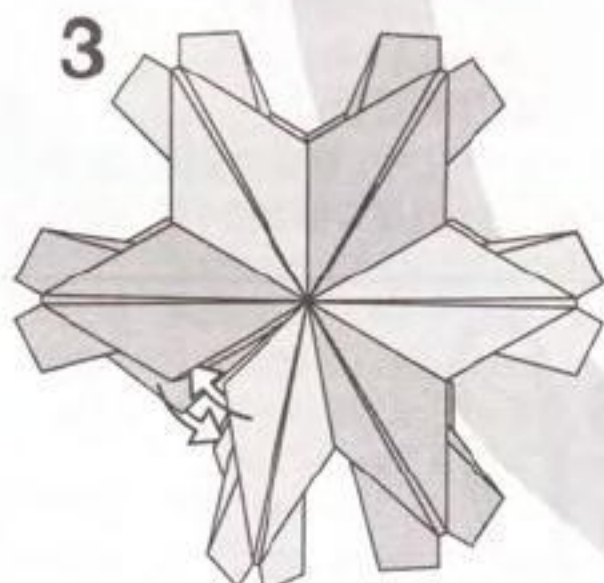
カドをそれぞれ
すき間に差し込んで
のりづけ

2



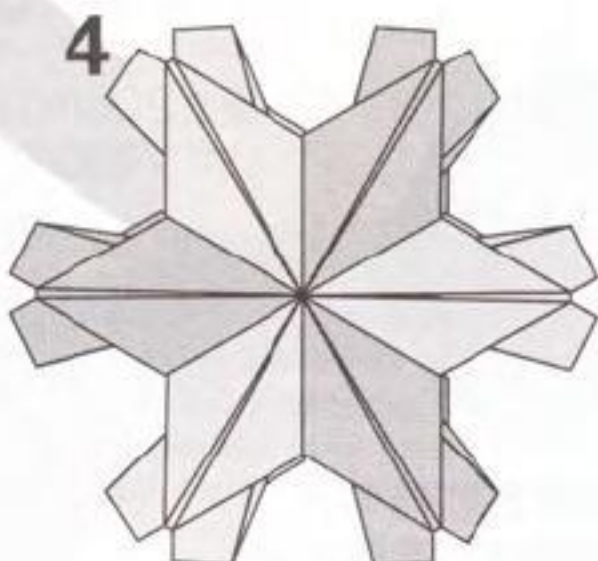
同じように
6個つなぐ

3



最後も同じように
すき間に差し込んで
のりづけ

4

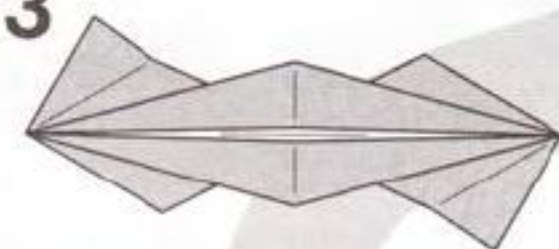


できあがり

◆小さなくすだま 組み立て方◆

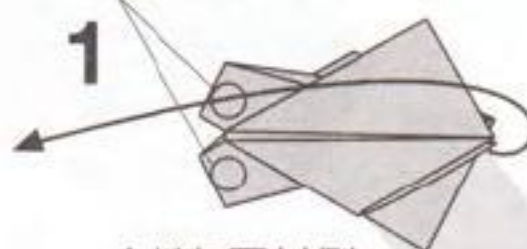
[パーツ]の
できあがりから始める

3



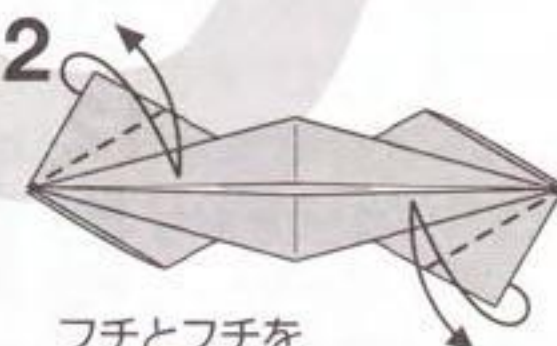
この部分は
折らないようにする

1



カドを反対側へ
ひろげる

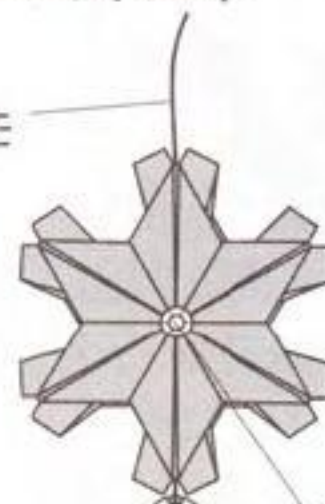
2



フチとフチを
合わせて
折り筋をつける

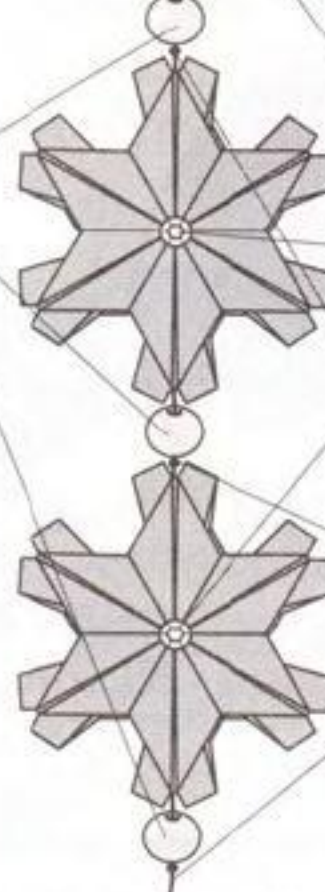
◆氷の吊るし飾り◆

ヒモ



[氷の結晶(6枚組)]を
3個作り
ビーズと順番に
ヒモを通して
図のように組み立てる

ビーズ

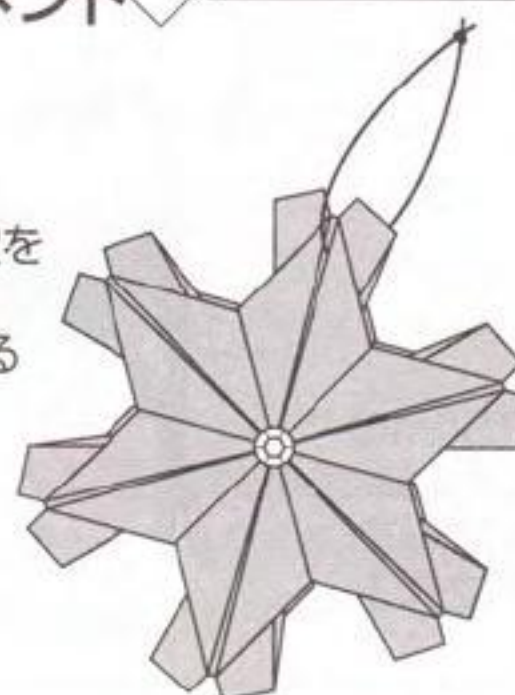


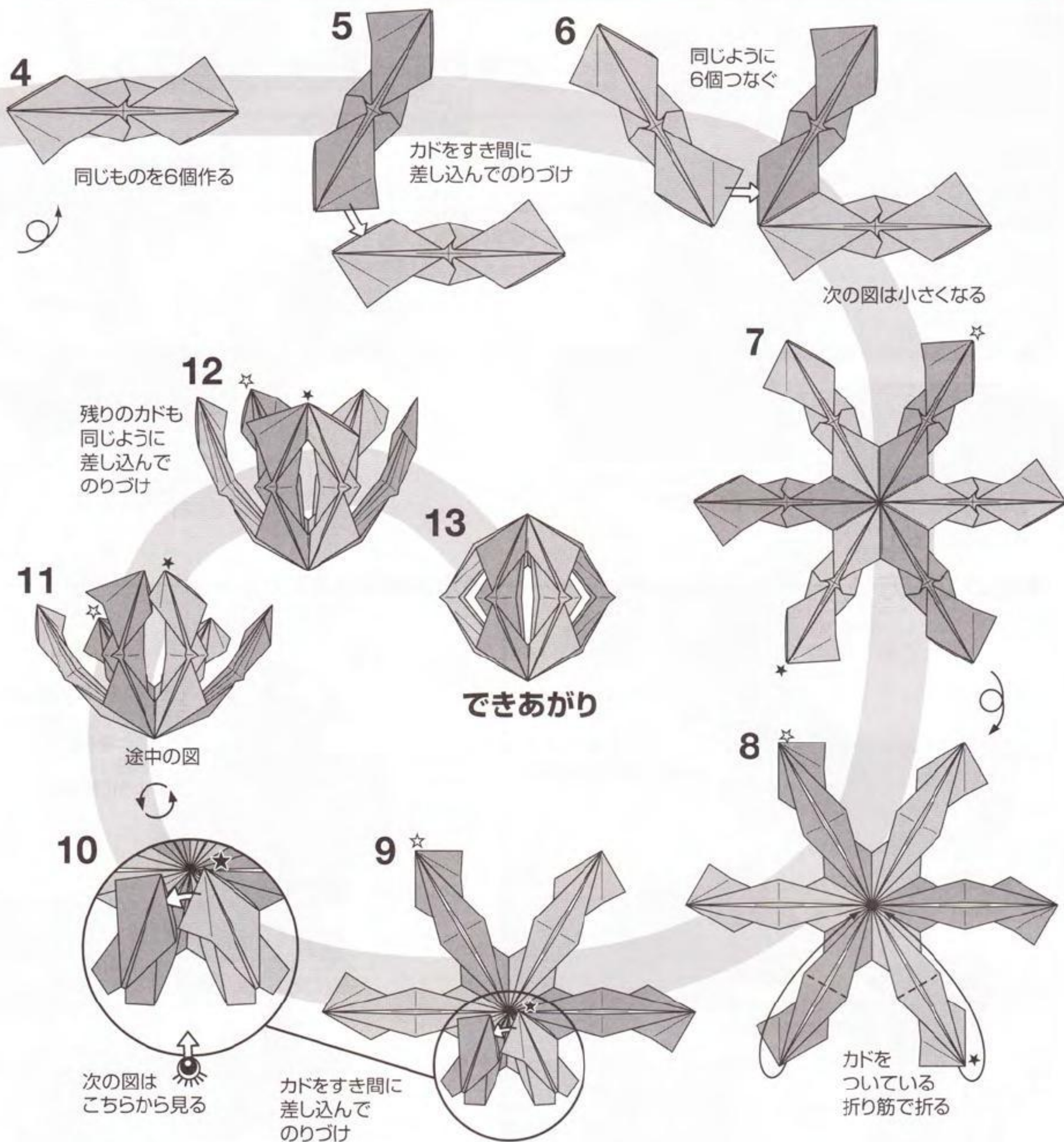
中心に
ライン
ストーンを
貼る

ビーズの下に
玉結びで
結び目を作る

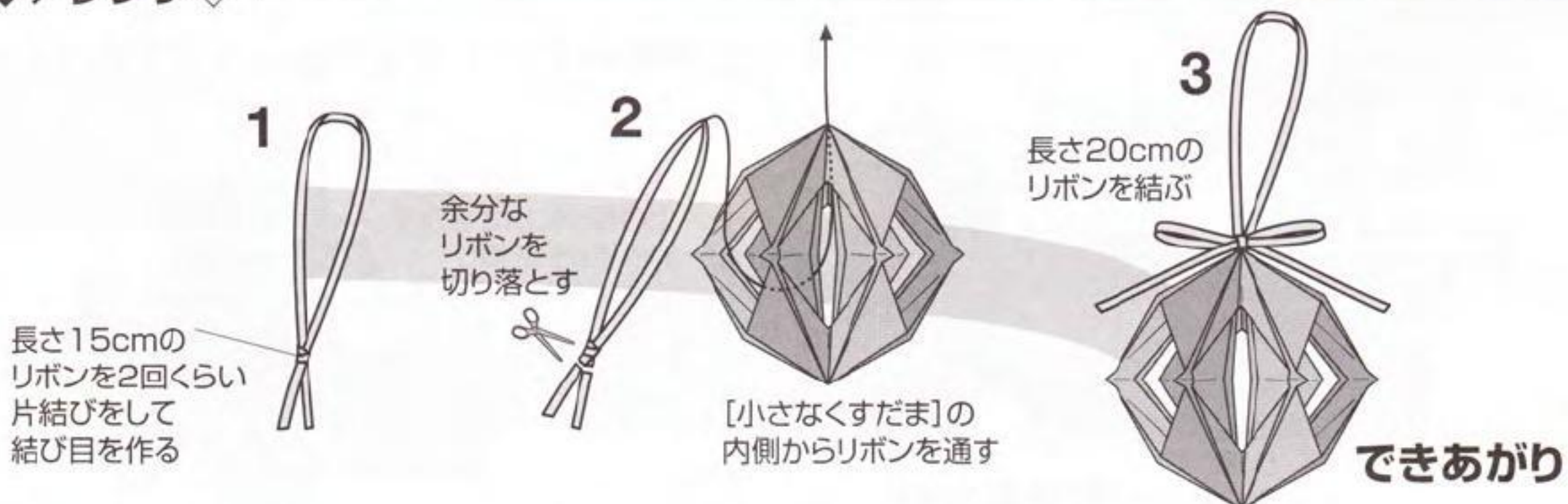
◆氷のオーナメント◆

上の部分に小さな穴を
開けてヒモを通し
ラインストーンを貼る





◆アレンジ◆



第6回折り紙の著作権に関する国際会議

6th International Origami Copyright Conference

報告：小野友彰

Report: Ono Tomoaki

英訳：マルシオ・ノグチ

Translator: Marcio Noguchi

8月のコンベンションが終了した翌19日、第6回折り紙の著作権に関する国際会議がJOASホールで開催された。

司会のアン・ラビン氏より「現状では分散して存在する折り紙の著作権に関する様々な情報を、多くの国の人々の間で共有するため、今後どのように繋ぐか、また、そのために使えるツールについて、議論を進めたい」とオープニングの挨拶があり、続いて西川誠司氏より第5回会議での議論の要約と今回の議論の方向性として、①折り紙データベース(DB)を充実させるための維持管理(多言語でのサポート、リソース)の問題、②折り紙のパブリックドメインとフェアユースの考え方、③折り紙の著作権の考え方の国際調和が掲げられた。そして、今年の折紙探偵団コンベンションのゲストであるロバート・ラング氏から

は興味深い実例の紹介があった。

米国著作権登録制度は強い損害賠償請求権のために有用。日本にこのような制度はない。

■基調講演／ロバート・ラング

＜話題1＞サラ・モリス事件

2009年、サラ・モリス氏の絵画作品に、ラング氏の展開図が使われている事実が発覚。他の折り紙作家の展開図が盗用されている事実も判明し、以後、ラング氏と共同して対応した(但し、訴訟途中で離脱した作家もいる)。米国法下では、創作された総ての著作物は有形化されると同時に著作権により保護されるが、訴訟前には著作権登録が必要。また、著作物の発行後3ヶ月以内の登録によって、法定賠償請求及び弁護士費用賠償請求の両方が可能と

なる。本件では、殆どの作品がその期間内に登録されてはいなかったが、モリス作品が依拠した展開図を収録するラング氏の著書『Origami Design Secrets』は、出版社が発行後3ヶ月以内に著作権登録をしていたので、前記両賠償の請求が可能であった。2011年12月、原告6人で訴訟提起。モリス氏側は、展開図の使用を認めたが折り方を示す展開図は作品ではなく、展開図の使用は「フェアユース」と主張。原告は、展開図もアートであり独立した価値がある旨を主張。2013年2月、裁判所から原告に有利な略式判決が出たことを受けモリス氏側が和解を提案。3月に和解成立し、事件終結。離脱した原告を含む全員について、モリス作品で依拠した折り紙作品の題名及び創作者名が明記されることになった。本件は和解で終結したため判決例とは言えないが、展開図も著作権の観点から保護されるという前例にはなった。

＜話題2＞ダウンロードサイトの構築

書籍のコピーがwebサイトに違法投稿されるのは、本が高価、既に絶版、送料が高額又は郵便事情が悪い、1作品の折り図のみが欲しいので他の作品も収録された本1冊を買うのは抵抗がある、等が主な理由だろう。これらは、本又は1作品単位の折り図を電子ファイル化したダウンロード(DL)販売により解消できる。OrigamiUSAでは、約5年前からDLサイト構築の検討を開始、2012年10月から稼働した。総てのDLファイルには購入者の情報を含めて、DLファイルのwebサイトへの違法投稿を抑止している。電子透かしを破る手間をかけるより、正規ファイルを安価に入手する方を選

- ・開催日：8/19 10:00-16:30 Date: 19 August 2013, 10:00-16:30
- ・場所：JOASホール Location: JOAS Hall
- ・議題：「折り紙データベースの構築と維持、折り紙の著作権の考え方の国際調和」
Agenda: Systematization and maintenance of origami database, international harmonization of mind about origami copyright
- ・司会：アン・ラビン、西川誠司 Chairman: Anne LaVin, Nishikawa Seiji
- ・議事録：ジェイソン・クー、北條高史 Minutes: Jason Ku, Hojo Takashi
- ・通訳：マルシオ・ノグチ、羽鳥公士郎 Translator: Marcio Noguchi, Hatori Koshiro

- 10:00 開会の挨拶／アン・ラビン Opening Remarks: Anne LaVin
- 10:15 第5回会議の要約とその後／西川誠司
Summary of the 5th meeting and subsequent subjects: Nishikawa Seiji
- 11:00 基調講演／ロバート・ラング Keynote Lecture: Robert Lang
- 12:20 昼食休憩 Lunch Break
- 14:00 パブリックドメインとフェアユース／小野友彰
Public Domain & Fair Use: Ono Tomoaki
- 14:40 休憩 Break
- 15:00 自由討論 Free discussion
- 15:50 まとめ、閉会の挨拶／西川誠司
Conclusions and closing remarks: Nishikawa Seiji

出席者：16名 Attendance: 16 people 日本9名(9 from Japan) 山口真(Yamaguchi Makoto), 西川誠司(Nishikawa Seiji), 羽鳥公士郎(Hatori Koshiro), 前川淳(Maekawa Jun), 渡辺大(Watanabe Dai), 川村みゆき(Kawamura Miyuki), 北條高史(Hojo Takashi), 松浦英子(Matsuura Eiko), 小野友彰(Ono Tomoaki) 海外7名(7 from Overseas) Robert Lang(USA), Marcio Noguchi(USA), Anne LaVin(USA), Jason Ku(USA), Nicolas Gajardo Henriquez(Chile), Kyung Lan Kim (South Korea/ morning session only), Sun Ok Yun (South Korea/ morning session only)

会議次第／Conference Program

第6回折り紙の著作権に関する国際会議

6th International Origami Copyright Conference

小野友彰

Ono Tomoaki

ぶことに期待している。

フェアユースに関する著作権法の規定の仕方は日米間で大きく違う。

午後は、まず筆者がパブリックドメインとフェアユースを一般的に解説した。ここでは要点のみの記載に留めるが、報告資料はJOAS図書として閲覧可能なので、ご興味のある方はそちらを確認されたい。

(1) パブリックドメインか否かを判断する際は、様々な知的財産権等の存否確認が重要。

(2) フェアユースは、米国著作権法には適用の幅のある一般条項があるが、日本著作権法には個々の場面毎に細かく規定された著作権制限規定が多数設けられているという違いがある。

■自由討論

＜JOAS指導員向けポジティブリストを
発表した件について＞

ラング：米国でも同じ企画をした際に、各自が認める内容をチェックボックス形式で例示しようとしたが意見がまとまらず、また、Origami Authors and Creators (OAC)で呼びかけたが反応がなかった。

前川：情報や権利のリリース自体が、折り紙にはそういう権利があることのアピールになる。

ラビン：折り紙団体がモデルとなり、いかに考えいかに行動すべきかを、会員や一般人に周知できるだろう。

クー：折り図を使った講習をする権利を扱うことも考えてはどうか。

西川：将来的に折り図単位でDL販売も考えたいし、ラング氏が立ち上げら

れた上述のDLサイトは直ぐにでも使えることになる。

羽鳥：日本法では非営利であれば著作物の利用が広く認められるが、コンベンションのように大会全体に参加費があったり、何かのイベントの宣伝の一部だったりすれば問題で、法上の非営利の条件は厳しい。

クー：将来的には講師が指導料を受領する団体が出来るかもしれない。

ラビン：米国法では非営利性は侵害成立性で重視されるというよりはフェアユースの構成要件の1つに過ぎない。

西川：今回のJOASのリストは高額でない限り営利的な場合も許容することを明らかにした。

＜各作家の独自の表明等について＞

川村：ホームページで使用方法を記載する作家はいるか？

羽鳥：日本では多くの作家が自身の作品の許可形態を書いている。

ラング：米国では殆ど書いていない。

川村：「この作品を講習で教えたいので作者に許可をとってくれ」と依頼されることは多いか？

ラング：作者に直接問合せてくれ、というのが基本。

山口：その種の問合せは日本でもあり、連絡先がわかれば転送して作者自身に答えてもらっている。

キャラクターものの取り扱いなどその他多くの議論がされた。議事録はJOAS図書として閲覧可能なので詳細はそちらで確認されたい。

The chair Anne LaVin opened providing an overview of the objectives of the conference: discuss

how to collaborate with people of diverse countries holding various information on origami copyright which are currently spread out; how it will connect to the future; and tools that could be used to facilitate it.

Nishikawa Seiji followed sharing the directions based on the 5th Conference:

1) The questions (like language, resources) for maintenance and operation of an Origami Database (DB);

2) The concept of fair use and public domain of origami;

3) And setting forth the concept of international harmonization of the concept of origami copyright.

Next, Robert Lang, special guest of this year's Origami Tanteidan convention, presented some interesting facts of a case.

The U.S. copyright registration is a useful system providing strong rights for damages, however such system does not exist in Japan.

Topic 1 - The Sarah Morris Case

In 2009 it was found out that Sarah Morris was using crease patterns of Robert Lang to create colored art. In addition, as the case developed several other artists were identified having crease patterns affected. So, a collaboration with Robert Lang was formed to address the situation (although a few had to leave during the progress of the litigation). While in the US all creative works are automatically protected by copyright upon being established in a tangible form, a registration is required before legal actions are possible. And if registered within 3 months, statutory damages may apply (attorney fees and

○小野友彰(おの・ともあき) = 1978年大阪生まれ。弁理士。都内の特許事務所勤務。特許や商標等の知的財産に関わる業務に従事。折り紙に関してはティーバッグの包み紙を使った作品創りに没頭。



legal claims). In the Sarah Morris case, most of the works were not timely registered, however, because "Origami Design Secrets" was timely registered, statutory damages would apply. The lawsuit was filed in December 2011, with six plaintiffs. Sarah Morris claims that her art was based on "fair use" and transformative clause of the Crease Patterns. The plaintiffs thought differently considering crease patterns having values above and beyond their instructional purpose. In February 2013, after the court ruled favorably to the plaintiffs, Sarah Morris proposed a settlement. The settlement enacted in March, and case was dismissed. Agreed that attribution would be recognized including all the six original plaintiffs. As the case was settled, that means that it will not constitute a precedent. However, it is possible to recognize Crease Patterns as an item protected for future references.

Topic 2 - Building the File Download site

The illegal download sites on the web of origami books and diagrams had been justified because of high costs of origami books, or being out of print, and expensive shipping costs, or resistance to buy an entire book just for one diagram, among others. The proposed solution is enable the sales of file downloads in electronic format either of a complete book, or a single diagram. OrigamiUSA started the construction since the concept of file downloads five years ago, going live in October 2012. In order to prevent illegal posting of download files, all files contain a watermark with the information of the buyer. The idea is that people will chose an inexpensive and legal file as opposed to the efforts

involved in removing the watermark.

Differences between Japan and the US with respect to the provisions of the Copyright Act associated to fair use.

The afternoon session began with general descriptions of fair use and public domain. This report will focus only on the main points, but those interested can consult the complete report available at the JOAS library.

(1) In order to determine whether it is public domain or not, it is critical to check various aspects of intellectual property rights.

(2) The fundamental difference of definition of "Fair Use" is apparent between the general terms of the US copyright laws and detailed prescription of a large number of individual clauses of the Japanese system.

Free discussion

<The "positive" list presented towards the JOAS Instructors>

Robert Lang: When a similar initiative was proposed in the US, it was not possible to reach an agreement in terms of the checkbox format and content. In addition, there was no reaction from the Origami Authors and Creators (OAC) community.

Maekawa Jun: The release of the information and permissions in itself will appeal to the fact such rights do exist in Origami.

Anne LaVin: Origami organizations should play a role model to convey to the members and general public on how to think or act.

Jason Ku: The question on the use of diagrams for the purpose of education.

Nishikawa Seiji: In the future, we would like to think about the sales of downloadable individual diagrams, and

make use of said File download site right away.

Hatori Koshiro: In view of the Japanese laws the use of copyrighted material is recognized for non-profits. However, it becomes more difficult when fees are charged for a convention, or if it becomes part of a commercial of an event.

Jason Ku: In the future, it might be possible for organizations that will charge fees for instructors.

Anne LaVin: In the US laws, being a non-profit is merely a required condition for fair use, but rather the focus in on creation of copyright infringement conditions.

Nishikawa Seiji: It is clear that the JOAS list also allows commercial cases as long as it does no involve high prices.

<Individual comments>

Kawamura Miyuki: Are there creators who describes the conditions of use of their work in their web site?

Hatori Koshiro: Many creators in Japan have written permission forms of their own work.

Robert Lang: In the US it rarely happens.

Kawamura Miyuki: Does inquiries on permissions needed in order to teach particular models happen frequently?

Robert Lang: Our usual reply is to try to contact the creator directly.

Yamaguchi Makoto: Such inquiries are also common in Japan. As long as the contact of the creator is known, we request a reply from the creator themselves.

There had been a lot of discussions around the topic of the use of characters (from comics and animations). For those interested, details of such discussions are recorded on the minutes, available on the JOAS Library.

蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

最終回 おりがみ大河は、やがて「おりがみの大海」へ
The Stream of Origami Flows into the Ocean

笠原邦彦
Kasahara Kunihiko

どんな大河も、いずれは大きな海へと至ります。おりがみにおいても、具体的に考えて、いろいろな分野の、膨大な傑作たちが群れ泳ぐ大海の様は、想像するだけでもワクワクします。

さてかつて、季刊雑誌『をる』という、おりがみ愛好者にとっては、正に夢の雑誌が発刊されることがありました。双樹舎という出版社のこの上なく有難い企画でした。それは1993年夏から97年春までの4年間に、トータルで〈16巻〉の出版が実現されました。これは正しく〈おりがみの黄金期〉だと思っています。

さて私はその創刊号で「おりがみの大河の流れ」と題した、歴史パノラマ図を紹介しておりますが、それは最後に〈大海〉へと至る図となっています。ただしここでは、具体的な作品ではなく、川面に個性的な大波を立てた人やグループのお名前の紹介というものでした。

でも今、改めて思い描いています。その〈大海〉はどんな様子なのだろうか？と。

おりがみという〈壮大な夢〉には、百人百様、膨大な夢が有るのでしょう。かくて私一人の夢などは、賛否拮抗のものだと思いますが、あえて申し上げようと思います。

近未来のおりがみの世界像、それは、「幾何学と結び付いた“簡素簡明なもの”と、技術面での極限を追求した“超コンプレックスな技術によるもの”、そんな両極端の〈楽しい共生〉」が、その実際だろうと思っています。そして、超コンプレックスな技術のものとは、

一面では〈制約美〉のものとも言えるでしょうが、それはむしろ「高度なパズル世界」に等しいものだと思います。

かくて造形面での前者は、いわゆるおりがみ美術論の「おりがみ独自の象徴美の世界」を示すと共に、後者「パズル世界」とで指と頭の体操との、そんな2面性の合体した世界なのだろうと思っています。第4話で言いました「論理と叙情の融合」ですね。

ところでおりがみにはもう1つ、きわめて大事な分野が在ります。それは、三浦公亮先生が開発された「ミウラ折り」に代表される〈機能性の驚き〉の探求です。でもこの場合でも、〈遊び心〉は必要です。三浦先生はご講演で、「缶ビールをぐっと飲み干して、その勢いで缶を踏み潰す！ そのとき出来る折り筋の解析から導き出したのがミウラ折り！」。…ほらね！ 遊び心満々ですね！

さてこの度、初めて『探偵団マガジン』に連載をさせていただくことになりましたが、文字ばかりで具体的な造形の折り方図のない連載では、きっと人気は出なかつたと思いつつ書きましたのですが、…そうです！…思い出します。以前、伏見康治先生が言っておられました。「絵や写真の少ない教科書はまったくつまらない」と。ところが実に幸いなことに、東京書籍と大阪書籍との2社の発行する中学生の数学教科書に、私のキューブなどが採用され、前者のものは今現在も用いられているのです！ かくて私のおりがみの夢は完結したごとくですが、でも、おりがみ遊びの楽しさに終点はありません。だから生涯楽し

むつもりです。そして傑作を求め続けるでしょう。

かくて最終回では、数年前の会心作を1つご紹介します。…が、図をご覧になって、もしかするとある人は、「なんじゃこれは！ 幼稚なくやっこさん」の折り変えじゃん！」などと非難されてしまうかも知れませんね。でもこれ、私の絶対の自慢作例なんです。…そもそも「庵主（あんじゅ）さん」というタイトルからして自慢です。素晴らしい女性、瀬戸内寂聴さんへのオマージュ!? …そしてこの作例、作ろうとして出来たものではなく、部分反転パズルを考えていた中で、ひょっとして出来てしまった（出来ちゃった作品?!）なんですよ。内山師の言葉「傑作とは作ろうとして作るものではなく、自然に生まれ出るものに多い」。ねっ！ うっふっふ。

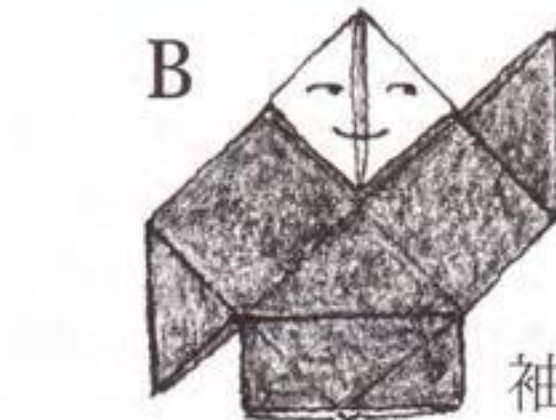
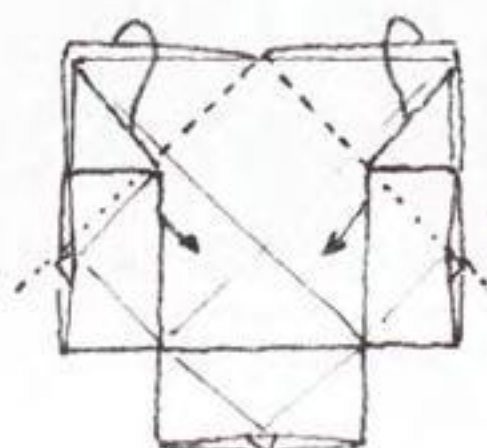
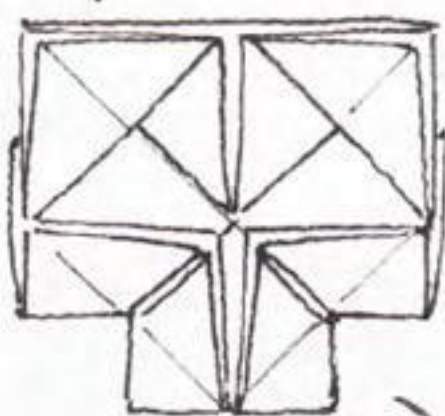
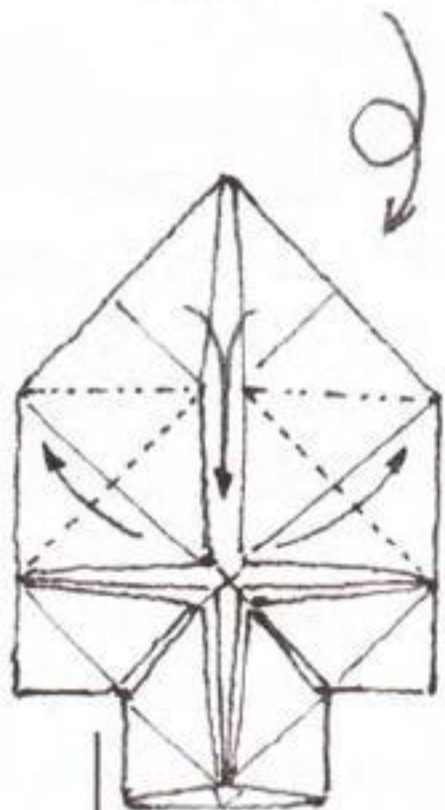
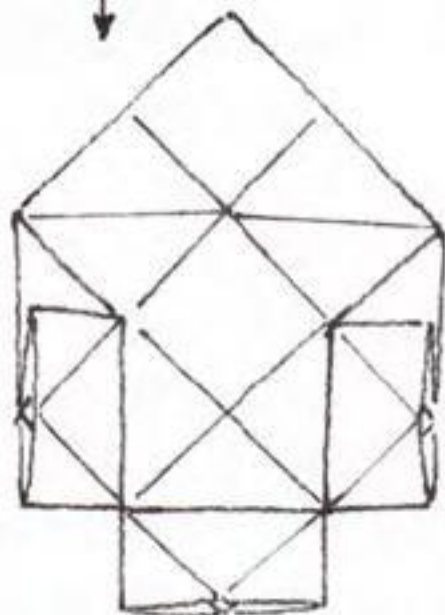
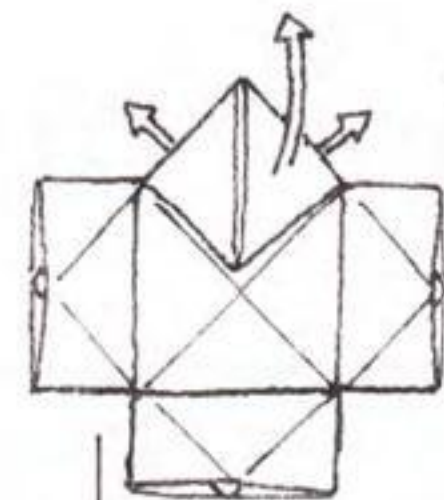
そしてこのずっと前には、「やっこさん」→「虚無僧（こむそう）」→「薦僧（こもそう）」との時代の流れを遡行しての思案から、多くの具体例を手にしたものの、…そんな難解な作品名ではなく、今の若い方にも判ってもらえるだろう「托鉢僧（たくはつそう）」あるいは「お遍路（へんろ）さん」という、我ながらほれぼれする造形（A図）をモノにしてより「やっこさんの百変化」を実践した中で、私の終生の追求テーマ〈女性美〉と〈立方体〉の、その前者での収穫の1つが、この「庵主さん」だった！ …そんなくらいに気に入っているのです！

1年間のお付き合いに感謝しつつ、ではこれにてバイバイと「袖振りやっこ（B図）」??

○笠原邦彦(かさはら・くにひこ)＝
おりがみ解説書中心の著述が私
の職業です。編著書数は現在
170。手づくりおもちゃの本なども
書いています。



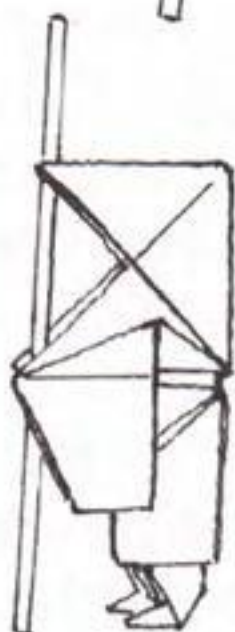
「やっこさん」からはじめます。



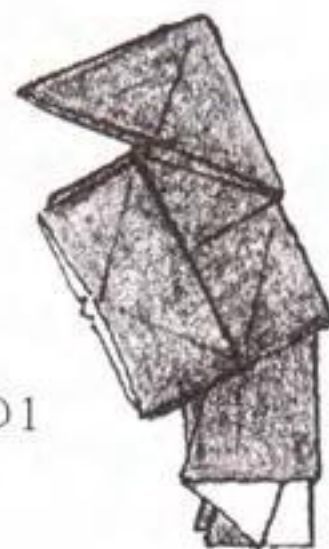
袖振りやっこ



お遍路さん
長方形1枚



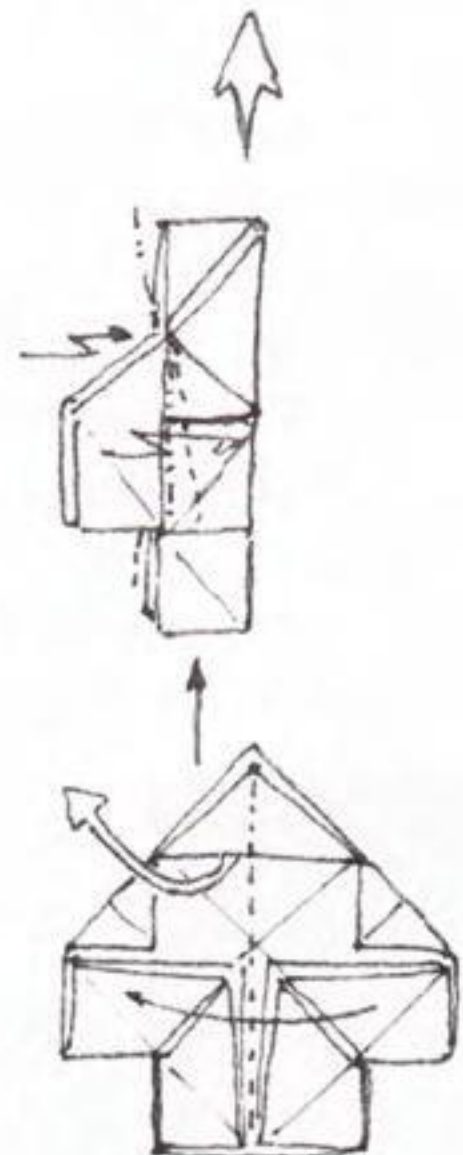
托鉢僧
正方形+4分の1
の「複合」



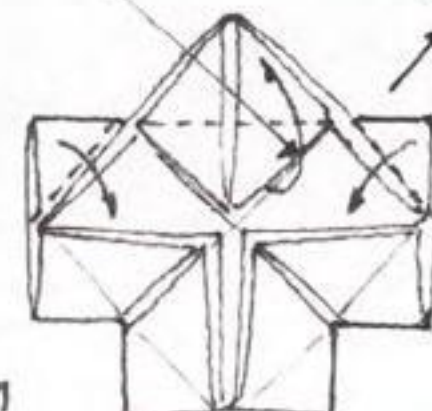
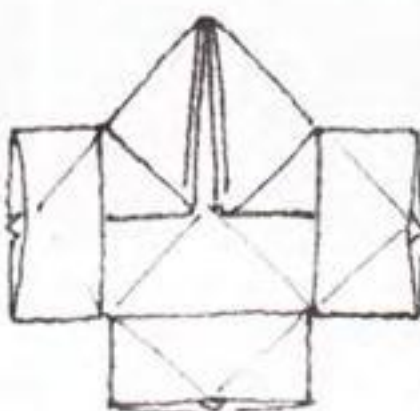
托鉢僧
正方形1枚



あんじゅ
庵主さん



この1折りが、捨てようと思
った造形を、傑作に導く



折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

北條高史

Hojyo Takashi

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

38冊目『エリック・ジョワゼル —折り紙のマジシャン—』 おりがみはうす刊

“ERIC JOISEL -The Magician of Origami-” by Origami House

本書は、2010年10月に亡くなったエリック・ジョワゼル氏の、「折紙作品の写真集」であり、「作者による解説集」である。

写真ページと文章主体のページ（作品解説・インタビュー）がほぼ半々となっていて、構成は美術展の図録に近い。多くの作品について、その所有者・所蔵場所に関する情報も添付されている。

本書の前半ではほぼ時系列に沿って、ジョワゼル作品の変遷を、複数の角度から撮影した美しい写真で追ってゆくことができる。さらに後半では、山口真氏によるインタビューや、2008年の折紙探偵団関西コンベンション講演を含めた作品解説が、豊富な文章で展開される。近年のおりがみはうすガレージブックシリーズと同様、立石浩一氏の翻訳による日英併記仕様となっている。

全144ページの本文のなかで、一般的な意味での「折り図」は、2作品ぶん・6ページしか掲載されていない。また、展開図は複数載っているものの、山谷の区別もないし、全体の構成を正確に写し取った図でもない。「その通りに折ることによって、

基本形に至ることが可能な記載」になっていないのである。他人がそのまま作業着手できるような内容ではなく、作者が自身のためだけに描いた、おおまかなメモ的な状態なのだ。

ジョワゼル氏が「蛇腹折りによる基本形作製過程を終えたところでの仕上げ加工」に大きな比重を置いていることは、その作品を見れば明らかである。そして本書では、ジョワゼル氏本人の意見としても明確な記載がある。「幾何学的側面や折りたたみそのものは私にとっては退屈な作業でしかありません」(p. 118)という部分が特徴的だ。その他にも、「この段階では、幾何学的ではありますが、作品はまだ死んだままです。ここから私の『本当の仕事』が始まります」(p. 104)、「この時点までは全く幾何学的でおそろしく醜い造形です」(p. 128)などがある。

このような刺激の強い言い方は、必ずしも表面的にそのまま捉えるべきではないし、幾何学的な設計手法（特にボックスブリーツ）を頭ごなしに否定しているものでもないだろう。展開図を折ったところはいくまで途中経過であり、その上でさらに、非常識なほどの多大なエネルギーを作品に注ぎ

込む彼ならではの表現だと思う。本文中ではそれらの過程（展開図をたたくことと、それ以降の仕上げ）の比率をほぼ半々と述べているが、実際には3対7、もしくは2対8ぐらいなのではないか、という気がする。

ジョワゼル作品ではすべての制作時期を通して、非常に細かく手間をかけた、重層的な作業が目を見く。しかしこれらのなかから「部分構造」を切り出してみると、実はそれほど「凄まじく理解し難い」ものではない。誤解を恐れずに書くと「コンプレックス折り紙を続けて技術を蓄積した者ならば、完成形を見るだけで、或る程度簡単に把握できるほどの、わかりやすい部分構造」なのである。

全体構造の中で、これらの部品どうしのバランスを調整するのは大変なことだ。その部分が全体の中でどれだけの比率で埋め込まれているか、ということを確認にしてゆくには多大な手間がかかる。けれども部分ごとに分けて見れば、「この部分ではこのような技術を使っている」ということが或る程度容易にわかってしまう、ということなのである。

加えて、この段階まで見通すことが

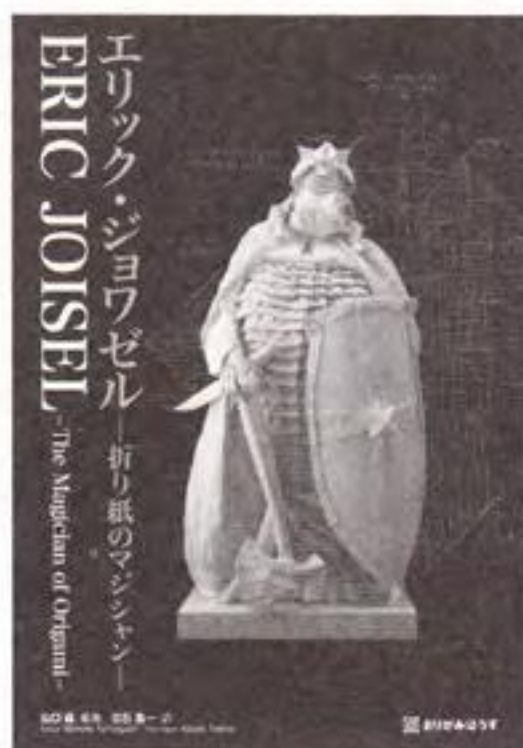


図1 表紙

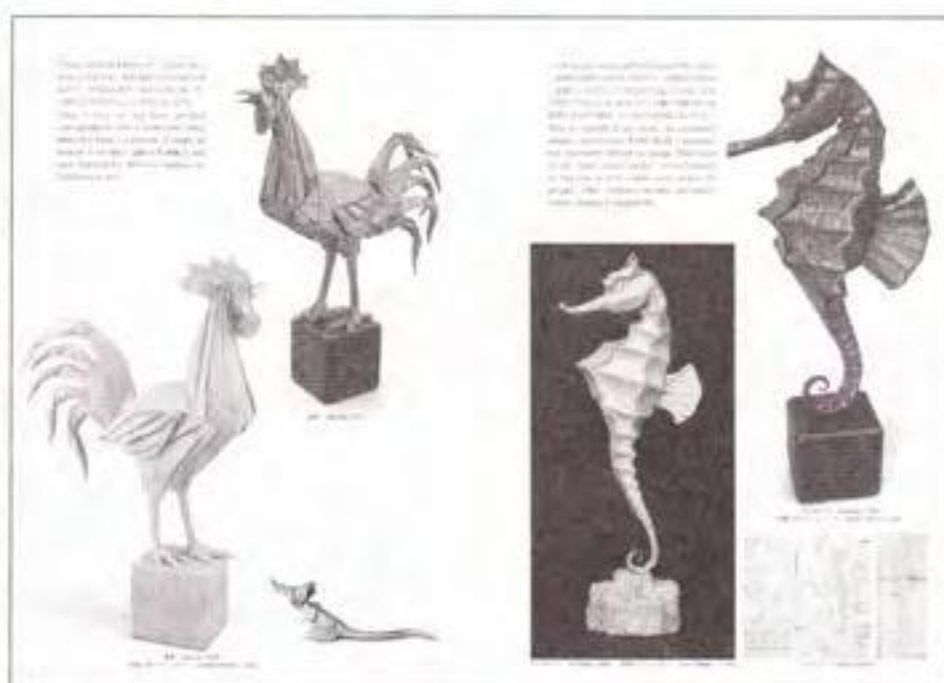


図2 曲線折りやコーティング塗装を駆使した作品群



図3 「Barbarians」シリーズでは、造形がさらに高密度化してゆく

○北條高史(ほうじょう・たかし)＝日本折紙学会評議員。今年の5月に発表した新企画「GAIKOTSU PLANET」を少しずつ進めています。この作品群を見て「あの人、一体どうしちゃったんだろう?」と思ったかたもいらっしゃるかもしれませんが、ご心配には及ばず。もともと昔からこういうカンジのヒトです。



できる者ならば、本書収録の(作者が自身のために描いた)展開図を見れば、おおまかな全体構成を理解できてしまう。

しかしそのように、構造がわかるのに、わかっているにもかかわらず、他人では仕上げ加工やポーズ付け、細かい表情などを再現できない。この点の重さ・凄まじさは、熟練者になってくると余計に身にしみてくることであろう。

「この本を見ても、他人が再現できない」状態の作品でほとんどが構成されている折り紙の本。一般的な「折り紙の本」と比較して、かなり珍しい位置付けになっている。

しかし、ジョワゼル作品については、このような形式で紹介してゆくことが最も適しているのではないかと、筆者(北條)には思える。

「再現性にも重点を置いて創作をしているタイプの作家」による本に対しては、折って楽しめることを期待することは当然である。しかし、美術展の図録では、作品ひとつひとつの作り方が詳しく載っていることはほとんどない。それに、再現性を高めるための説明を作者に求めるのも適切な

ことではないだろう。

「美術展の図録では…」という言い方は、「他の分野では、…」という言い方を常に持ち出す人のような、舶来モノを礼賛するような嫌味な雰囲気だ、と思う人もいらっしゃるだろう。しかし、少なくともジョワゼル作品については、「他人が再現することにはそもそも適していない、他人による再現など出来なくても全然かまわない唯一の存在」という意味で、既存の概念の中では「美術作品」に近いとらえ方が最も適しているのだろうと、筆者には自然に思える。再現性のあるなしで優劣がどうのこうの、ということではないけれど、そもそも、多くの人々が持っている感覚に於ける「折り紙」とは、かなり方向性の違った世界になってしまっていると思えるのだ。

すでに述べたように、本書ではほぼ時系列に沿って、ジョワゼル作品が変化してゆく様子をまとめて見ることができる。

しかし、そうやってまとめて見ると複雑な気分になってくる。ジョワゼル氏の体調の変化、癌の発症による疲れやすさや苦痛と、作風の変容が表裏一体のものだったのではないか、

と思えるからだ。

本書の作品解説の中にも、体力が続かなくなってきたこと、エネルギー切れしやすい状態を思わせる表現がいくつか出てくる。作風の変化は、「自身の力では、すべての要素を統御できなくなった」ことの象徴でもあったのだろう。

筆者は個人的には、「Barbarians」よりも前までの、「白い作品群」になる前の作品が好みだ。「微細加工やコーティング塗装で、すみずみまで作品をコントロールし尽くそうと息巻いているようなタッチ」が見える時期であるからだ。

「Barbarians」のような、コーティング塗装を施していない「白い作品群」が登場し始めたとき、鈍感な筆者はあまりこの点を気に掛けていなかった。新作群の写真を山口氏から見せてもらったときも、「素材の微小な部分までをすべて自分でコントロールしていたところから、素材自体に内在する魅力をなるべくそのまま活用する方向に発展し始めたのか」という認識しかしていなかった。結果的に、ジョワゼル氏の新たな方向性に圧倒され、「これまでの超絶技巧の上に、さら

に素材そのもののエネルギーや軽さまでも味方に付けて、どんどん遠い存在になってゆく」ジョワゼル氏を呆然と見守っているだけだった。

ジョワゼル氏が癌に侵されていることを知ったのは、それからしばらく経ってからのことだった。

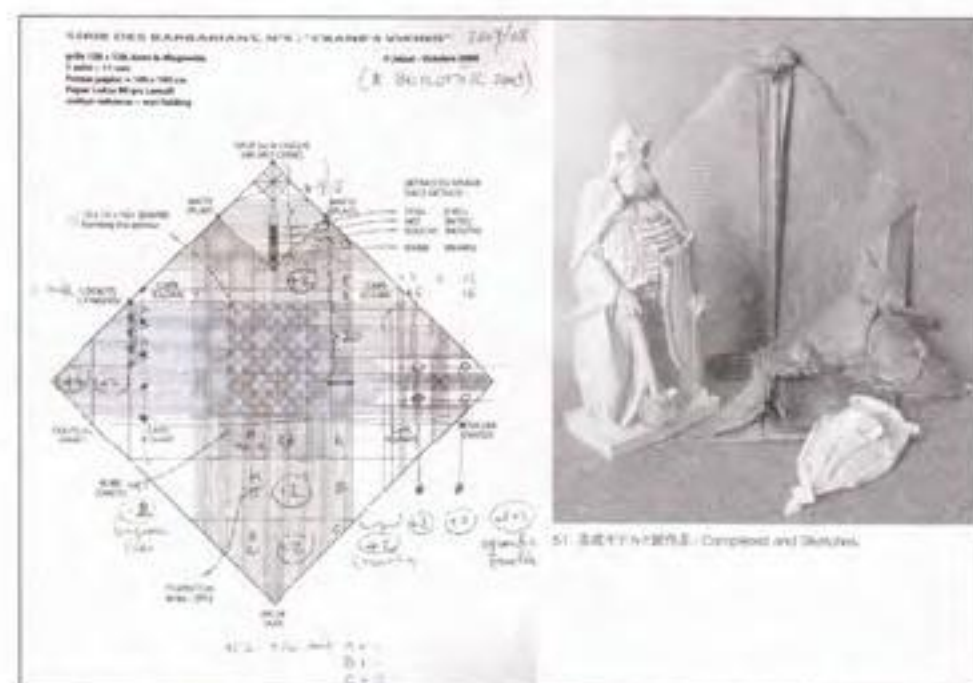


図4 本書収録の展開図は、だいたいこのような雰囲気



図5 7体の人物像による「7つの大罪」の構成を目指しながらも未完となった「Commedia dell'Arte」

ぼくらは 折紙探偵団



Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

第10回 中学校教育における折紙の活用

Uses of Origami in Junior High School Curriculum

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探究し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

福島邦幸

Fukushima Kuniyuki

学校教育における折紙と言われると、算数や数学などの教科に使っているのかと思われるのではないのでしょうか。そこで、今回は「中学校教育における折紙」の活用事情に注目したいと思います。

■中学校教育の現状から

今の学習指導要領や教育課程を考えたとき、数学などの教科に折紙が入る余地は非常に少ないのが現状です。理由は、指導内容と授業時数の問題になります。指導する内容は、学習指導要領に記載されていますが、指定の教科書を使いながら指導要領の内容をクリアしていくことになります。その教科書に沿った形で、折紙を理解の補助としての時間を確保することが難しいのです。また、導入しようとしても図形の分野の一部となり、特に折紙でなくてはならない理由もありません。それより、最近では、コンピュータの図形のソフトが主流となっています。他に美術という教科も思いつきますが、折紙が活躍できる題材はないようです。

■ちょっと前までは

平成14年の学習指導要領改訂までは、中学校の教育課程の中にクラブ活動という時間があり、生徒のニーズを考えて、教師がいろいろなクラブを設定し活動できる時間が確保されていました。折紙クラブを創設することもできました。また、総合的な学習の時間の授業時数も多く、学校や教師の特色を生かした取組を計画することができました。その取組の中で、折紙を取り上げることもできまし

た。このまま残っていれば、折紙の取組が脚光を浴びていたかもしれません。しかし、残念ながら、現在は、クラブ活動はなくなり、総合的な学習の時間の時間数も大幅に減り、折紙を中心においた活動ができなくなっていました。

■教科からの脱皮

それでは、折紙を教育に活用することはできないのでしょうか。そうではありません。

直接折紙を教科の指導に関連させなくても、学校教育に生かせる方法が別にあります。それは、次の3種類の方法です。

○特別支援学級での活用

小中学校の特別支援の学級は、肢体不自由、知的障害、情緒障害、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害に分類されます。在籍する生徒の障害によって支援する学級が設置されています。この特別支援学級において、折紙が活用できないか考えました。

たとえば、片方の手だけ使うことができる肢体不自由の生徒では、不自由な方の手との連携を良くするために、単純な二つ折りを正確に行う作業を折紙で学ばせるのです。目標を持って、一つ一つの作業をしっかりとできるようにするため、最終目標作

品を「伝承の鶴」にするなど工夫します。これは、折紙という媒体を、作業訓練に役立てる例です。

また、多動の知的障害を持つ生徒の中には、折紙が好きな子もいます。この種の障害を持っている生徒は、落ち着いて学習に取り組むことができません。しかし、好きなことへは夢中で取り組みますので、折り図を1時間落ち着いて読み、作品を完成させることを目標にします。同じことを嫌がらず繰り返すタイプの生徒には、ユニット折りを、推奨しています。特別支援学級の多くの生徒たちは、ポイントを丁寧に指導すると、嫌がらずに作業を繰り返すことができるので、少しずつですが、技術を向上させることができます。そして、完成した作品を校内に展示すると、学習意欲が向上し、次の取組につながります。この取組は、普通学級に在籍する発達障害を持った生徒にも活用できると思います。

以上から、折紙を特別支援学級の学習に取り入れることは、個々の状況によっては大変有効な手段だと思っています。また、発達障害を持つ生徒の中にも、折紙を活用することによって自信を持たせ、生かすことができる可能性もあります。しかし、これは生徒一人一人のことをしっかりと理解した上でのことです。すべてに当てはまることではありません。

○心の醸成をねらった活用

折紙作品を学校内に展示するだけ

○福島邦幸(ふくしま・くにゆき)

=1955年仙台市生まれ。1991年7月から折紙探偵団の会員となり、現在に至る。折紙きやらばんに地元宮城県人として参加。仙台市で折紙学会のイベントを計画している。職業は、中学校長。



で、心が和む生徒がいます(写真1)。来校する方々も同じです。折紙は、心の醸成に役立つものです。

学校には、学級活動のように学級で独自に計画できる授業があります。そこで、遊びの中で、折紙を使った想像力やコミュニケーション能力の向上を図る取組も

有効です。例えば、「コットン・コン」などの折紙

を使ったゲームです。折るという作業だけでなく、競い合わせる中で、協調性やコミュニケーション能力を養うという学習です。遊べる折紙を学級作りや人間関係の構築に使う取組です。

このような折紙の活用は、他にもあります。学校にはいろいろな行事があります。その中で、学校として表彰するもの、例えば、学級で見えないところでしっかりと貢献してくれた生徒に賞を贈るとします。人は誰でも、

素晴らしい賞状や賞品がほしいものです。このとき、トロフィーの代わりに写真2のような折紙ならどうでしょうか。受賞した生徒が、周囲から認められ、表彰されることは、今後の励みとなり、心的向上に寄与すると考えます。

★トリビア★

戦後最初の昭和22年の小学校学習指導要領、第1学年の図画工作編の教材に「折り紙」があった。昭和33年度の改正で削除された。

○部活動や趣味・特技としての活用

折紙好きの生徒はどこにもいます。能力やモチベーションは、まちまちですが、個々の技能を向上させたいものです。折れるようになると、楽しいものです。中学校の部活動には、美術部などの文化部があります。ここで、指導者さえいれば、折紙に取り組ませることが可能です。文化祭などの目標に向かって作品作りをし、周囲から好評を博せば、本人ばかりではなく、周囲の折紙に対する興味関心

も深まるものと思われます。

■おわりに

人間には好き嫌いがあり、折紙ですべての児童・生徒を教育していくことは、当然できるものではありません。それぞれの特性や性格を考えて、

適切に活用する必要があります。児童・生徒全体に対

して、折紙作品の芸術的付加価値を高め、魅力ある教育活動の道具にしたいものです。それは、児童・生徒の意欲を喚起し心的側面を醸成させることが大切であると思っているからです。

しかし、ただ作品がほしいという物欲にだけ走り、本来の目的から逸脱するような形になりかねない危険性も含まれています。それらのことを十分理解した上で、適切に活用すれば、折紙は、大変有用な幅の広い教育アイテムであると言えます。



写真1 折紙に対する興味関心が深まるように、児童・生徒ばかりでなく、保護者や地域住民も鑑賞できる折紙ギャラリーを校舎内に設置

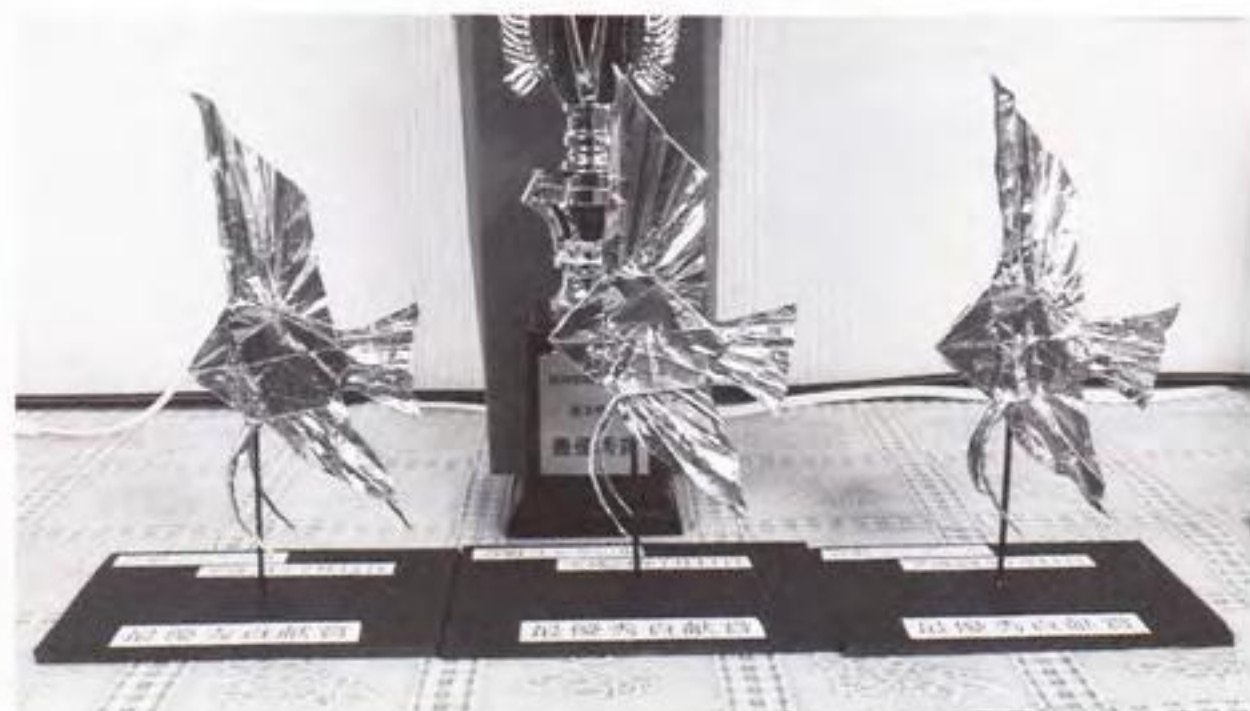


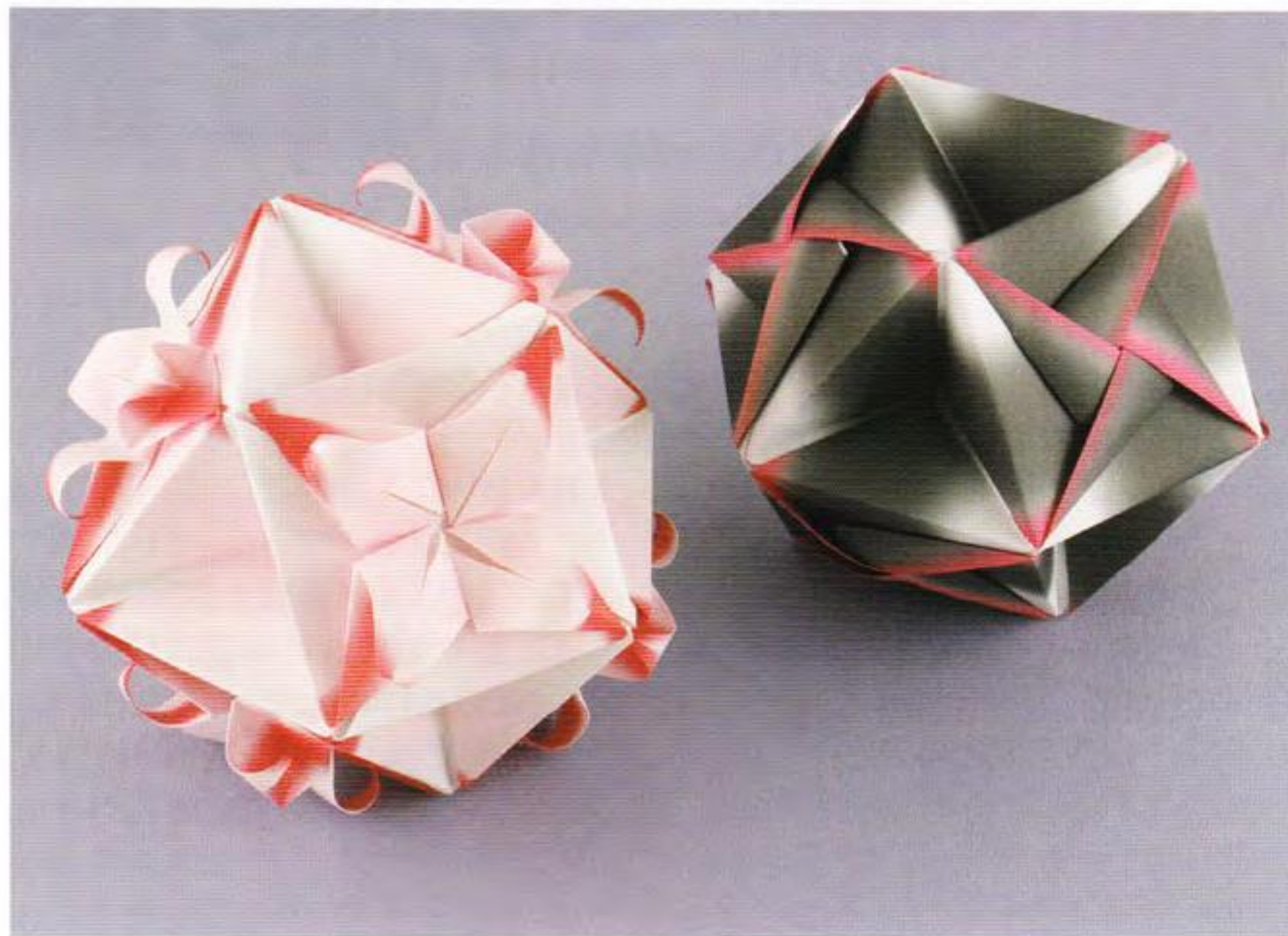
写真2 合唱コンクールのトロフィーに折紙作品を活用。作品は神谷哲史氏作「パールテールエンゼルフィッシュ」(本誌120号折り図掲載)

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

急な温度変化に対応して、体の制御プログラムが自動的に更新されてゆく気がする時期。冬が得意な体質の人も、夏に耐えられるタイプの人も、日々の感覚変化を細かく追ってみると新たな発見があるのでは？



「にそう舟の切り子」
作：布施知子(P. 4)

A Twin-Boat Facet:
Fuse Tomoko (P.4)

■伝承の「にそう舟」がユニット部品となり、舟の舳先だったカドがさまざまな模様や突起に変化します。多様な彩色・印刷がなされた紙を使って試行錯誤し、それぞれの組み方・形状にしたときに映える紙を見つける過程もまた楽しいものです。折る前には思いもよらなかった取り合わせが、実際に手を動かす中で次々に、万華鏡のように発生します。

「氷の結晶」 作：やまぐち真(P.8)

Snow Crystal: Yamaguchi Makoto (P.8)

■同じ部品を使って、印象が大きく異なる2通りの完成形を得られるユニット。「平面的に組んだ場合」「立体的に、くす玉型にした場合」のそれぞれについて、飾り方・活用方法の例も紹介しています。ビーズやリボンなど、作品に追加して使えそうな素材を集め続けていると、いつのまにか際限なく増えてあふれかえっていきるので要注意!



吊るし飾り



小さなくすだま





「ポニー」 作：川畑文昭(P.26)

Pony: Kawahata Fumiaki (P.26)

■折り図になっているほうの「ポニー」で基本的な構造と作業の流れを把握したら、3Dモデル制作への準備は完了。「折り図があればなんとかなるけど、展開図は苦手…」というかたでも、「このような魅力的な完成形を得られるならば、展開図に挑戦してみてもいいかも」という気分が湧き上がってくることでしょ。

展開図折りでは、「初歩的な作品から段階的に進めてゆく」ことが上達への確実なルートであることは間違いありません。しかし、「かなり難しい部類だけれども、どうしても折りたい作品」にいきなり挑戦するのも有りだと思います。もちろん道は平坦ではありませんが、何度も何度も失敗しながら「それでも、もう一度!」と挑戦する中で身についてくるものは、なにものにも代え難い財産となるはずですよ。



「ポニー(3Dモデル)」 作：川畑文昭(P.38)

A 3D Pony: Kawahata Fumiaki (P.38)

PCOCコンベンションレポートより(P.41)

A PCOC Convention Report (P.41)

Yuri and Katrin Shumakov



▲シュマコフ夫妻の展示はいつ見ても圧巻。このジオラマは、アルバカーキのールドタウンにある教会を中心に表現している

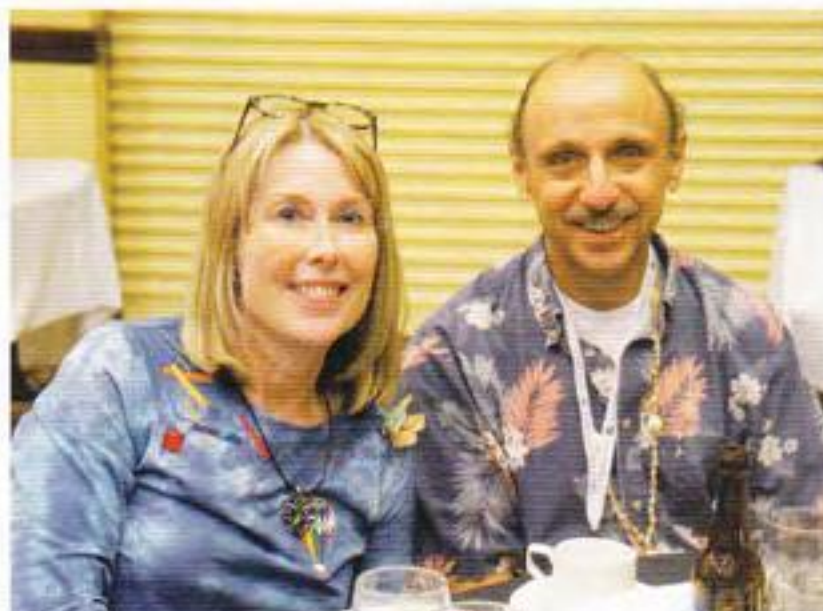


Beth Johnson

▲ベス・ジョンソンさんは、最近注目されている女性作家。川崎氏のレポートにも名前が出ている



▲「ピントレード」は、PCOCでも行われた



▲今回のPCOCで中心となって働いていたパティ・グロードナーさんとそのご主人



▲現在カナダに在住のロシア人、シュマコフ夫妻



▲有名なアルバカーキ国際バルーンフィエスタ。この日は550基が上がったそうだ



▲ロバート・J・ラング氏の鶴のデザインを用いた鶴と折り鶴のモニュメント。このほかにも、折り紙作品を用いた彫刻が展示されている
<http://www.sculpturegarden.com>



Beth Johnson

▲こちらは、今年のNYコンベンションでも人気があった作品で、講習風景はテレビ東京の報道番組でも紹介された

ハンガリー折紙協会コンベンションレポートより (P.39)

A Report of a Convention of
the Hungarian Origami Society (P.39)



▲ハンガリー・ペーチでの特別展示会場



▲ハンガリー折紙協会の25周年記念キャンドルサービス

インド・バングラデシュ訪問レポートより(P.40)

A Report of a Visit to India and Bangladesh (P.40)



▲折り紙グループMitralによる作品展示



▲初級クラスの参加者。右端がヒマンシュ・アグラワルさん

チェコ折紙協会の コンベンションレポートより (P.40)

The Czech Origami Society
Convention Report (P.40)



▲チェコ折紙協会会員による作品展示



▲ペトラ・ストウツクリーさんの蛇腹による作品



▲ヤクブ・ソロウスキーさん制作「コスモスフィア」



▲会場のシャトーで、3ヶ月間開催される折り紙展

World Origami Daysテーマ展より

From Thematic Exhibits for the World Origami Days

おりがみ“馬”展 Origami Zodiac Horse



Mineo Shotaro
(Age 13)



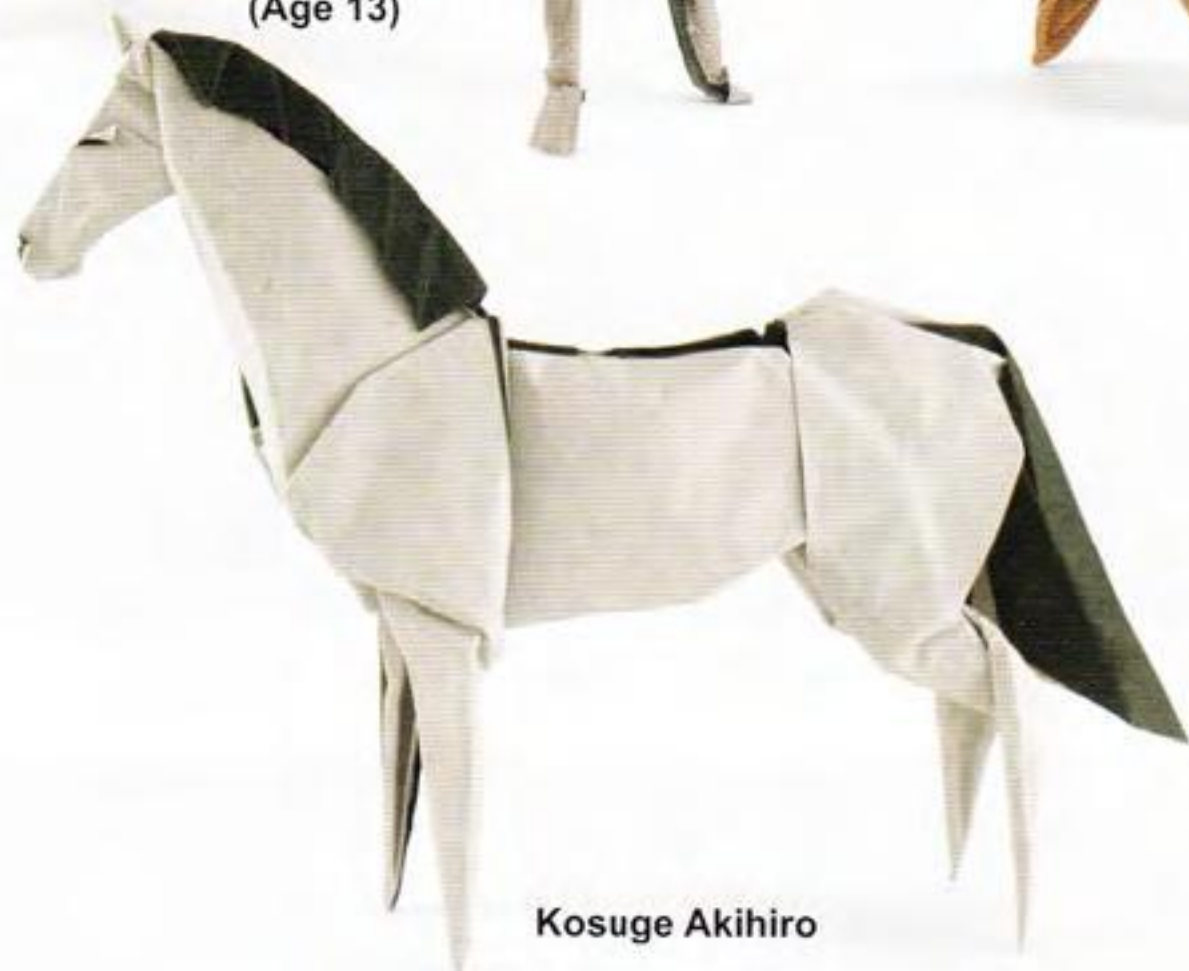
Nishikawa Seiji



Nakamura Kaede



Takahashi Yukinori



Kosuge Akihiro



Horiguchi Naoto

2013 My Best/ My Favorite 展 2013 My Best / My Favorite



Yamaguchi Makoto



Nishikawa Seiji



Hojyo Takashi

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
the Origami Tanteidan Tokyo Group



Imai Kota



Imai Kota



Kosuge Akihiro



Itagaki Yuichi



Kosuge Akihiro



Mineo Shotaro (Age 13)



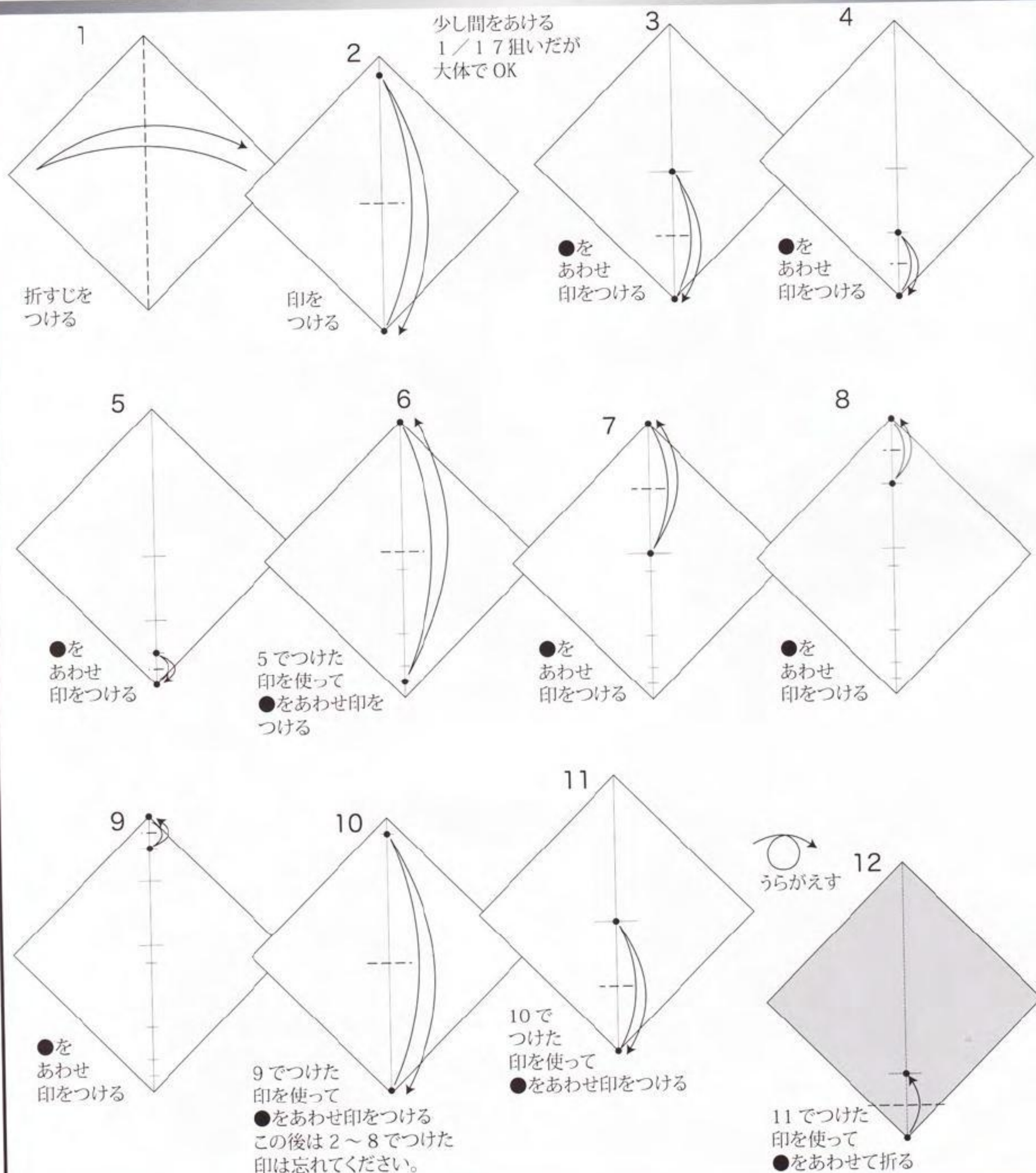
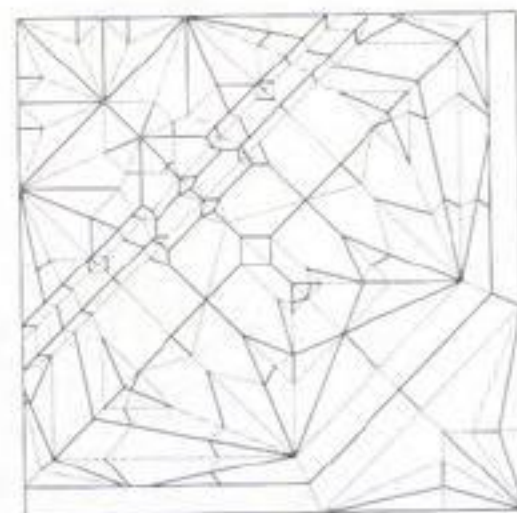
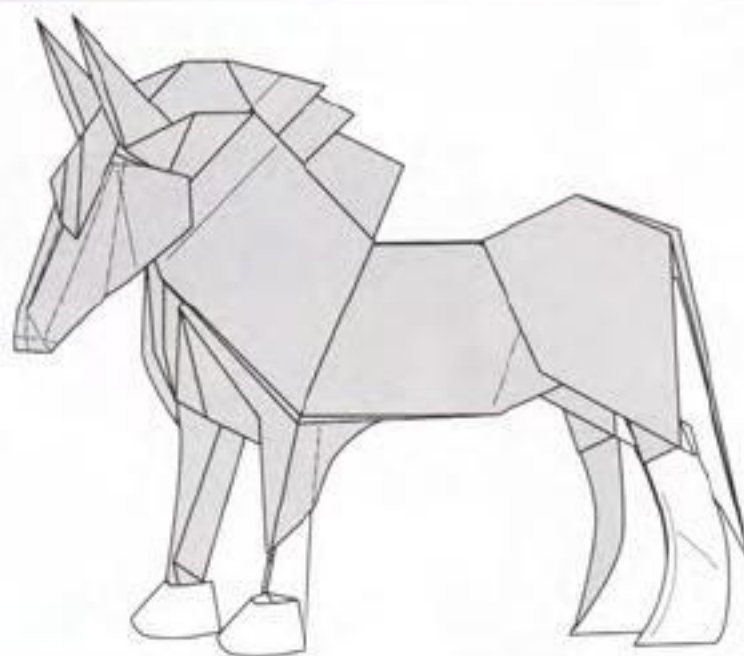
Imai Kota

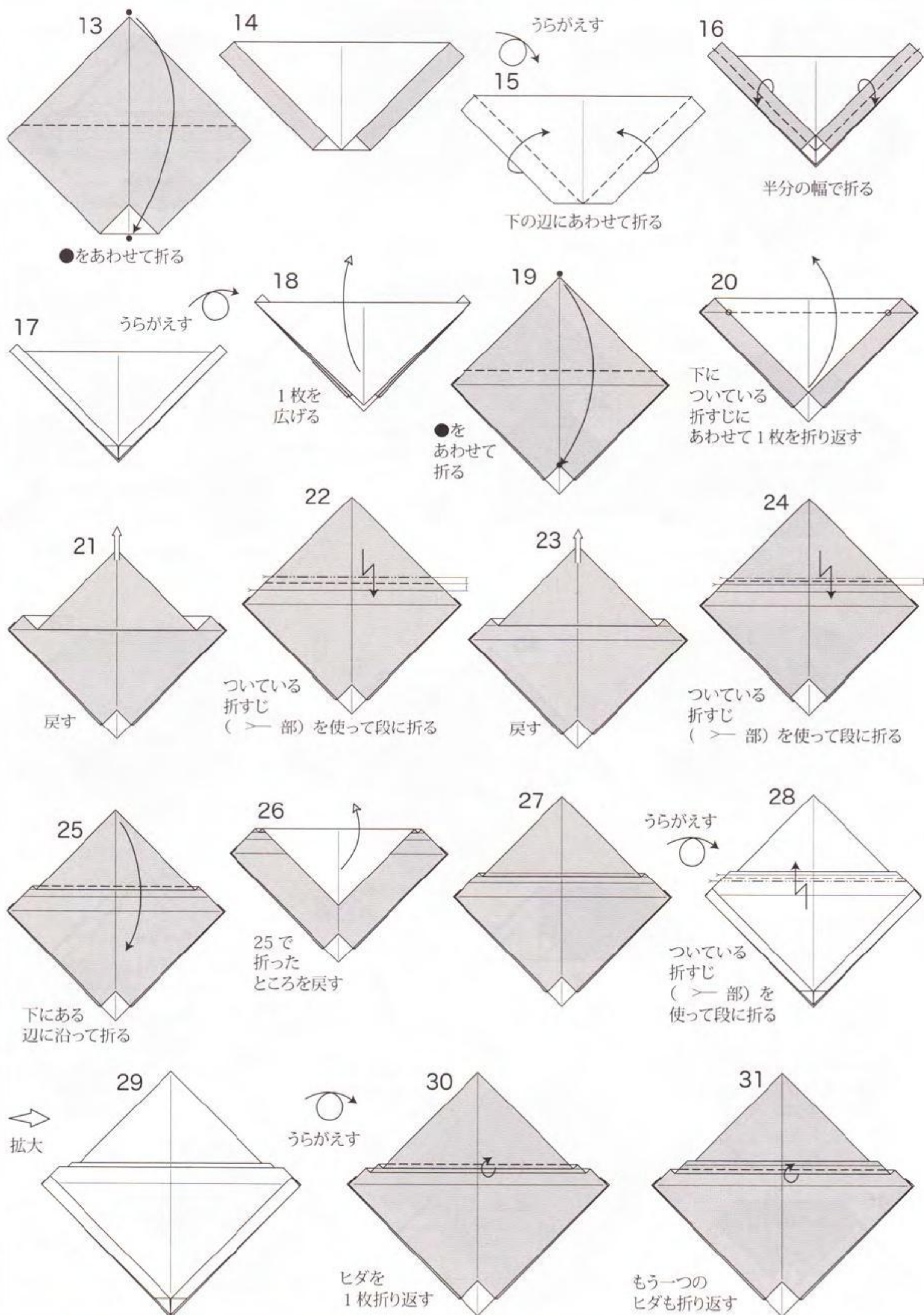
Pony

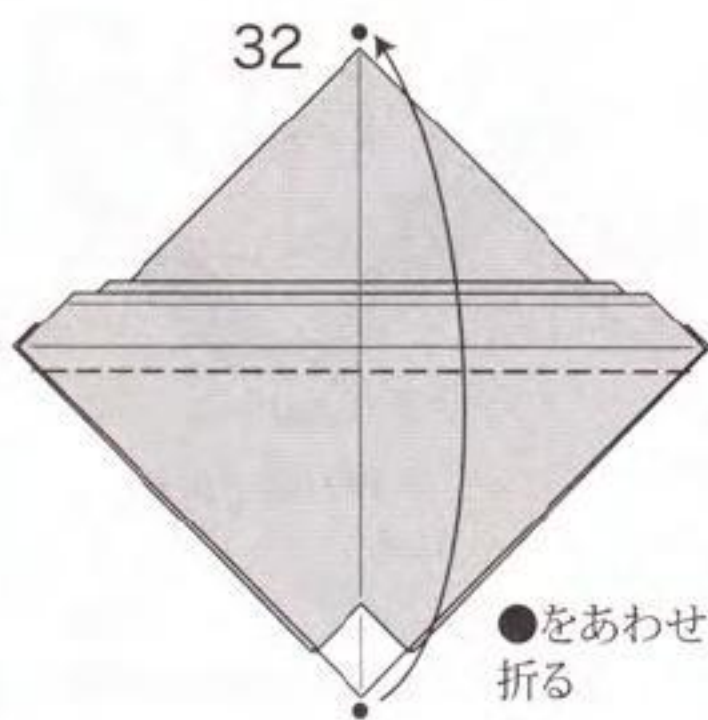
Kawahata Fumiaki 川畑文昭

創作 2012年12月31日

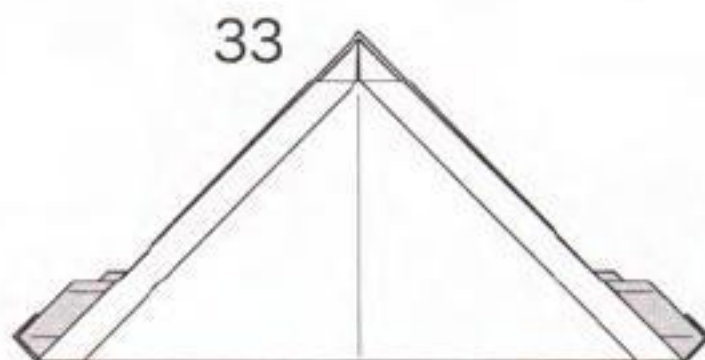
作図 2013年1月4日



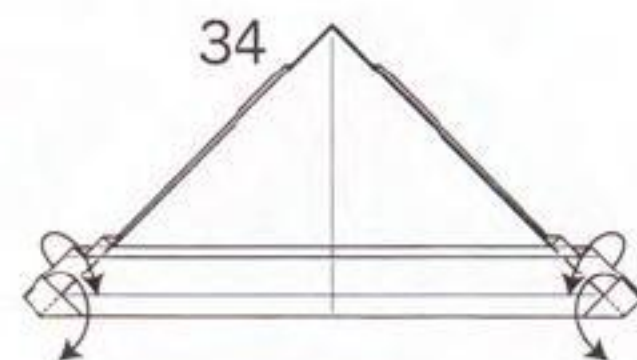




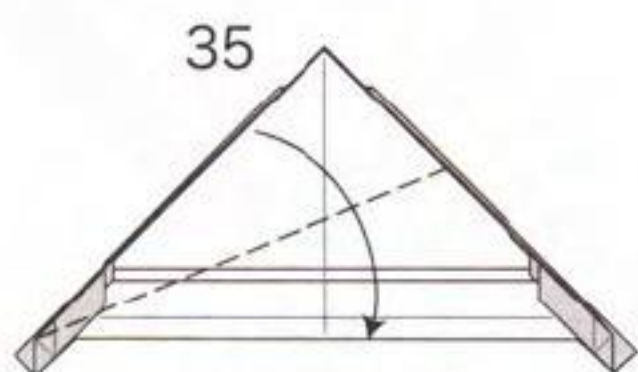
●をあわせて
折る



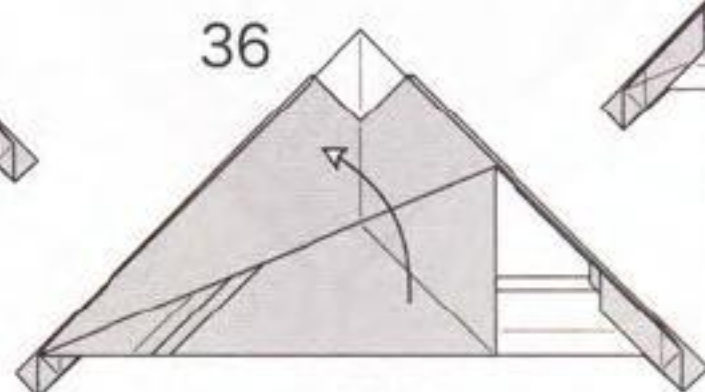
うらがえす



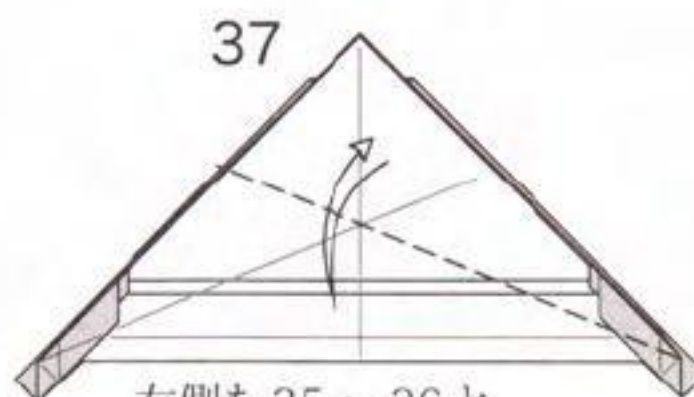
ポケット部分を
広げて折る



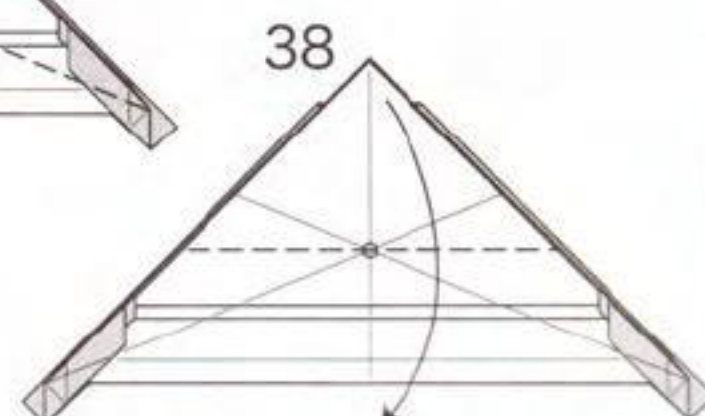
1枚を角度半分に折る
蛇腹で重なっている部分が
ずれないように



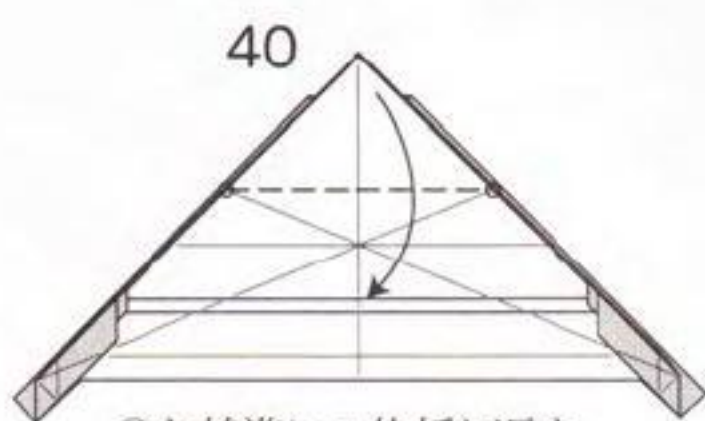
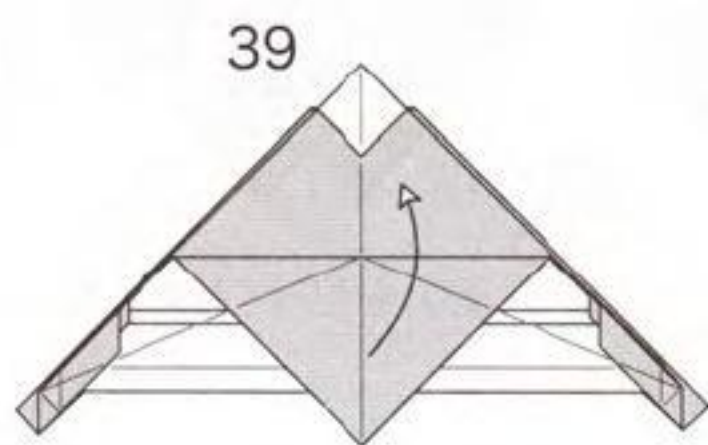
戻す



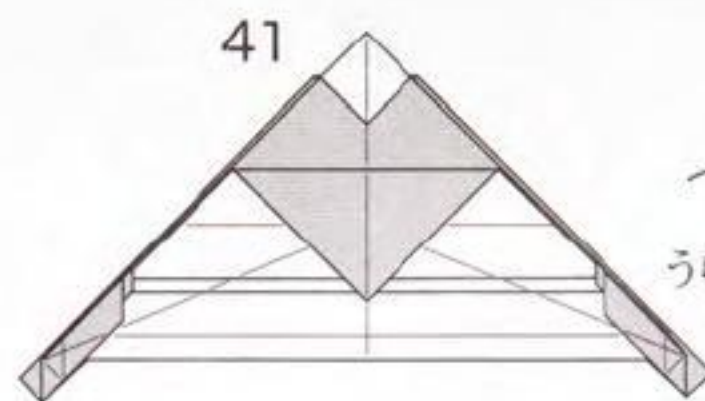
右側も 35 ~ 36 と
同じように折すじを
つける



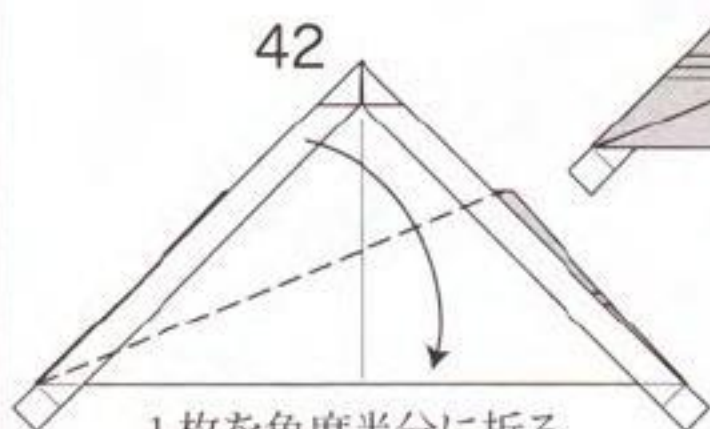
○を基準に 1枚折り返す



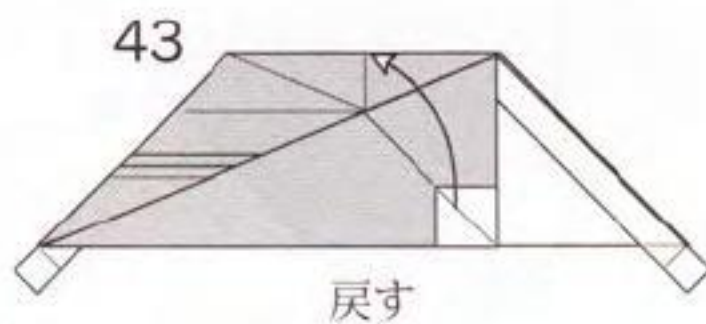
○を基準に 1枚折り返す



うらがえす



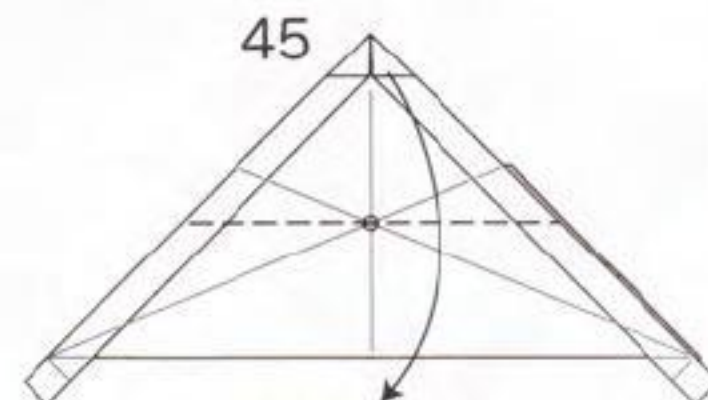
1枚を角度半分に折る
蛇腹で重なっている部分が
ずれないように



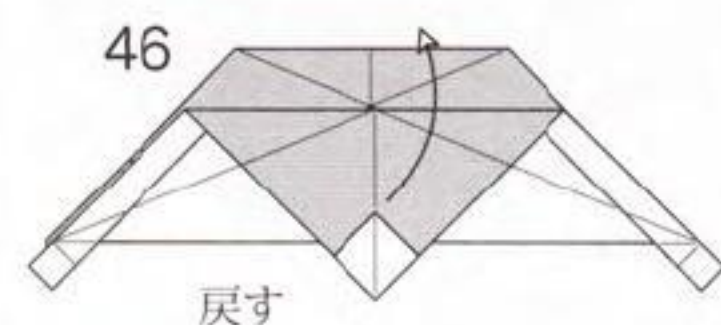
戻す



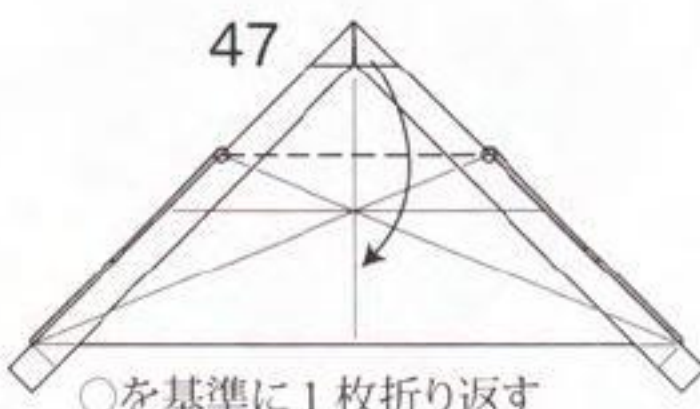
右側も 42 ~ 43 と
同じように折すじを
つける



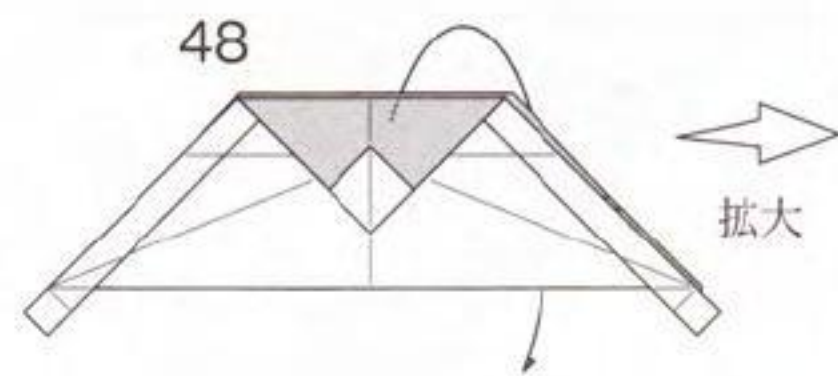
○を基準に 1枚折り返す



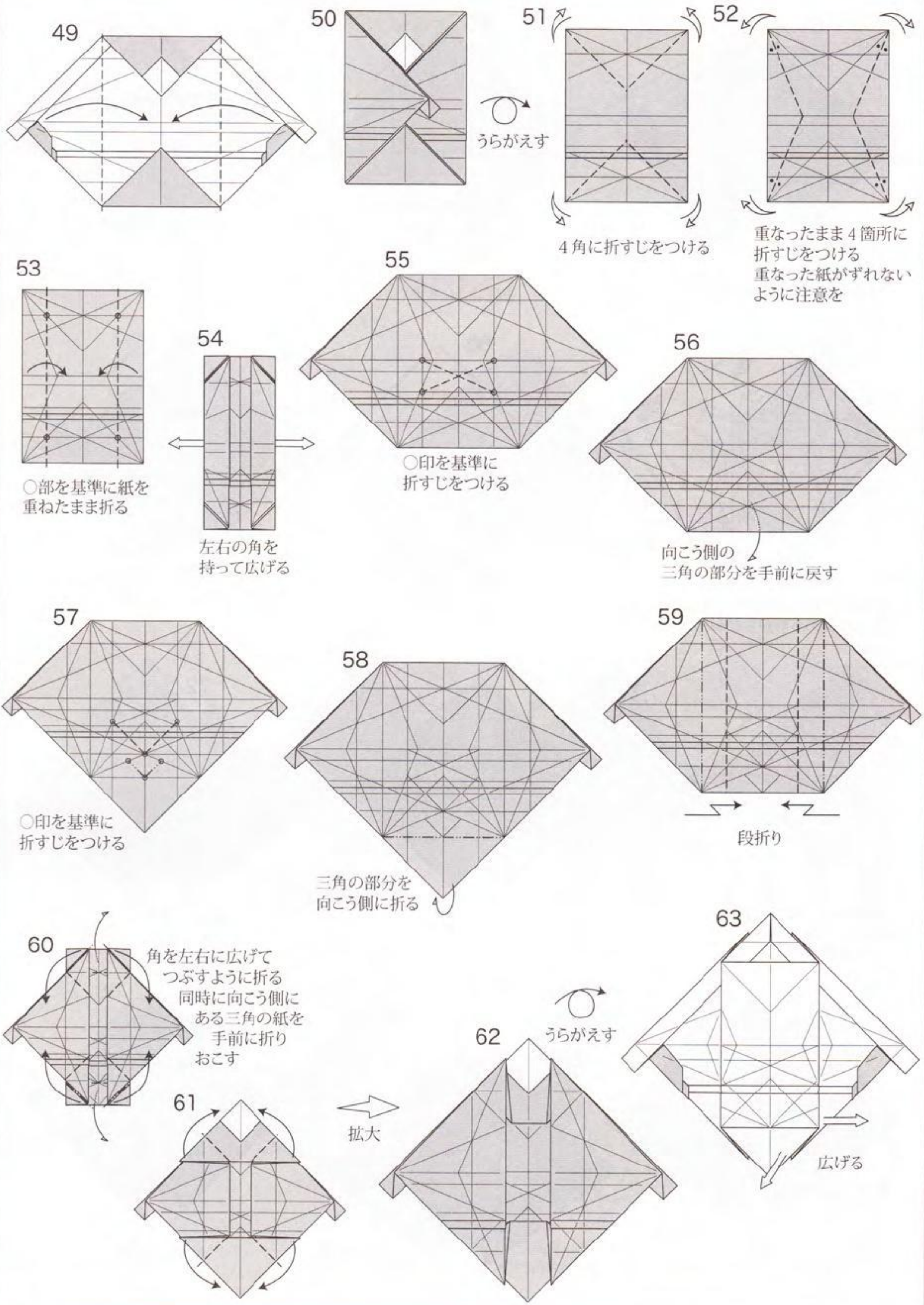
戻す

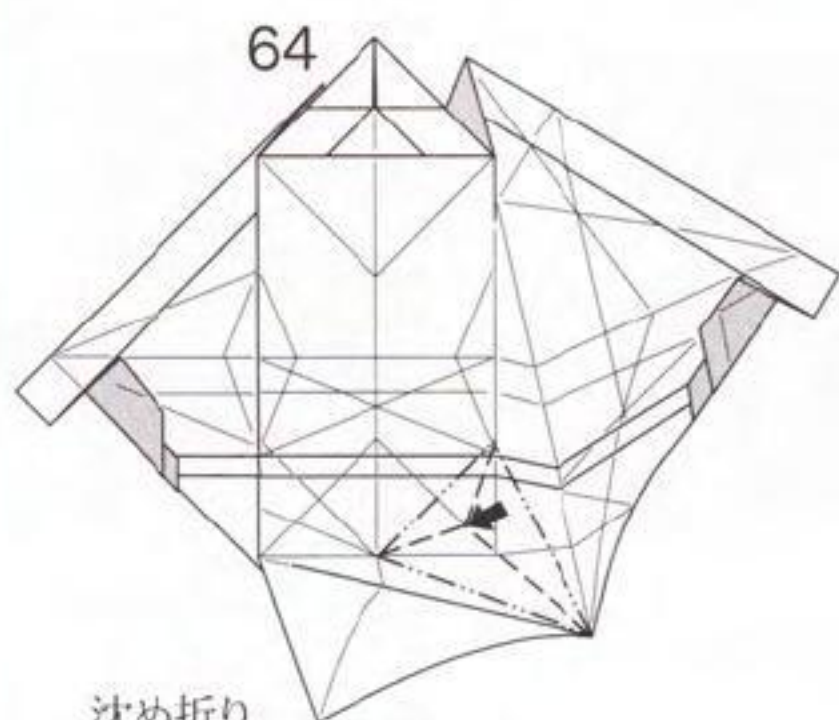


○を基準に 1枚折り返す

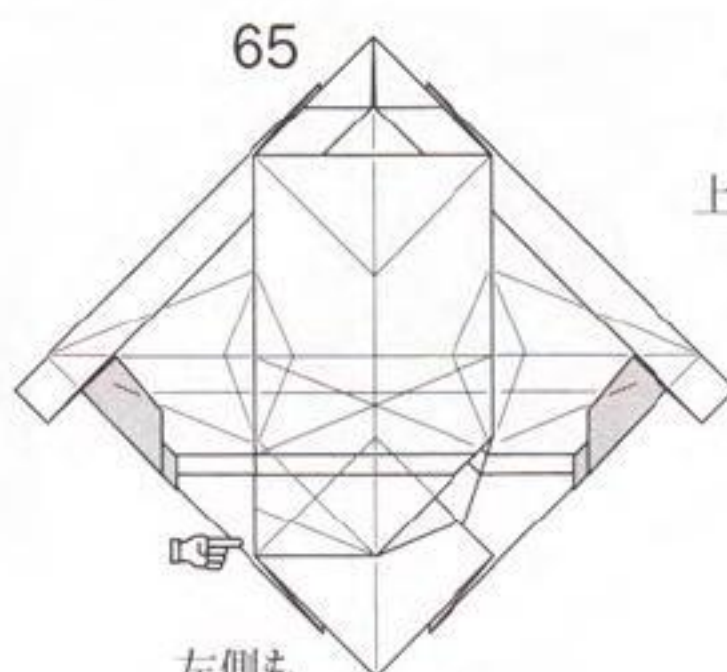


拡大

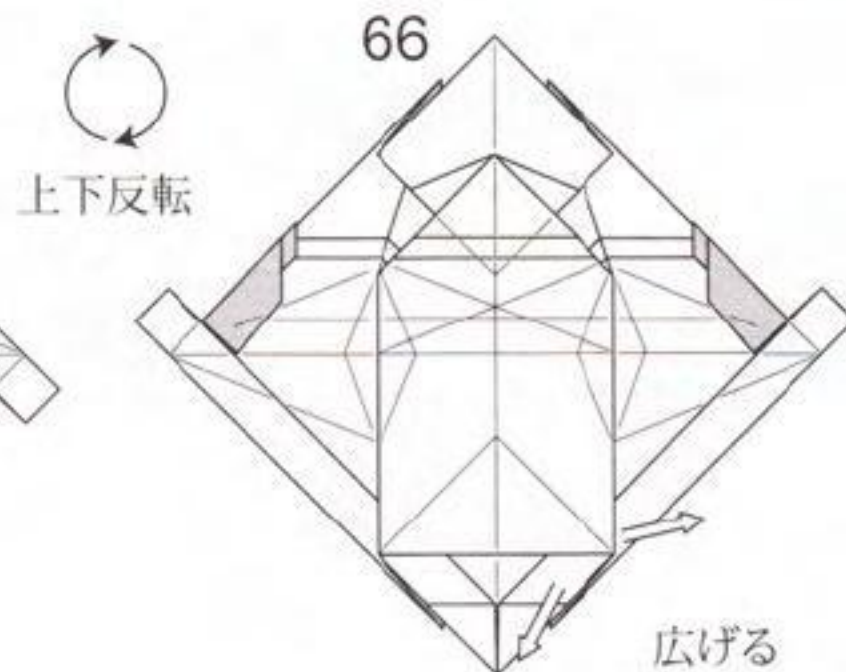




64
沈め折り
(Open Sink) して閉じる

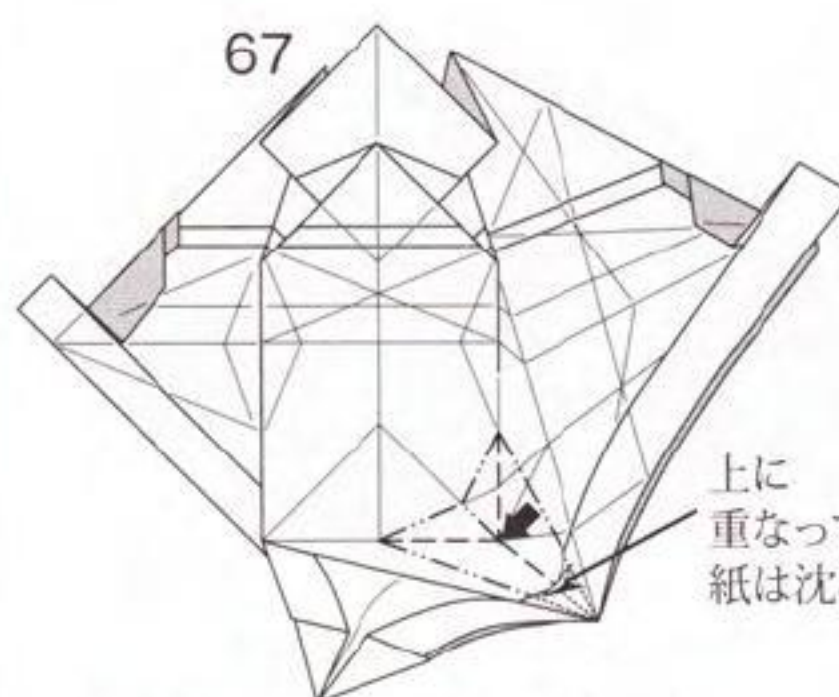


65
左側も
63 ~ 64 までと
同じように折る



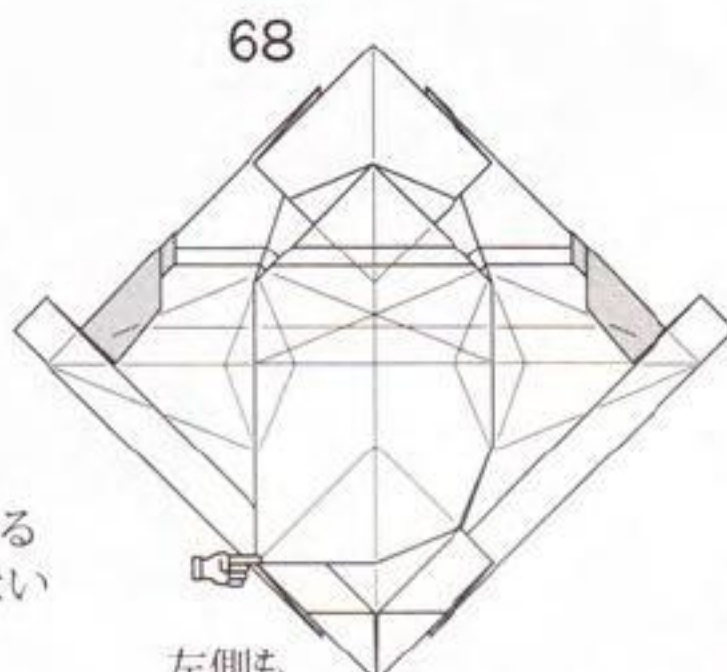
上下反転

広げる

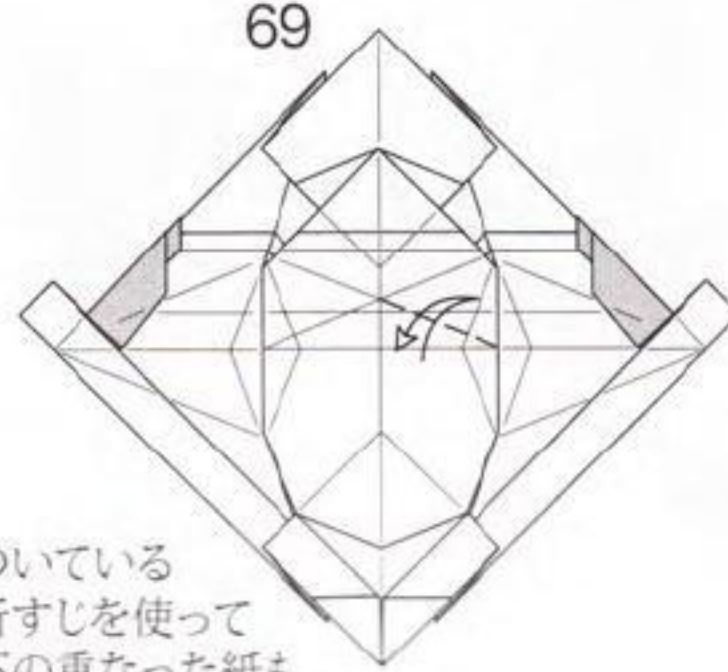


67
沈め折り (Open Sink) して閉じる
64 とは沈める形がちがうので注意

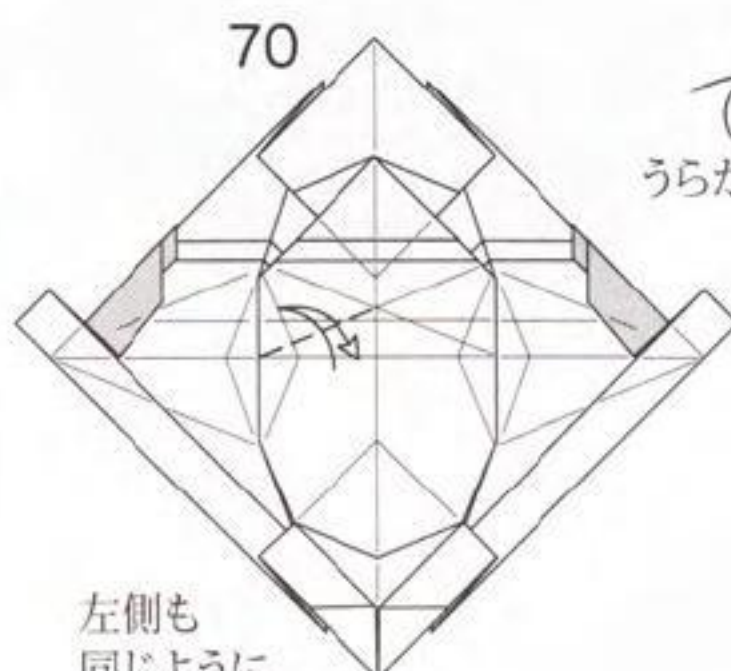
上に
重なっている
紙は沈めない



68
左側も
66 ~ 67 までと
同じように折る

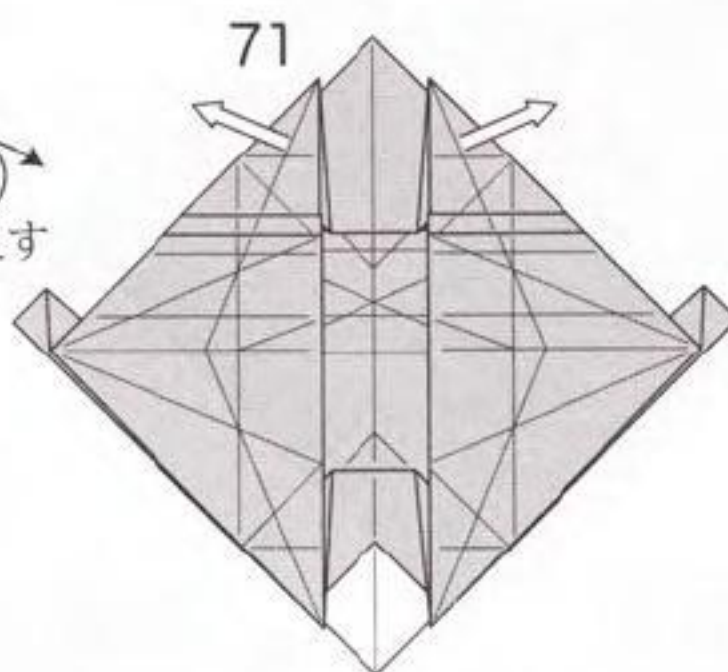


69
ついている
折すじを使って
下の重なった紙も
一緒に折すじをつける

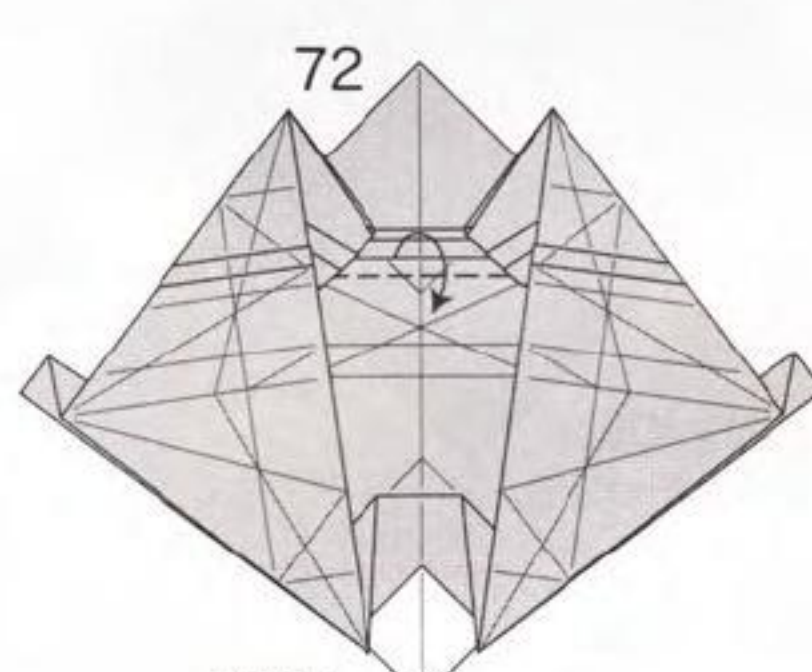


70
左側も
同じように
折すじをつける

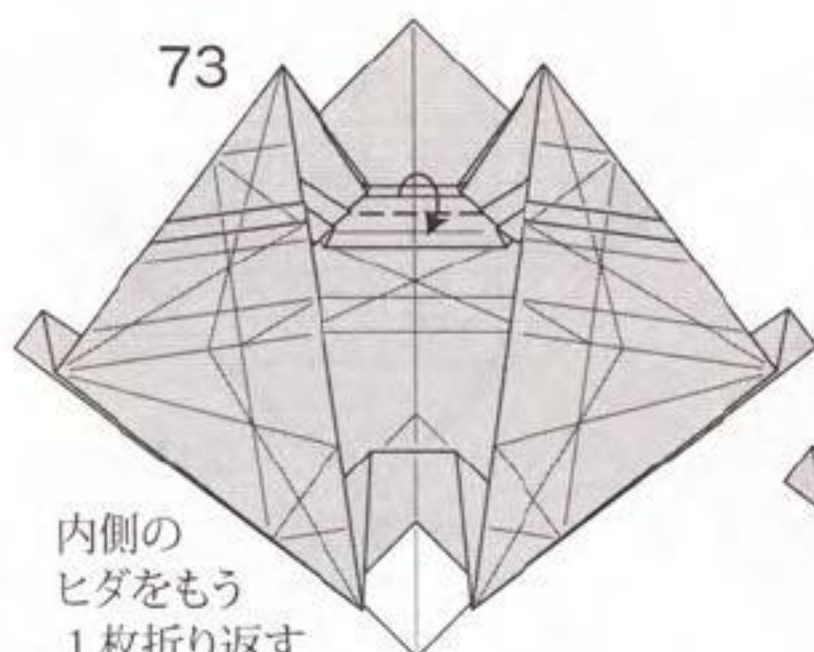
うらがえす



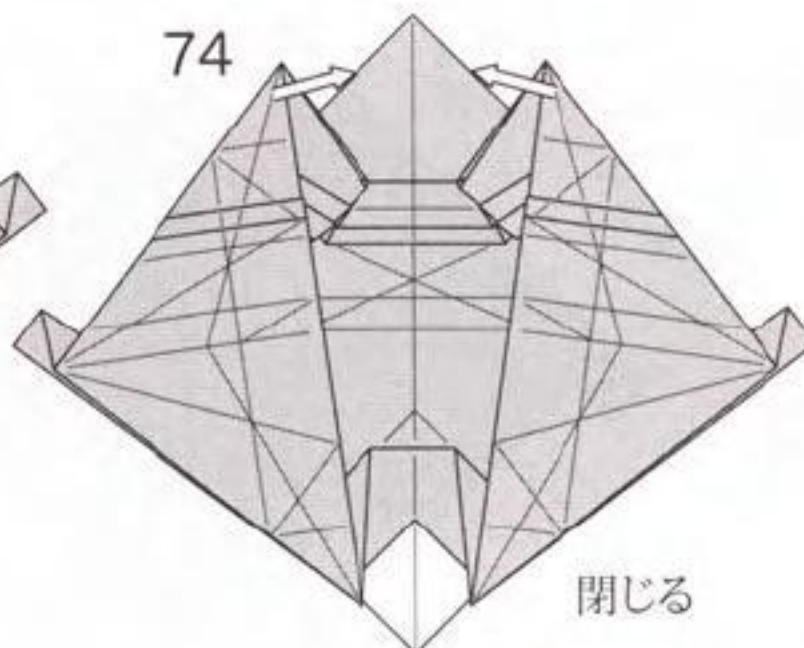
71
両側に広げる



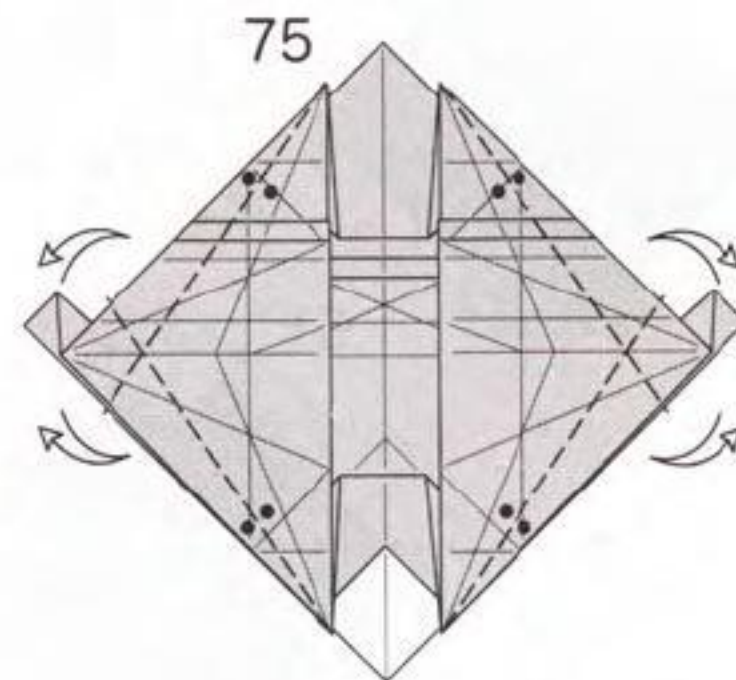
72
内側の
ヒダを1枚折り返す



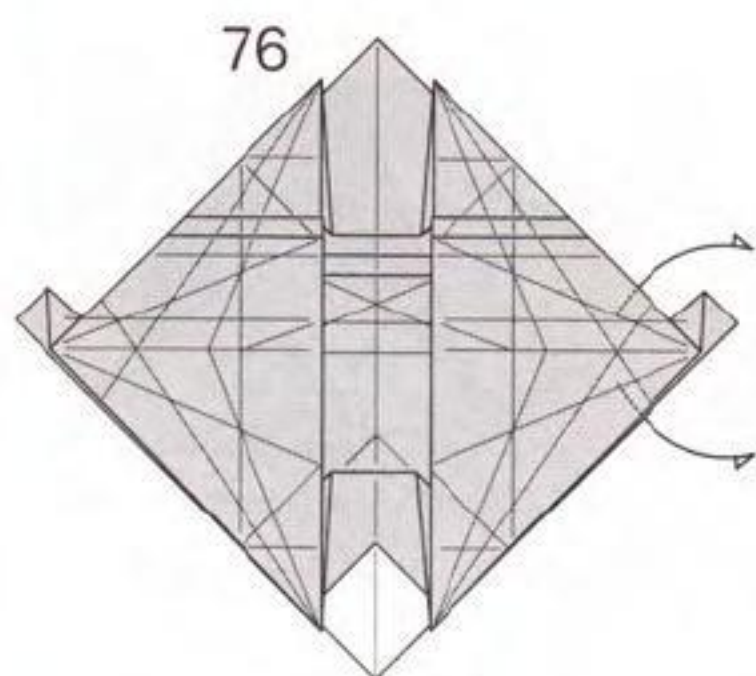
73
内側の
ヒダをもう
1枚折り返す



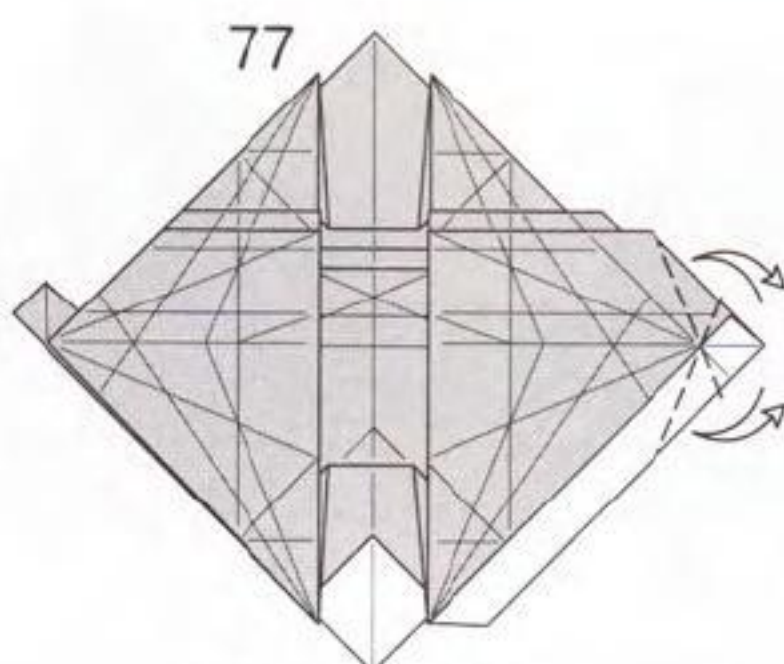
74
閉じる



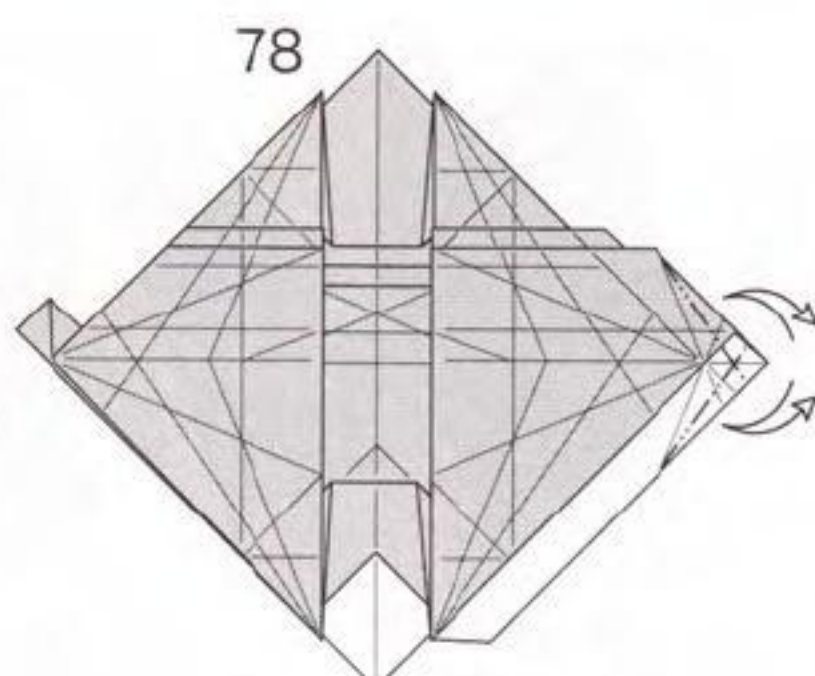
75
折すじをつける



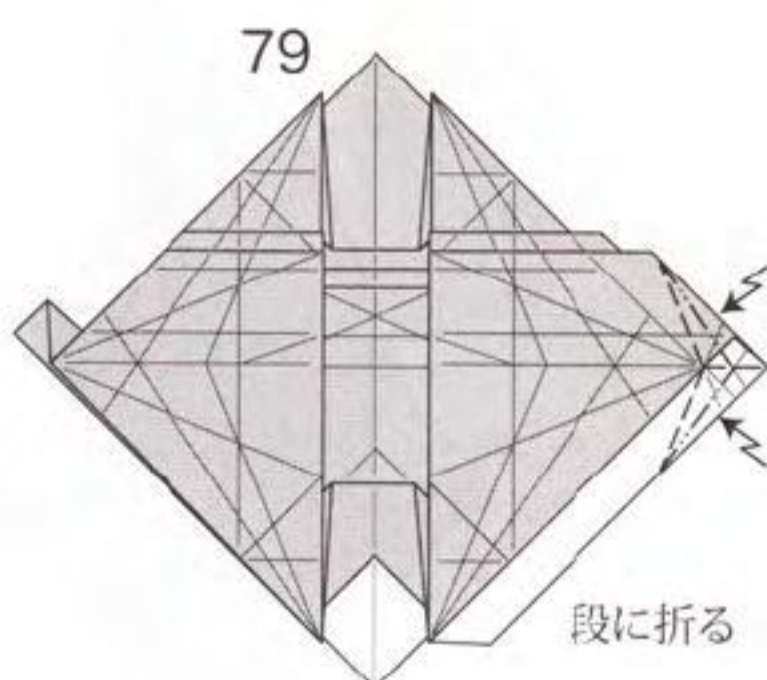
両側に広げる



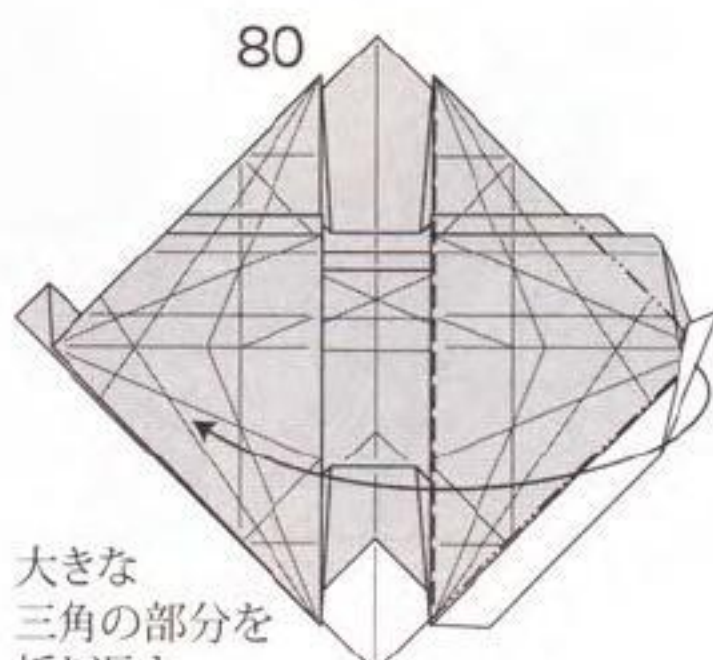
谷の折すじをつける



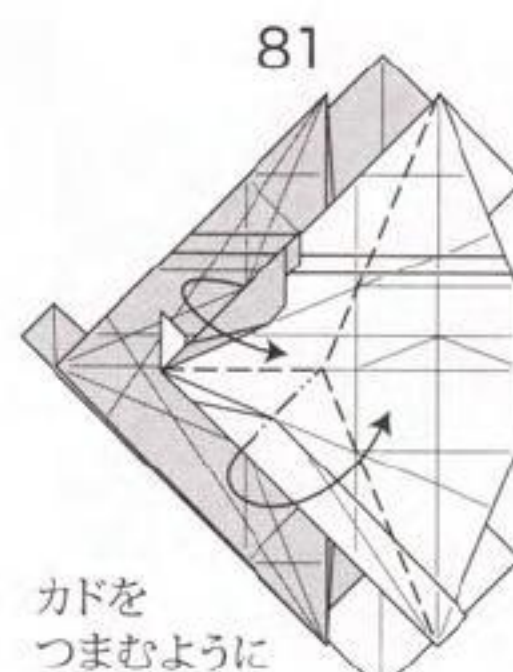
山の折すじをつける



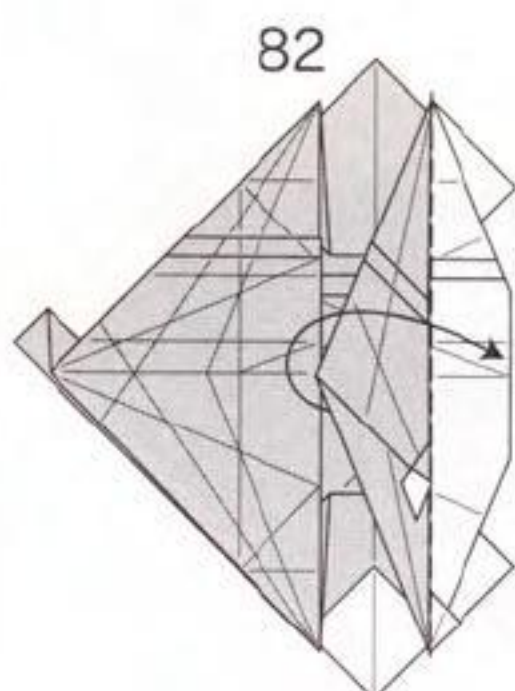
段に折る



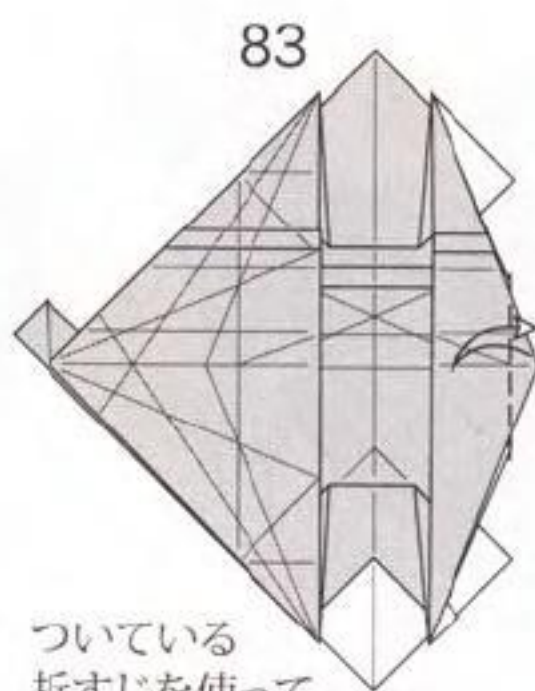
大きな
三角の部分を
折り返す



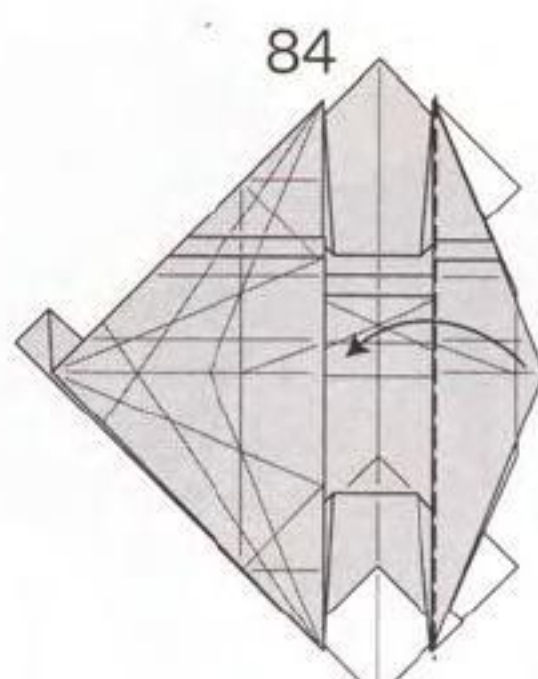
カドを
つまむように
折る



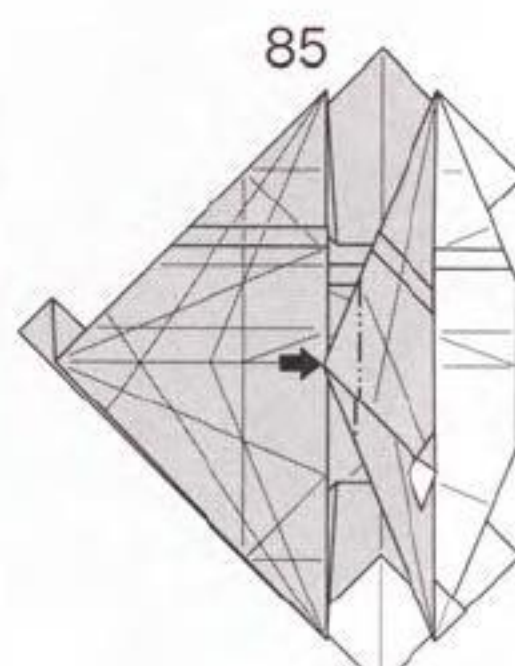
折るかえす



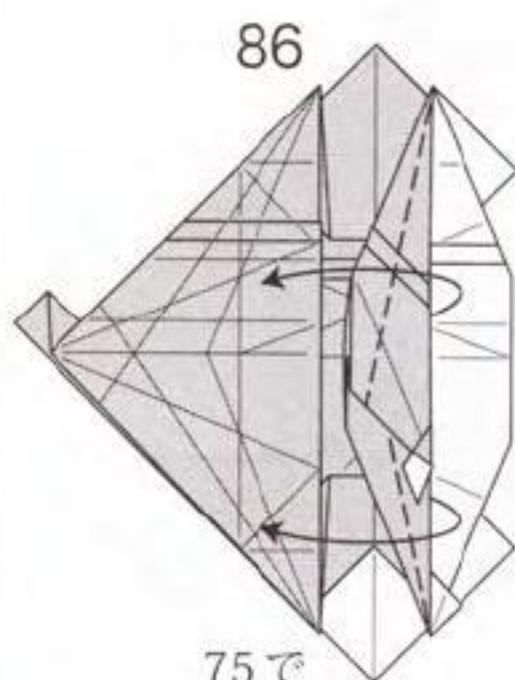
ついている
折すじを使って
折すじを付け直す



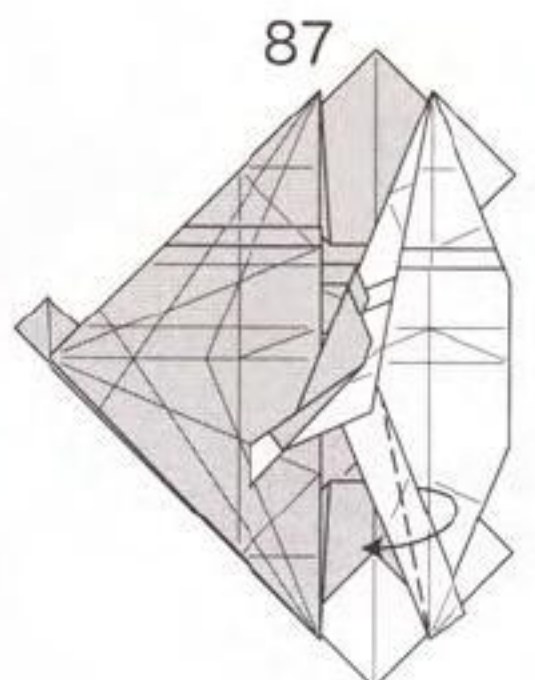
折るかえす



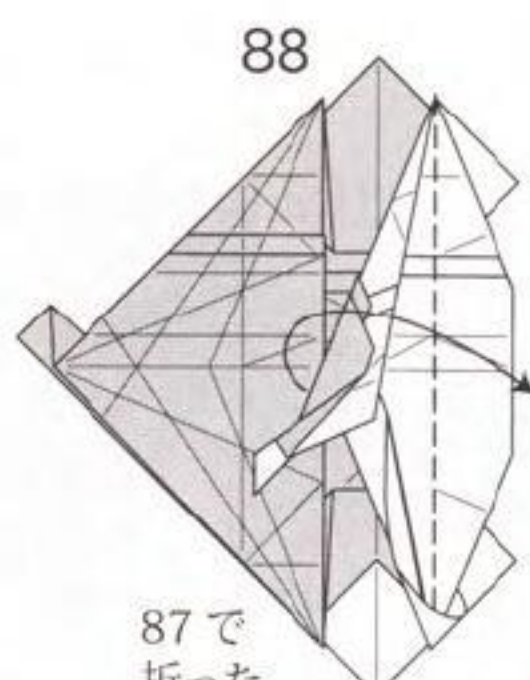
83 でつけた折すじで
沈め折り Open Sink



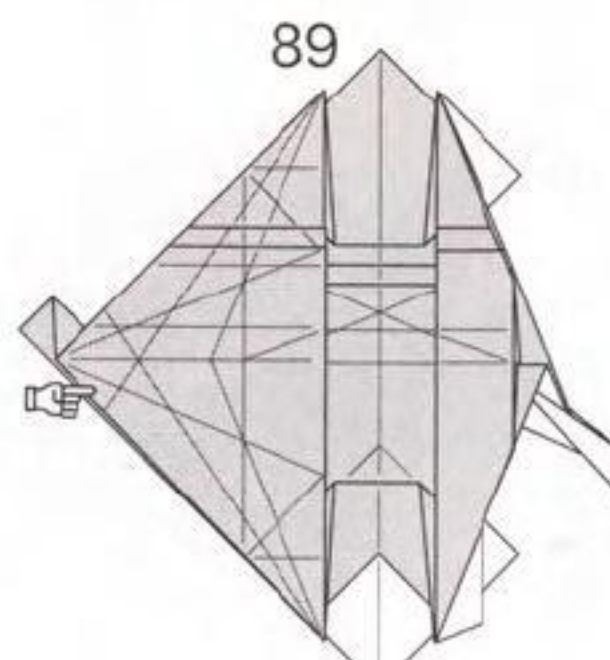
75 で
つけた折すじで
かぶせ折り



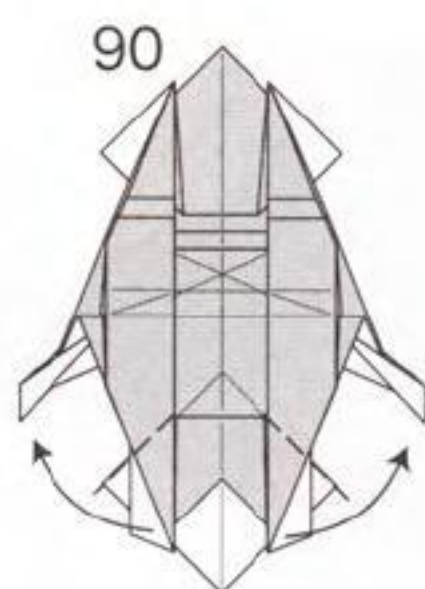
折るかえす



87 で
折った
部分を折ったまま
右に折るかえす

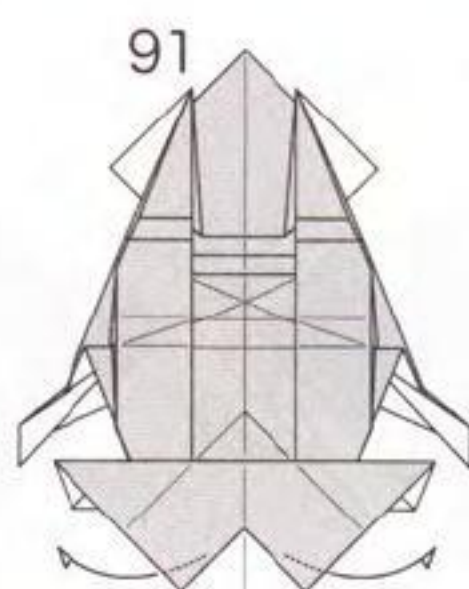


左側も 76 ~ 88 までと
同じように折る



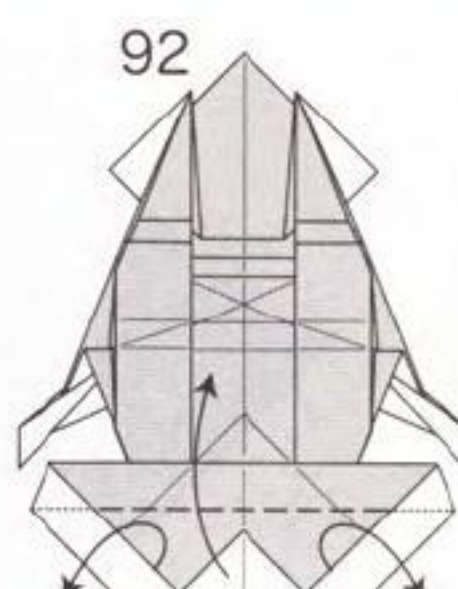
90

折りかえす



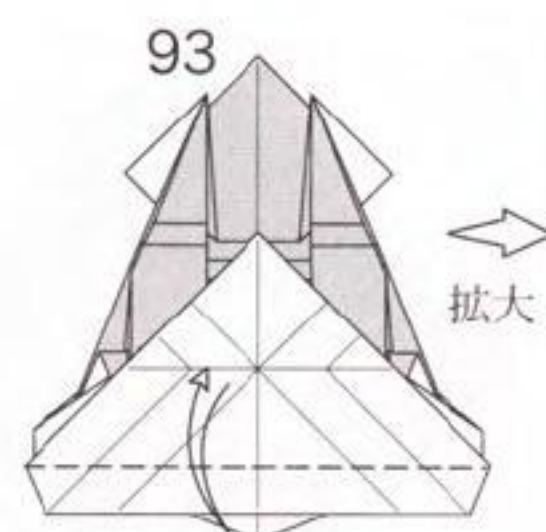
91

向こう側に
隠れている紙を
手前に引き出す



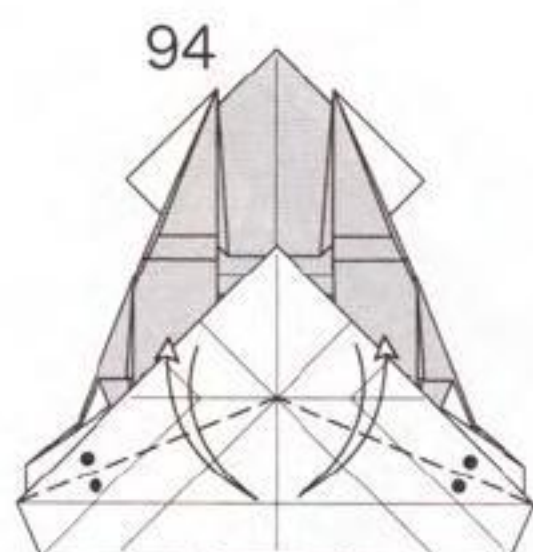
92

たたまれている
紙を戻しながら上に折りあげる



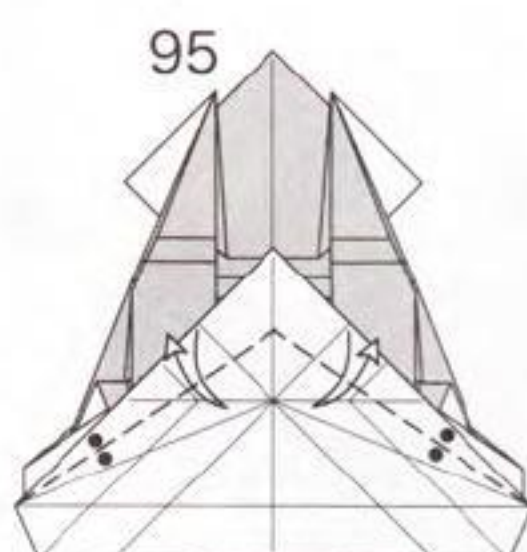
93

折すじをつける



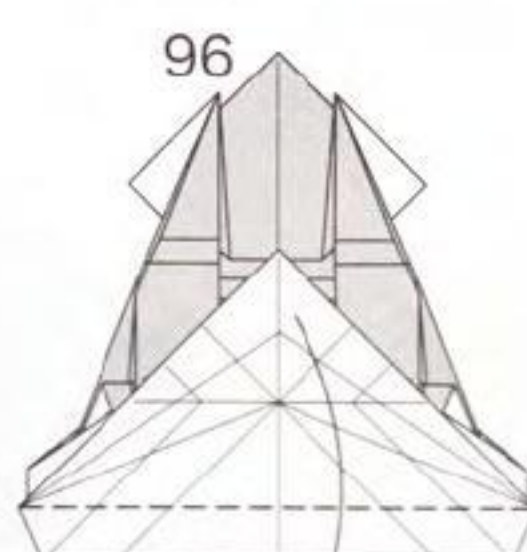
94

折すじをつける



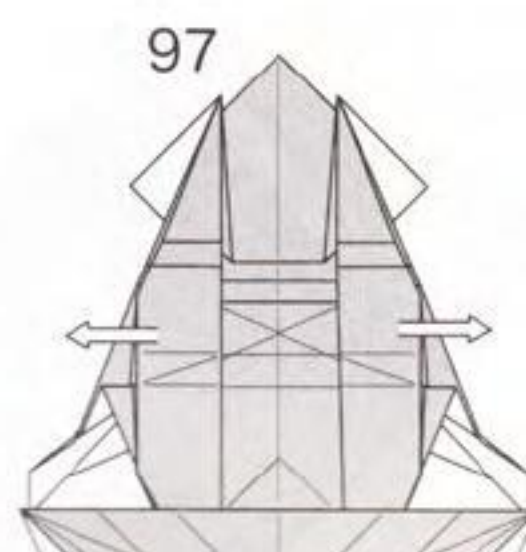
95

折すじをつける



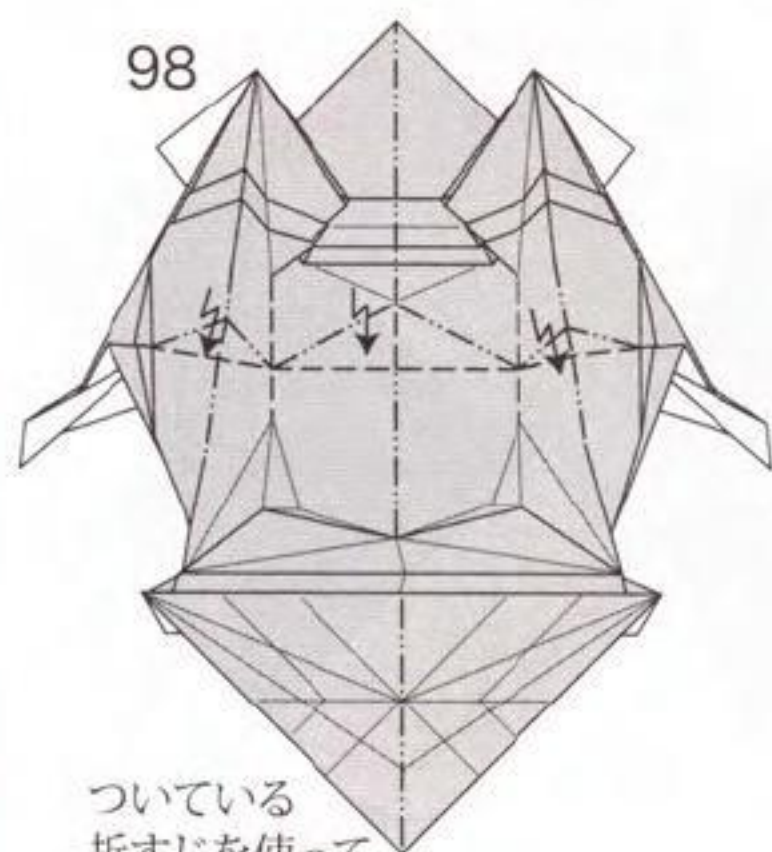
96

折りかえす



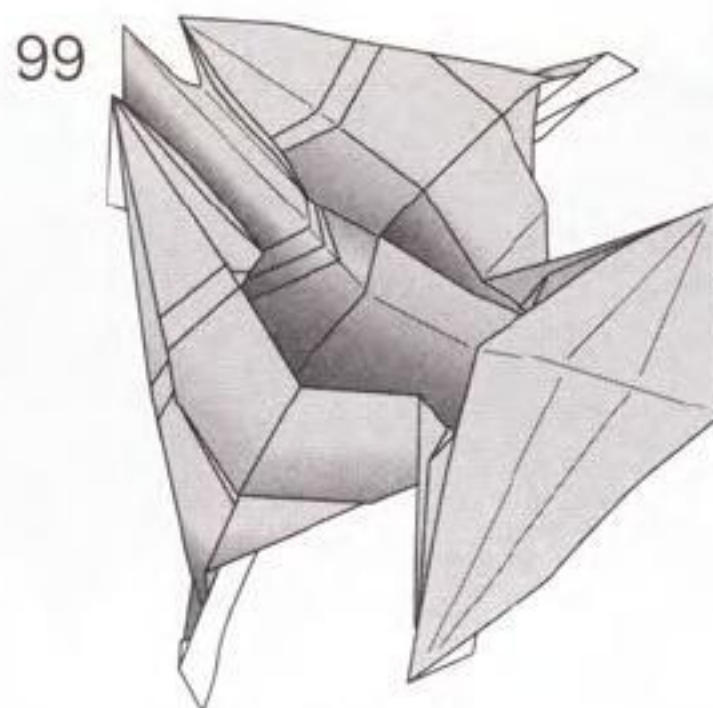
97

広げる



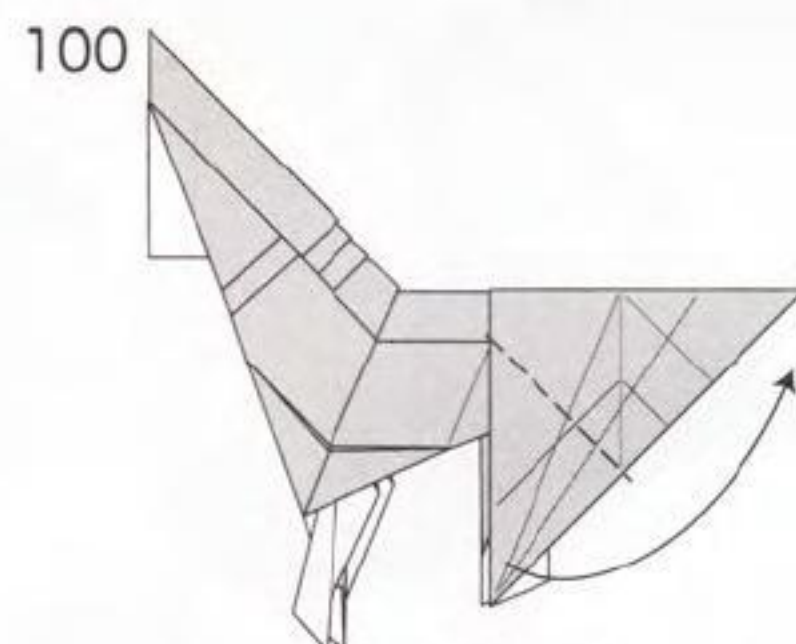
98

ついている
折すじを使って
内部の3箇所同時に
段折をして形をまとめる
本作の1、2位を争う難所



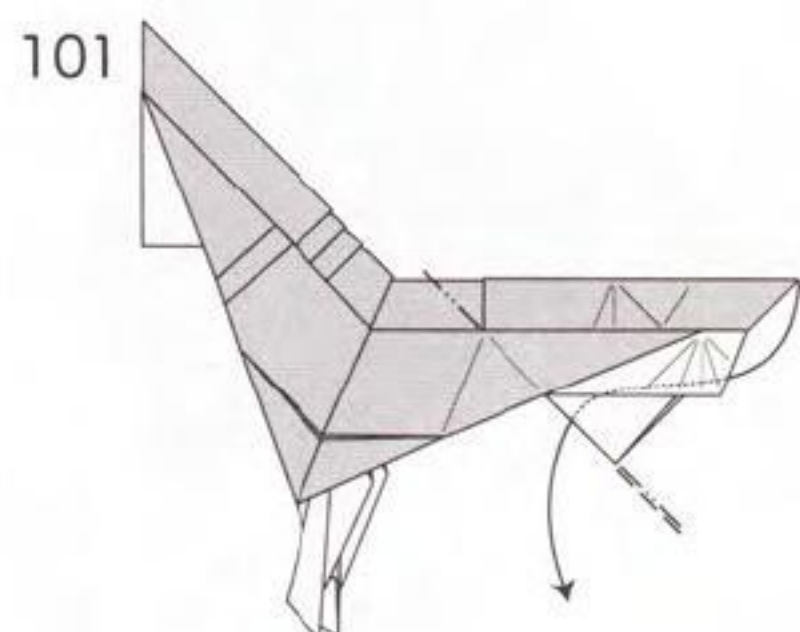
99

途中図



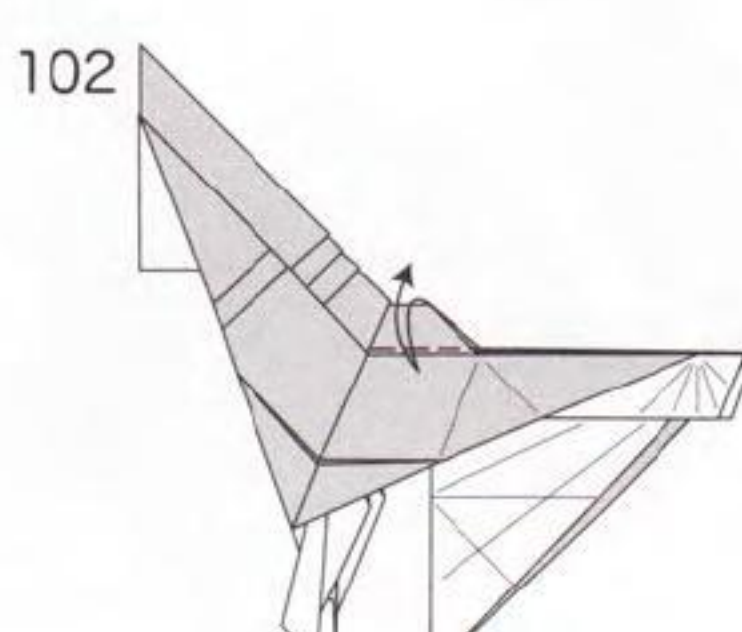
100

カドを折り返す
向こう側も同じ



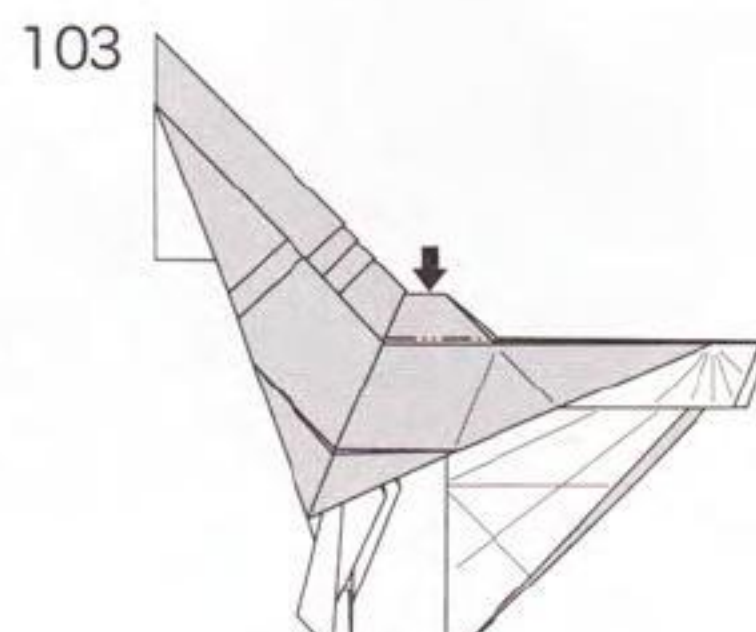
101

中わり折りのように折り返す



102

折すじをつける

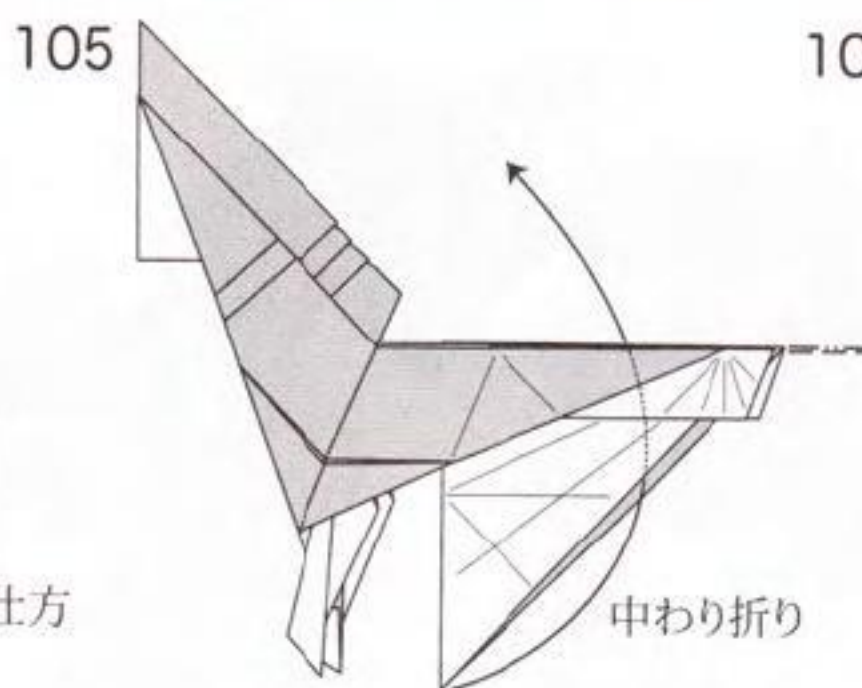


103

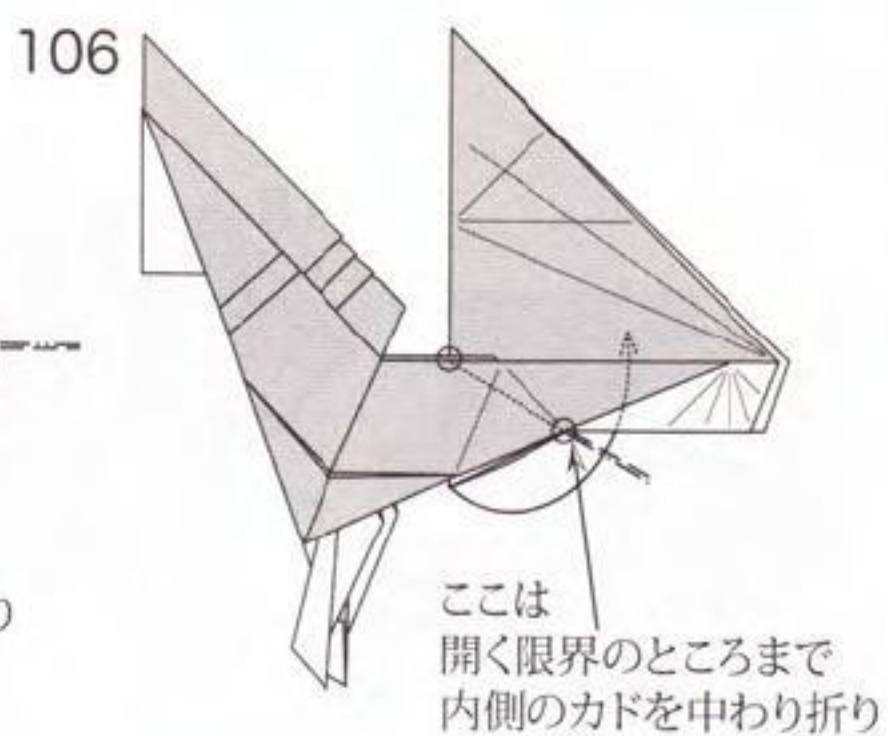
沈め折り Open Sink



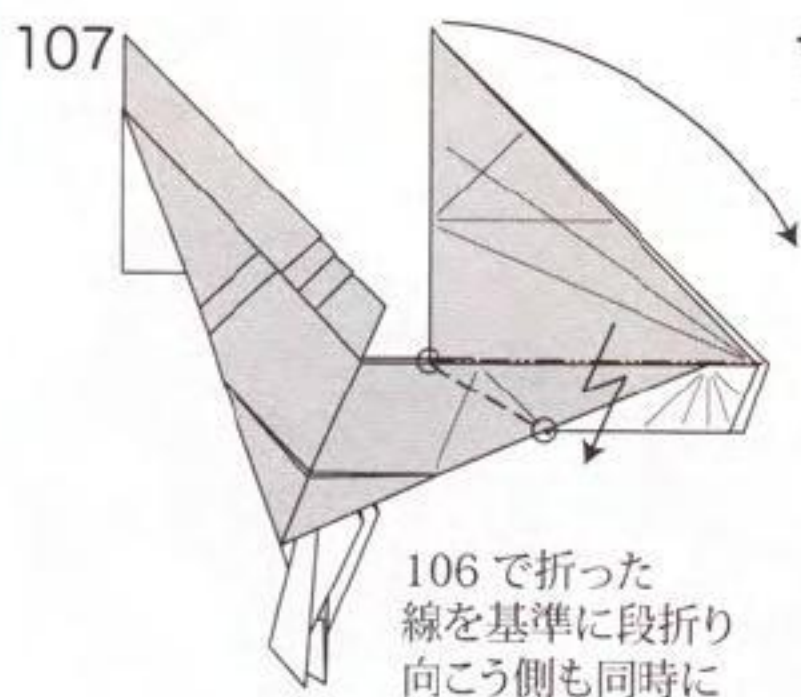
103 工程での
裏側の処理の仕方



中わり折り



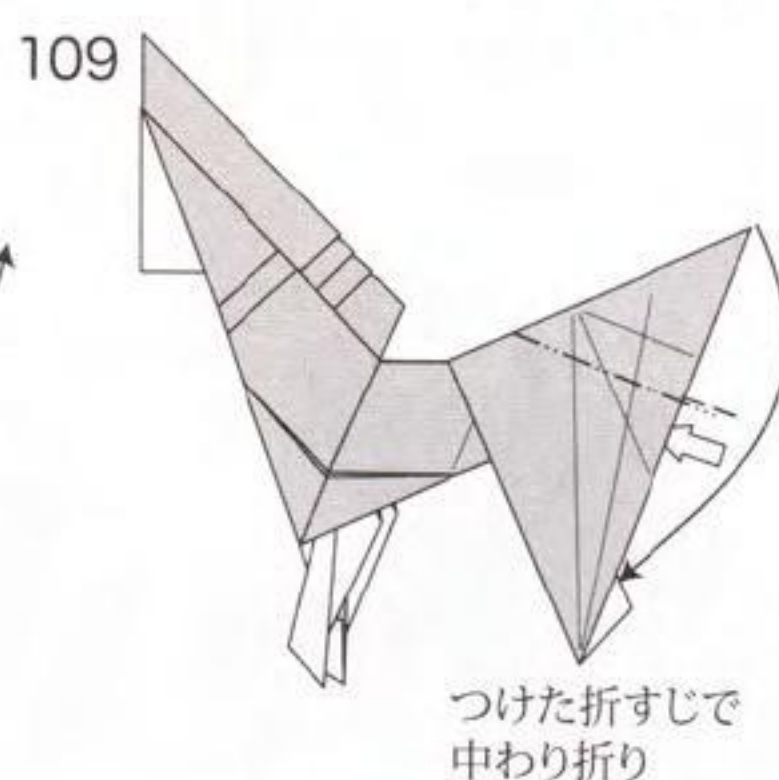
ここは
開く限界のところまで
内側のカドを中わり折り



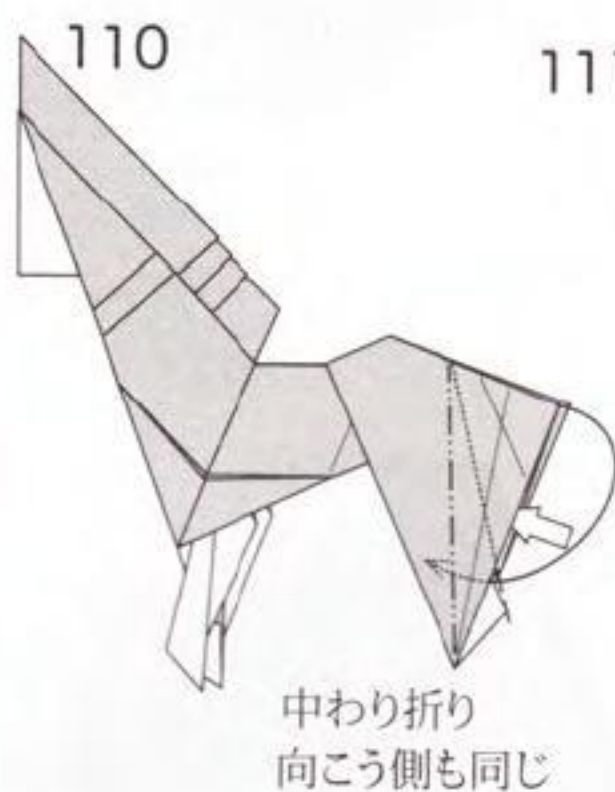
106 で折った
線を基準に段折り
向こう側も同時に



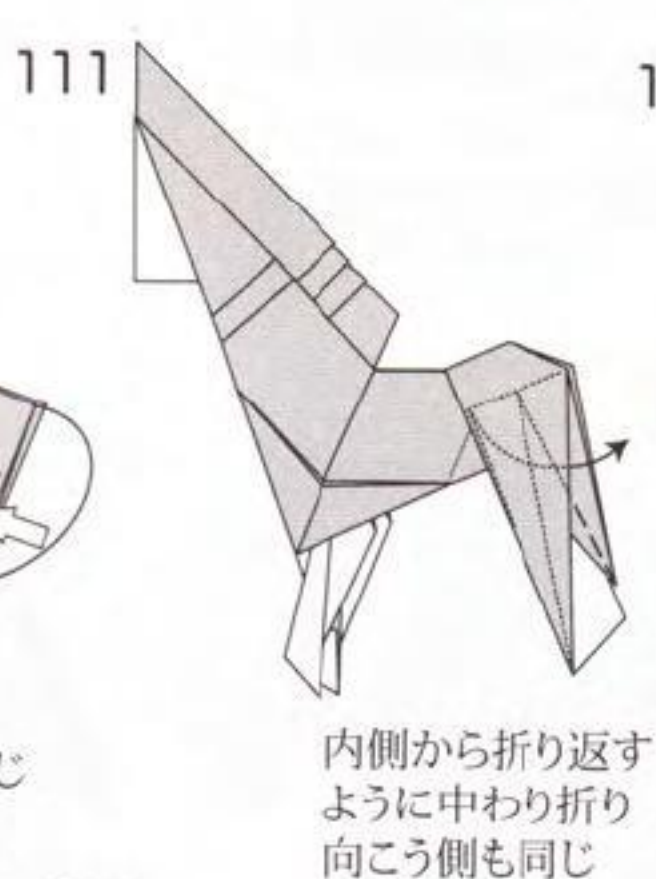
●をあわせて折すじをつける



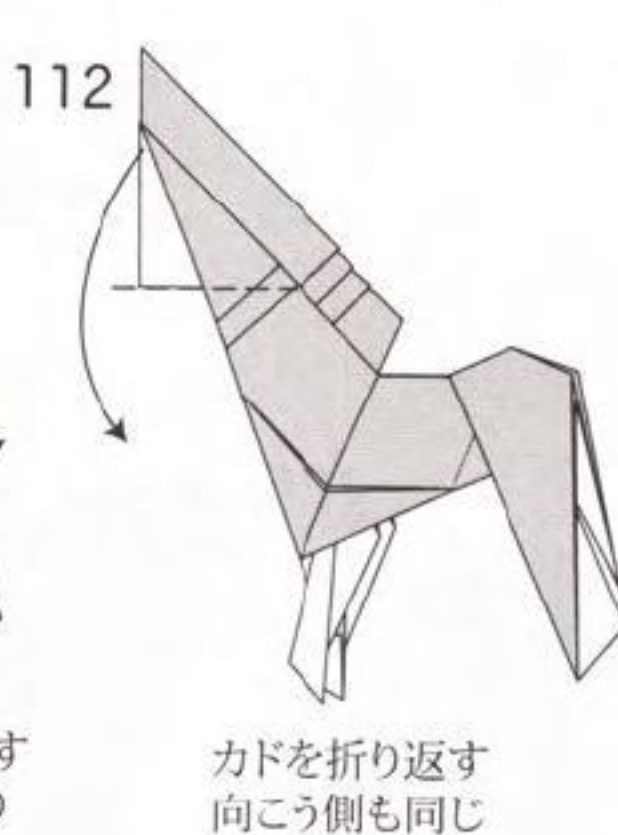
つけた折すじで
中わり折り



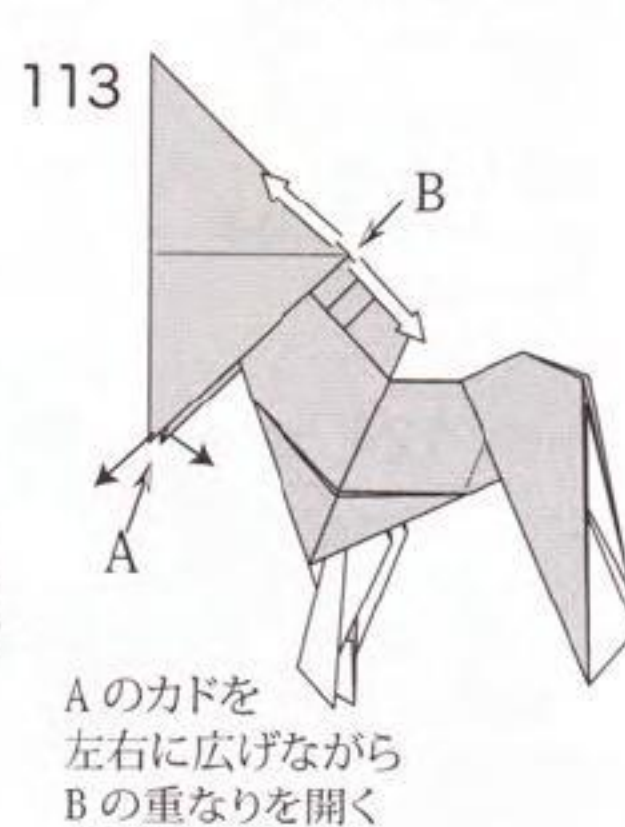
中わり折り
向こう側も同じ



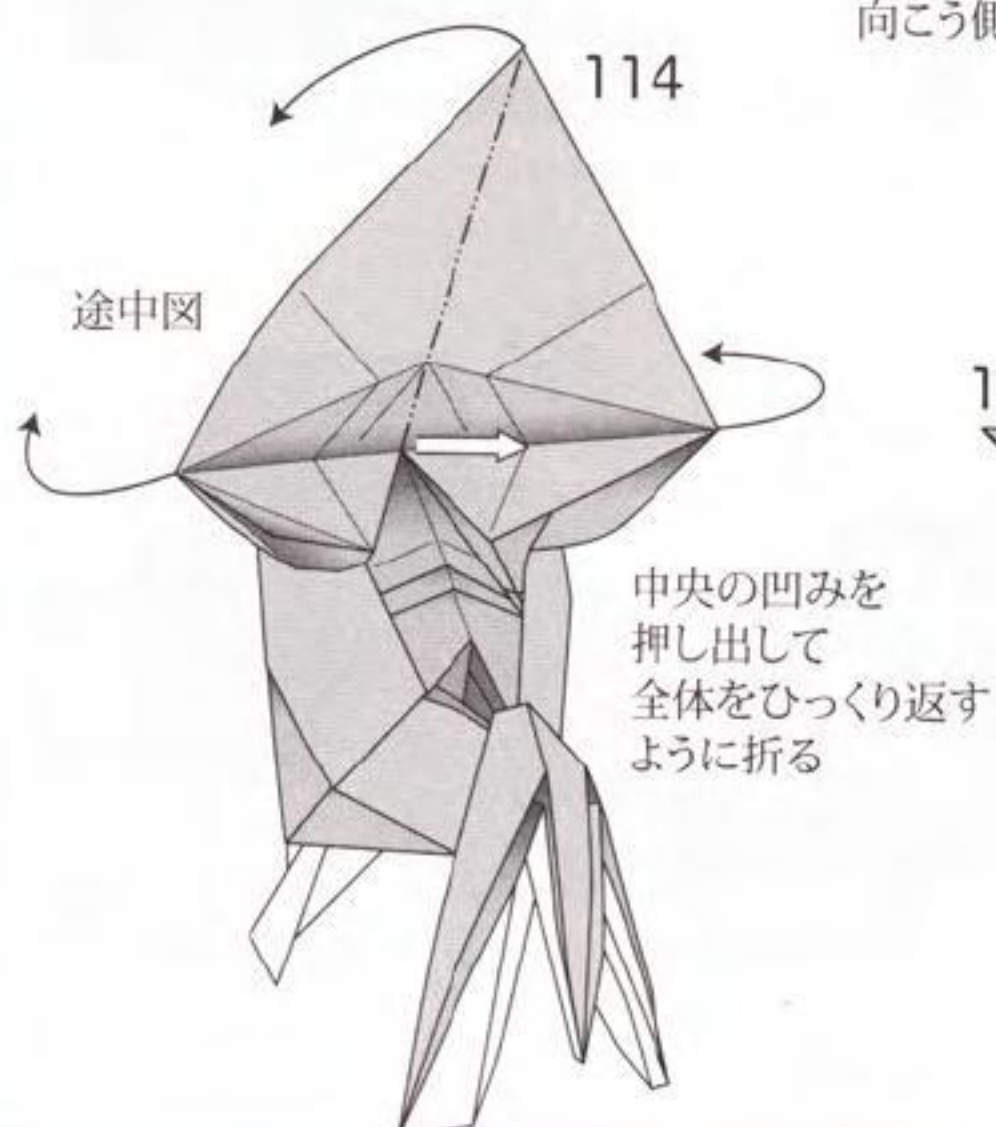
内側から折り返す
ように中わり折り
向こう側も同じ



カドを折り返す
向こう側も同じ

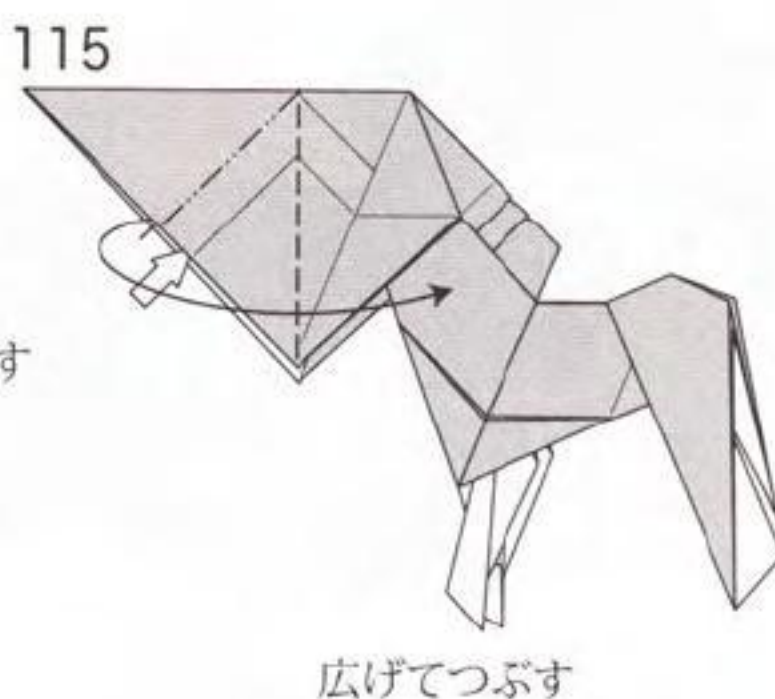


A のカドを
左右に広げながら
B の重なりを開く

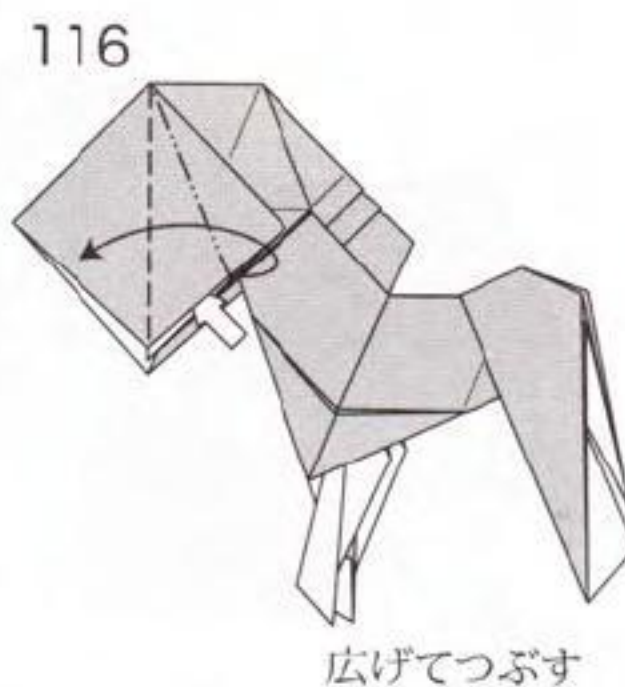


途中図

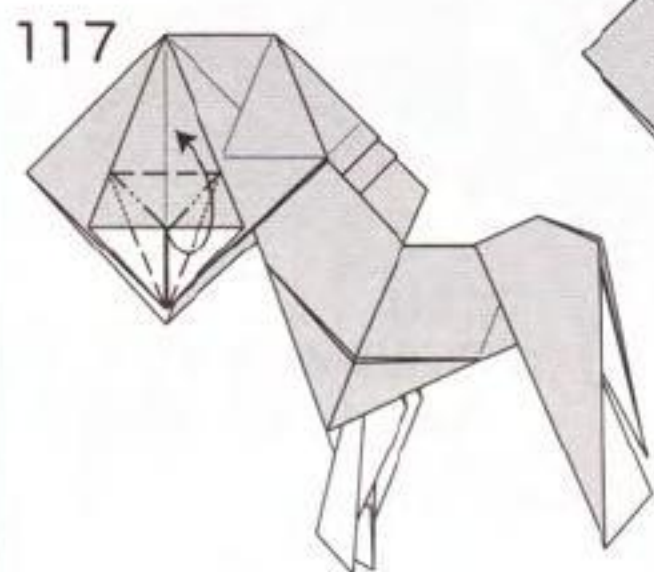
中央の凹みを
押し出して
全体をひっくり返す
ように折る



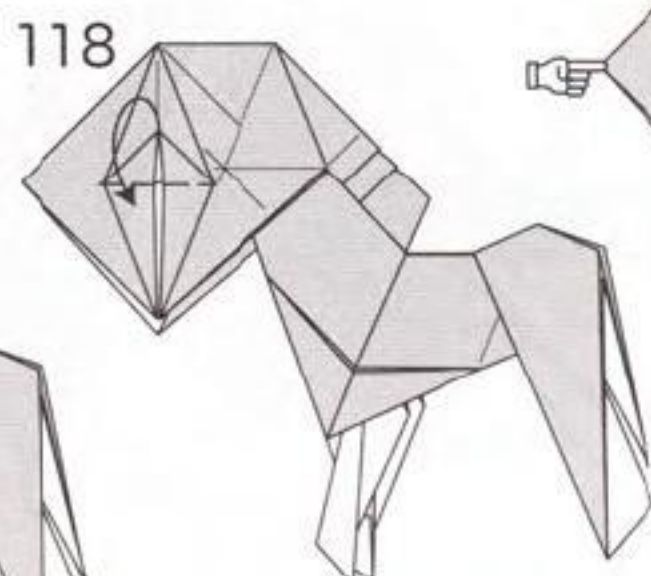
広げてつぶす



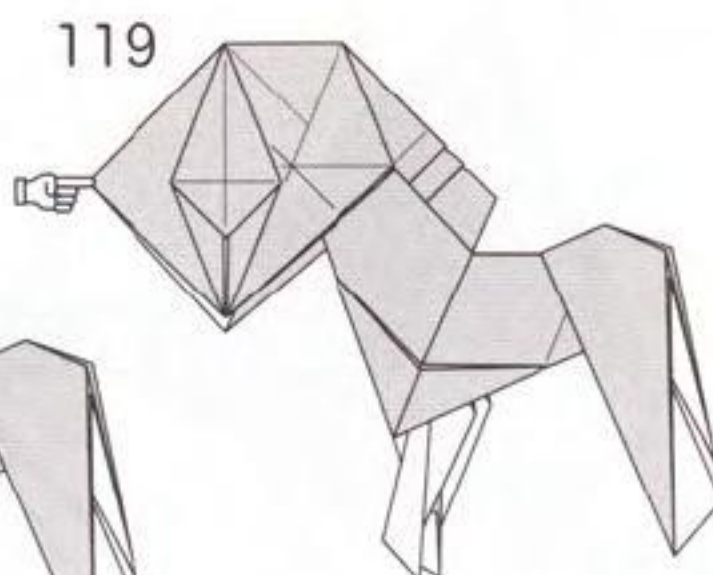
広げてつぶす



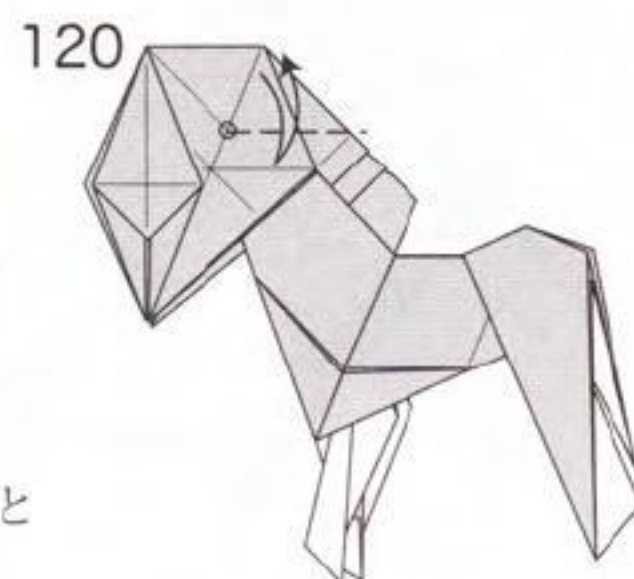
117 花卉折り



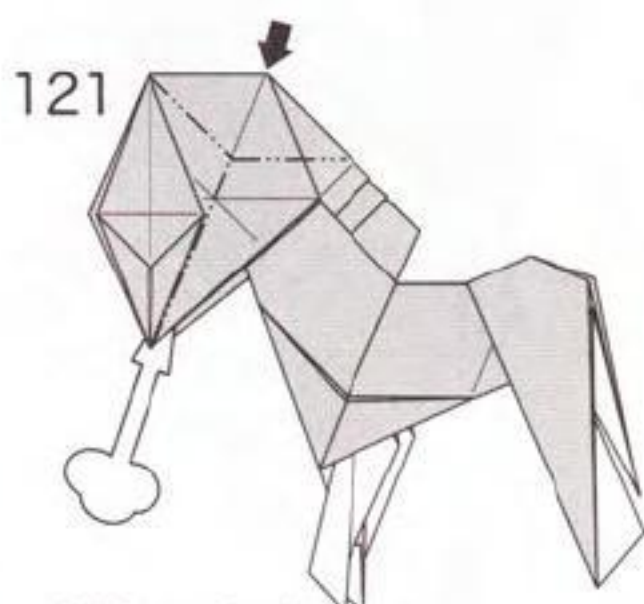
118 カドを折り返す



119 向こう側も 116~118 と同じように折る



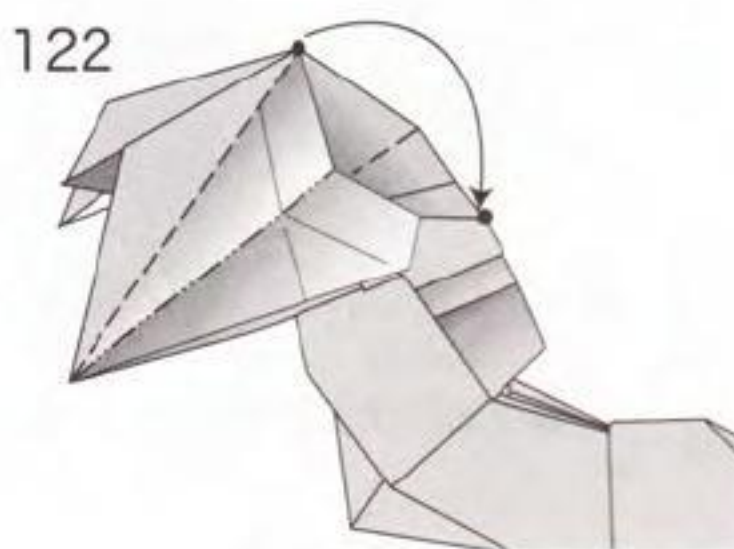
120 重ねたまま折すじをつける



121 内側から広げ凸部を内側に沈める (Closed Sink)

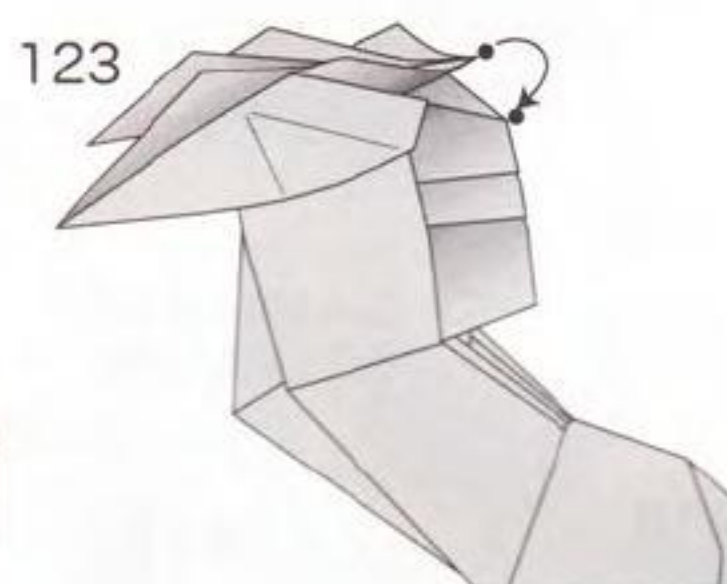


拡大



122 途中図

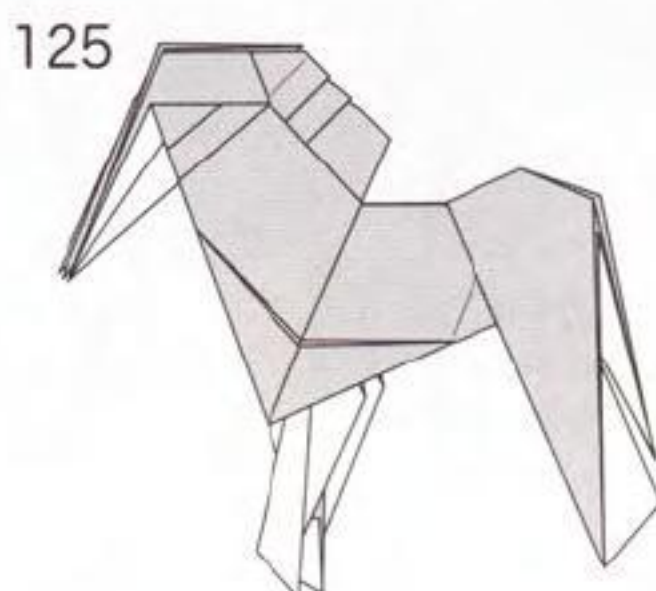
●のカドをあわせるようにまとめる



123 途中図



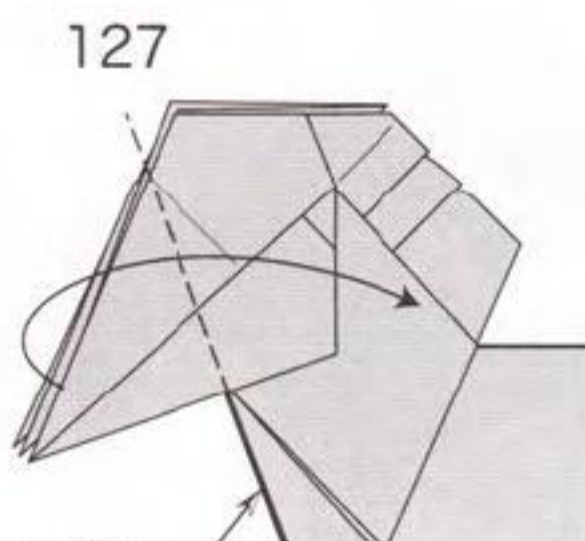
124 内側の重なりを1枚外に引き出す (1枚といっても実際には2枚に見えるが一組分という意味) 向こう側も同じ



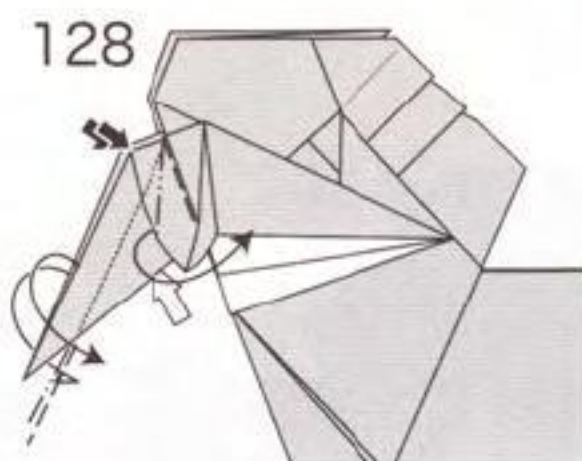
拡大



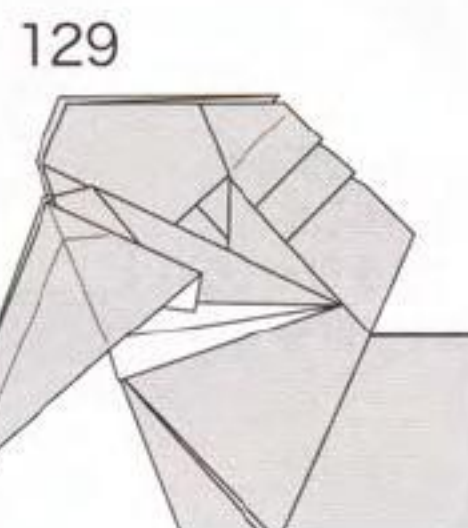
126 1枚折り返す向こう側も同じ



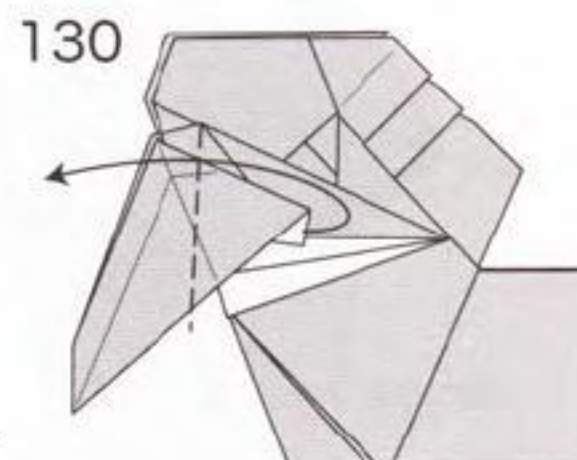
127 この辺にあわせ折る向こう側も同じ



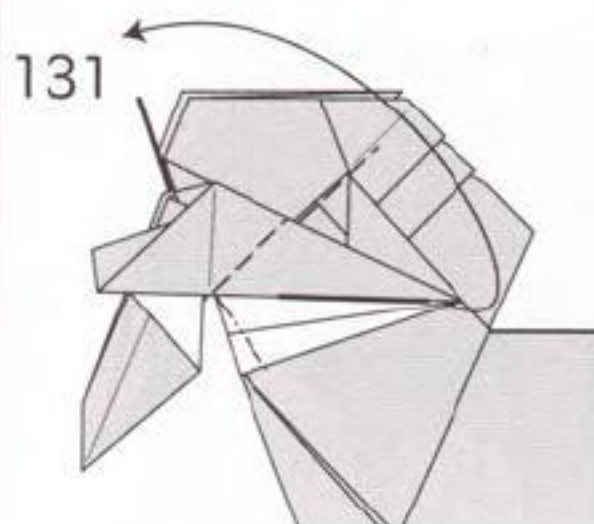
128 カドをつぶして下にずらすように折る向こう側も同時に



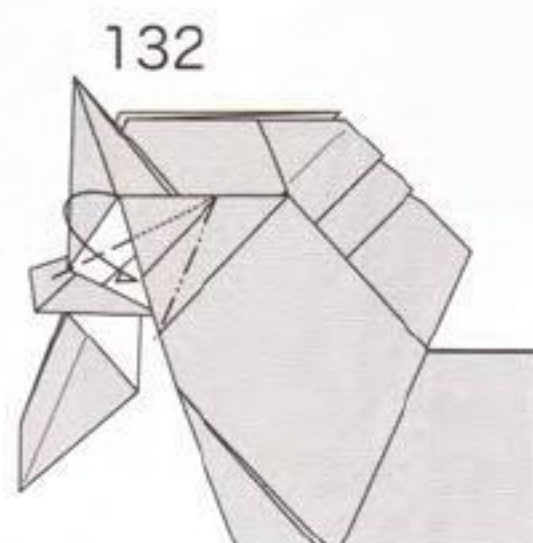
129 平行になるように調整



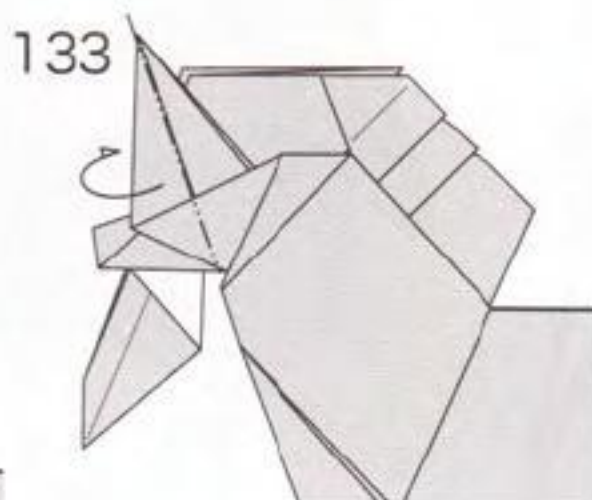
130 いっぱいに折り返す向こう側も同じ位置になるように調整をする



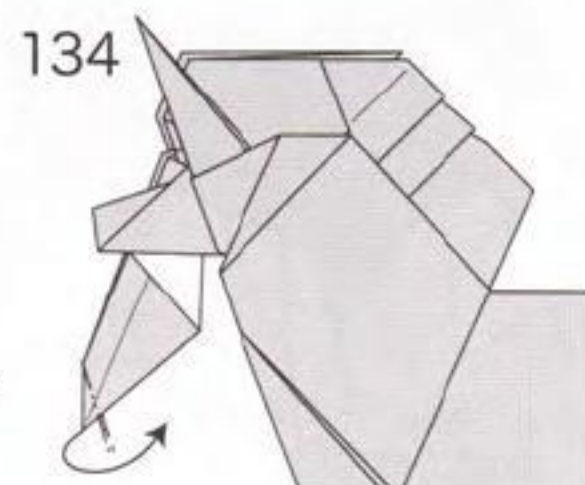
太線部が合うように
折りあげる
向こう側も同じ



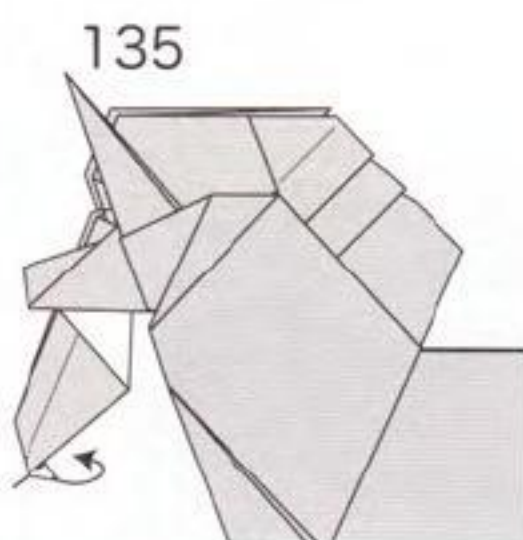
中わり折り
向こう側も同じ



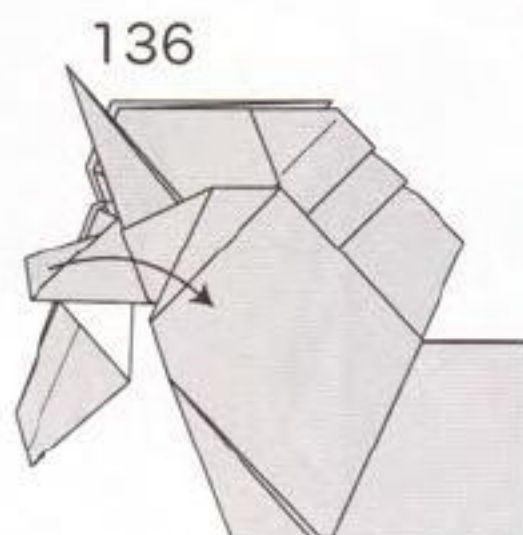
一番手前の隙間に差し込む
向こう側も同じ



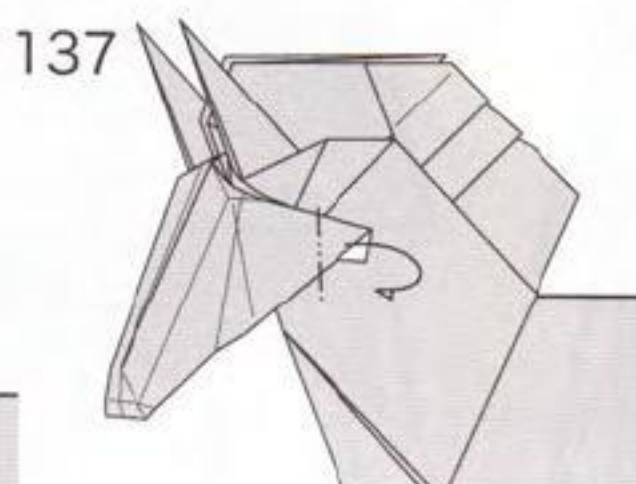
中わり折り



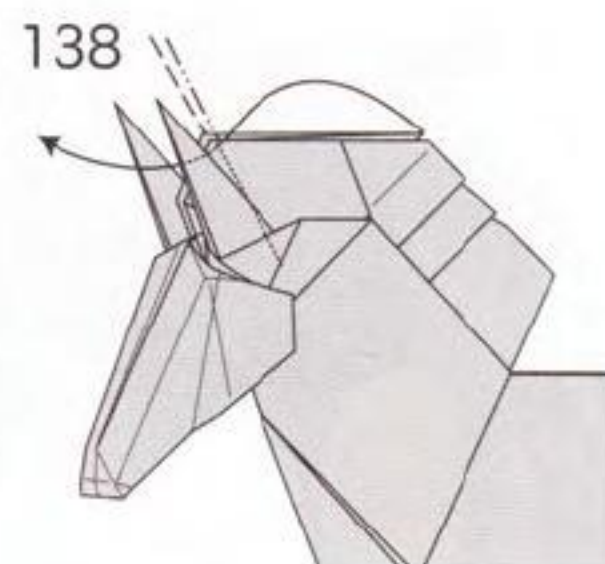
かぶせ折り



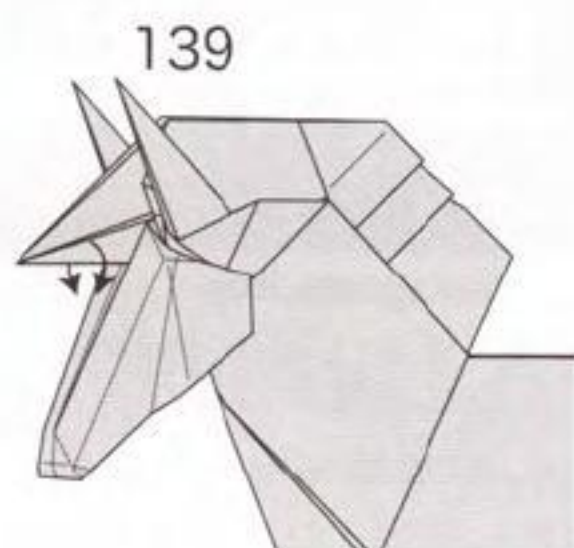
あご部を折り返して
顔を広げる
向こう側も同じ



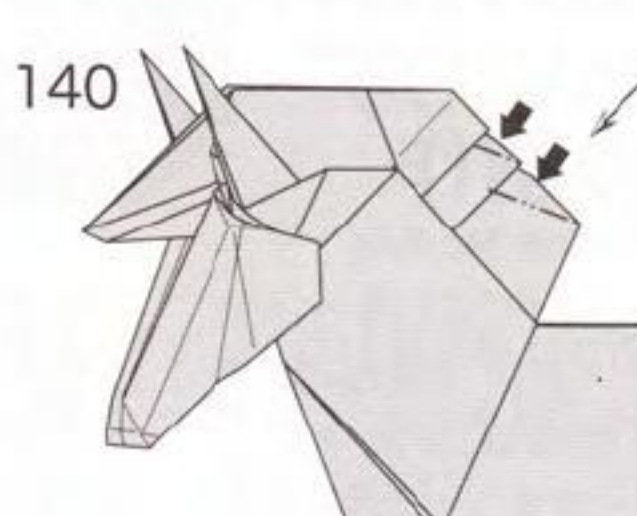
あご部を内側に折る
向こう側も同じ



頭の上の三角のカドを
いっぱいの中わり折り



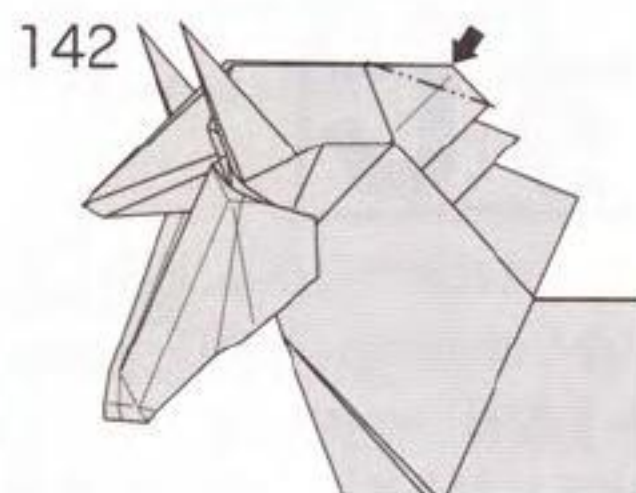
一番上のヒダを少しずらす



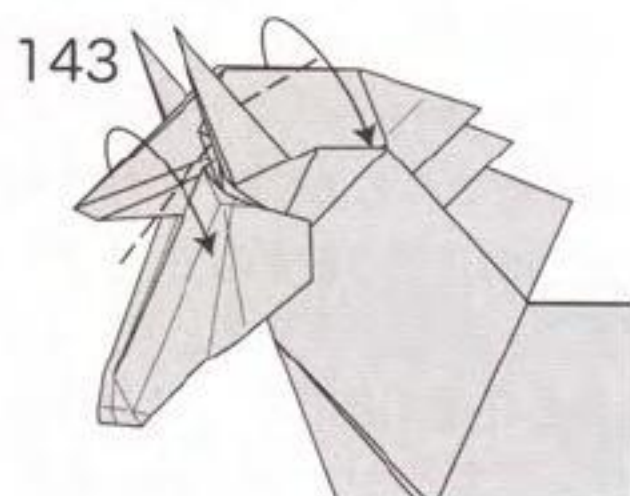
たてがみの境界を沈め折り
この折りはテクニックが必要です



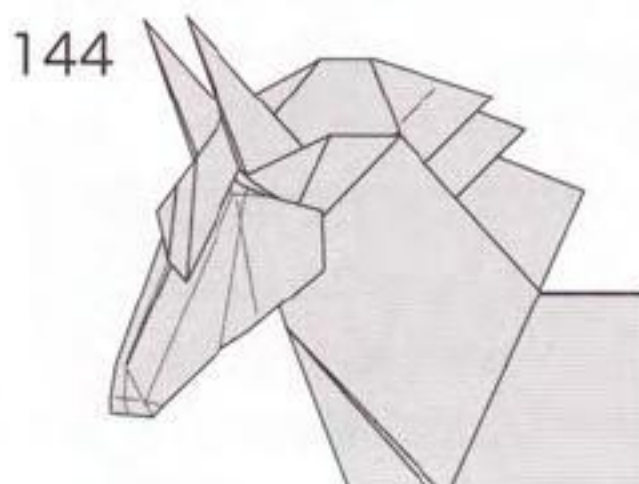
Cより見た形



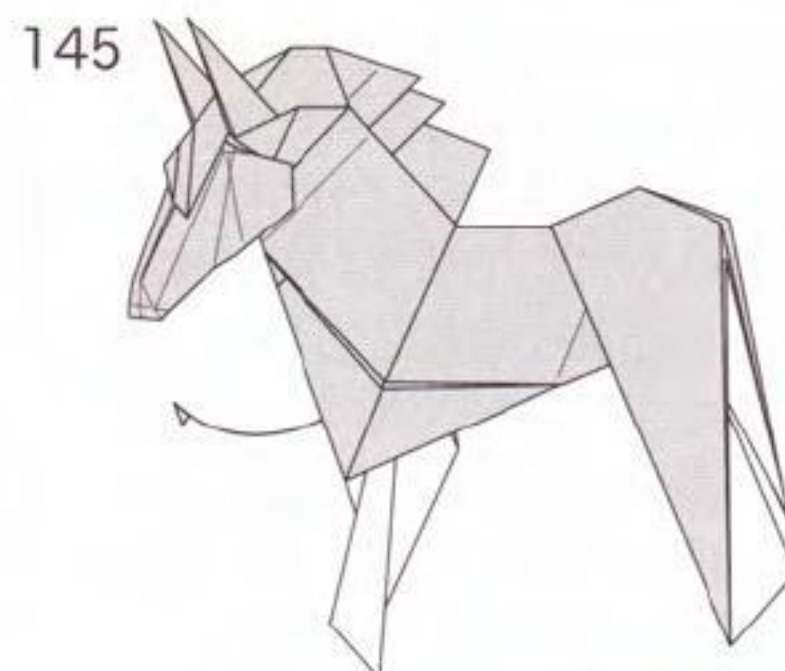
カドを押し込む



前髪を左右どちらかに折る



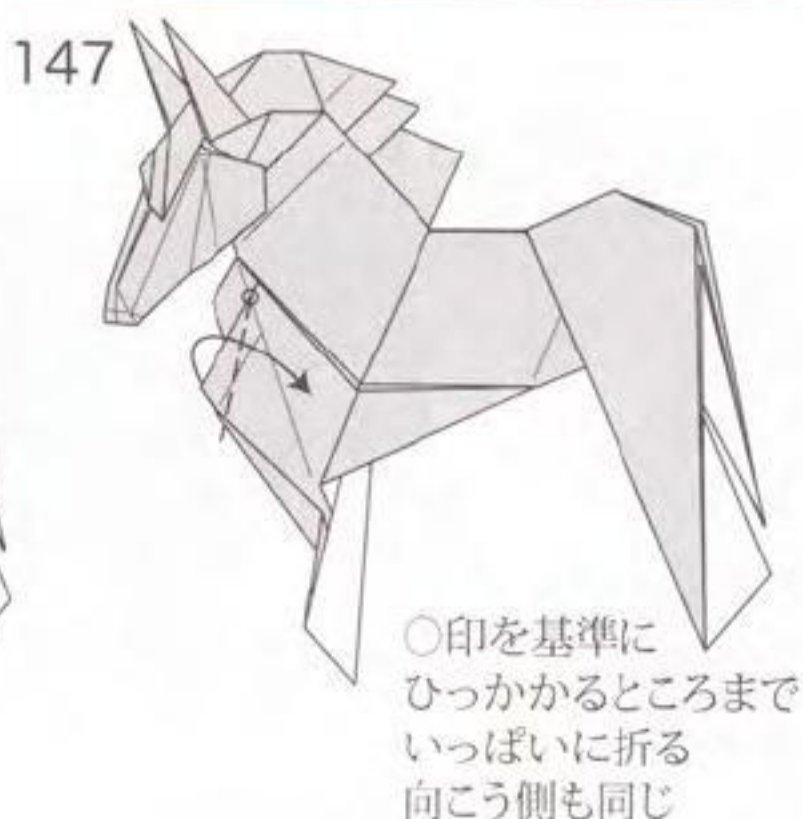
頭部の完成



重なっている1枚を折り返す
向こう側も同じ



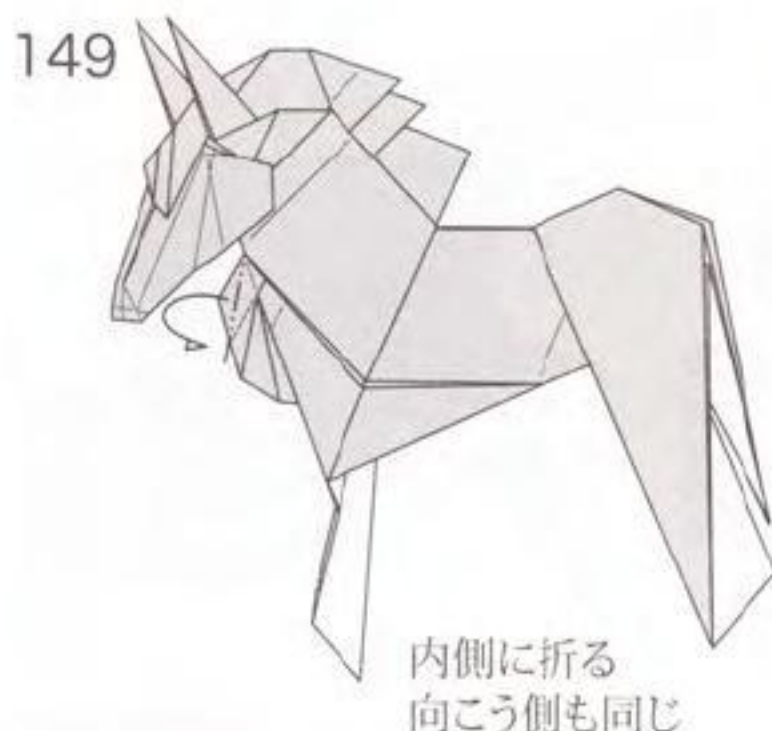
内側に折る
向こう側も同じ



○印を基準に
ひっかかるまで
いっぱい折る
向こう側も同じ



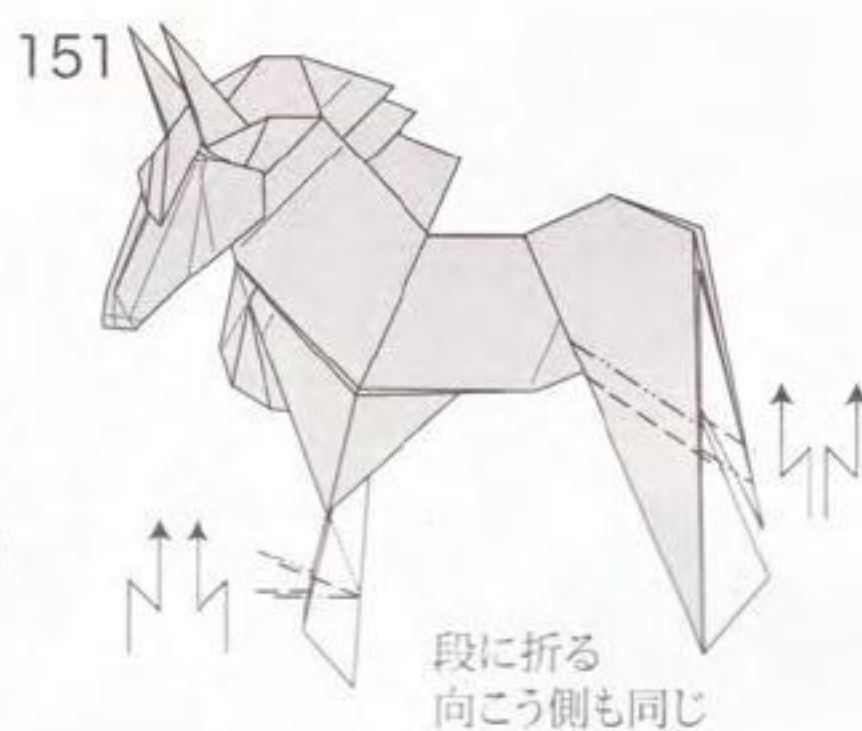
太線部の位置は
そのまま保ちながら
内側に折り返す
向こう側も同じ



内側に折る
向こう側も同じ



内側に段に折る
向こう側も同じ



段に折る
向こう側も同じ



Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙の創作

My Way of Creating Models

中川幸治

Nakagawa Koji

不切1枚折りの作品、複数の紙を組み合わせる作品、単純(Simple)な作品、超複雑(Super Complex)な作品、折り紙には様々な作品があります。素晴らしい作品は沢山ありますが、敢えて好きな作品を挙げると、私は、宮島登氏の「らくだ」、小松英夫氏の「みみずく」「うさぎ」を挙げます。その中でも小松英夫氏の「うさぎ」は好きな作品で、繰り返し折っている作品です。これらの作品は、大抵の人が目を見張るような超複雑(Super Complex)な作品ではありませんが、見た目は比較的単純ですっきりとし、必要最低限の紙で形を表現できているような造形は、私が折り紙作品を創作する時に目指している形です。

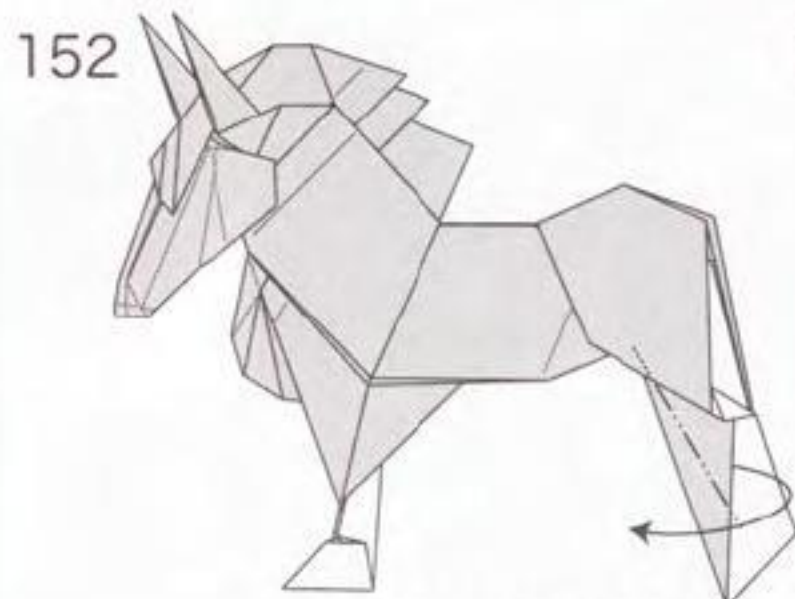
私の作品は、45度を中心に補助的に22.5度を使う構造が多く、仕上げで形

を整える細かな折りは余り使わない、小松英夫氏風の作品が多いです。創作のペースは、年間2~3作品程度と多作ではありませんし、出来上がった作品もまだまだ未熟で、仕上がりの形を優先するあまり、強引に畳まないといけない部分が残ることが多く、見た目の単純さに比較して折り難い作品が多いです。例えば、「カメ」(コンベンション折り図集Vol.15掲載)が典型的で、一見すると非常に単純そうに見えますが、首の折り出しが非常に強引で半ば展開図を一気に畳むような折り方になっています。「リス」(Vol.9掲載)も同様で、こちらも耳の折り出しが展開図を一気に畳むような折り方になってしまっています。

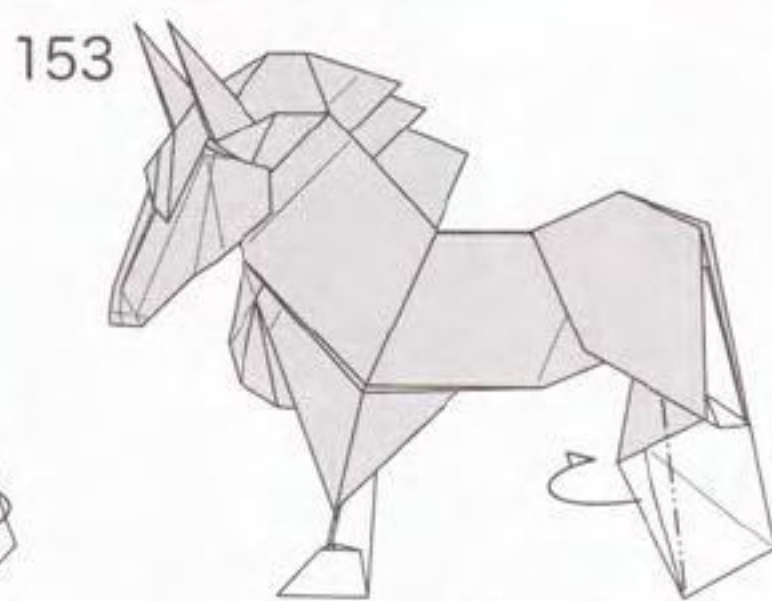
今までは不切1枚折りの作品が多かったですが、最近は2枚程度の折り

紙を組み合わせた複合作品が増えてきています。彦根城400年祭の時に職場の同僚に依頼されて某有名ゆるキャラを創作したのが切っ掛けで、それから複合作品も創作するようになりました。去年は、ハロウィンのお菓子入れに使える2枚組(本体+蓋)の「ジャックランタン」を創作したのを皮切りに、同じく2枚組(本体+蓋)の「イチゴ」「柿」と作っています。複合作品は1枚で作るよりも、色の組み合わせが自由になりますので、上手く使えば面白い作品が出来ると思います。

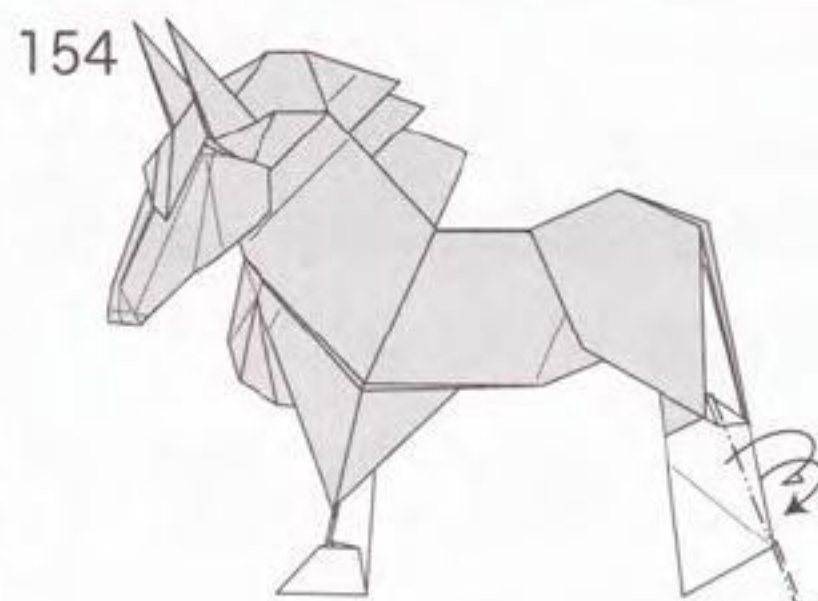
今後も作品の創作ペースは年間2~3作品程度と余り変わらないと思いますが、強引に畳まないといけない部分を減らして、折り易い作品にしていけたらと思います。



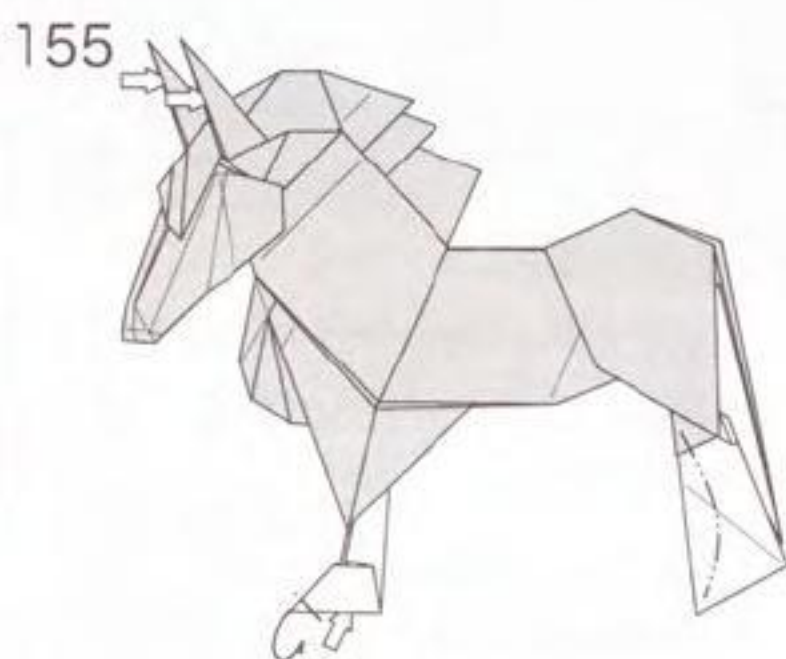
引き出すようにずらす
向こう側も同じ



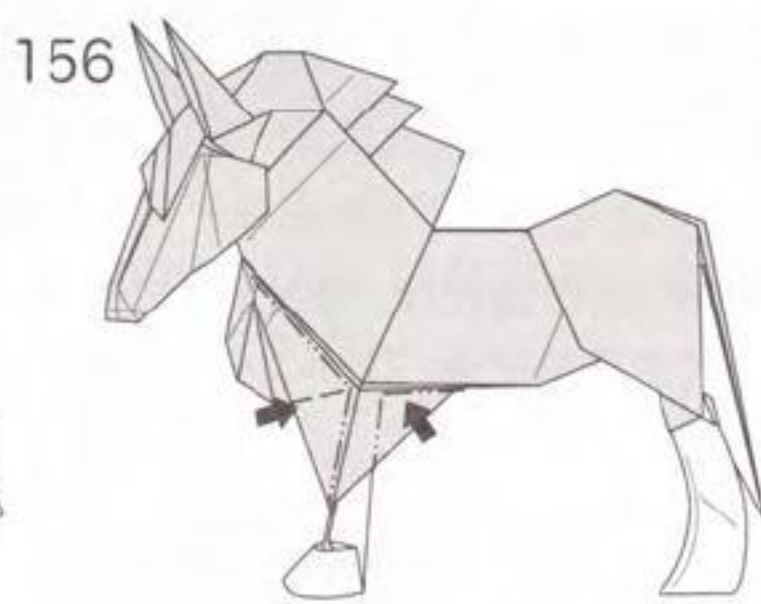
すぐ下の隙間に差し込む
向こう側も同じ



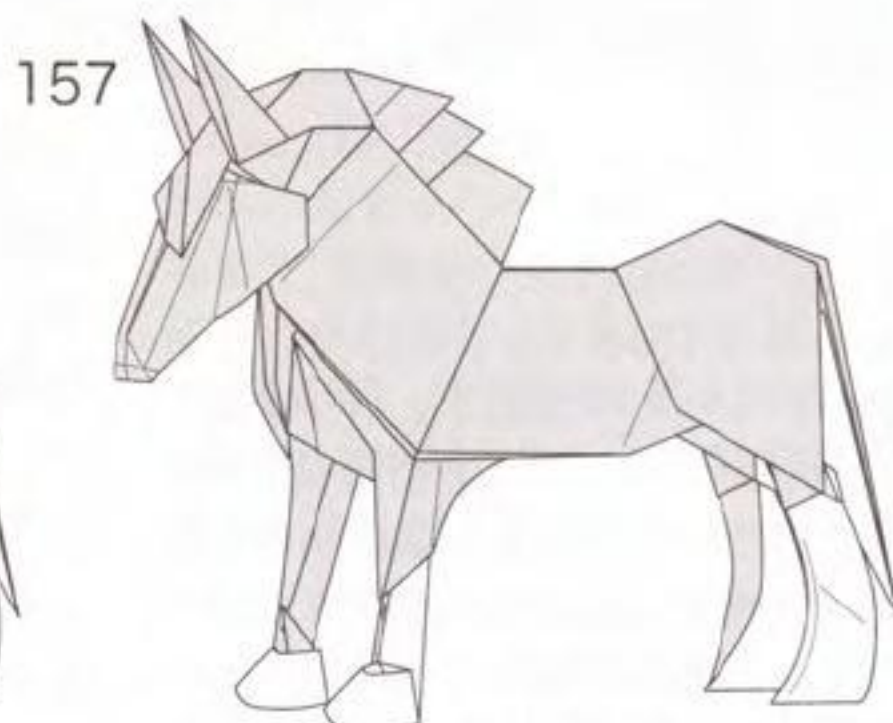
内側に折り込む
向こう側も同じ



耳、足を整える



胸を立体的に折る



できあがり

折紙三昧^⑥

Origami-Zanmai (This Origami and That)

“6OSME in Tokyo”まで9ヶ月を切る

6OSME in Tokyo Coming Three Seasons Later

第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議(議長 三浦公亮(東京大学名誉教授/日本折紙学会会長))開催までいよいよ9ヶ月を切りました。発表申し込みも国内外から50演題以上が集まってきて期待が高まっています。

<国際会議の概要>

1. スケジュール

会期)2014年8月10日(日)より13日(水)4日間

事前登録*) 2013年8月1日より
論文発表申込み2013年11月30日(終了)

参加申込み*) 2014年4月7日より
*いずれも公式ウェブサイト origami.gr.jp/6osme/ からのオンライン登録

2. 参加費用

参加費(2014年7月1日より):一般
25,000円/学生 15,000円
早期申込みの場合(2014年6月30日ま

で):一般 20,000円/学生 10,000円

3. 開催場所 東京大学本郷キャンパス
弥生講堂(東京都文京区)

4. 協賛学会/企業

大変有難いことに、企業からのご寄付や会告情報を掲載していただく協賛学会の登録も多数いただいています(11月6日時点 50音順)。

(共催)日本応用数理学会、日本計算工学会(協賛)紙パルプ技術協会、機能紙研究会、高分子学会、自動車技術会、日本印刷学会、日本機械学会、日本シミュレーション学会、日本図学会、日本木材学会(スポンサー)ギャラリーおりがみはうす、東京紙器株式会社、三宅デザイン事務所(協力)株式会社竹尾、平和紙業株式会社

個人スポンサーの申し込みも受け付けています。専用アドレス 6osme-qa@origami.gr.jp までお問い合わせく

ださい。

5. 会議の概要

本国際会議は、折り紙に関する様々な学術研究の国際交流を目的として、国内外の折り紙に関する研究者(数学、コンピューター科学、工学、教育学など)が多数集まる国際会議です。前回の第5回大会はシンガポールで2010年に行われ、第6回目となる今回は1994年に大津で行われた第2回以来20年ぶりの日本での開催となります。日本折紙学会は組織委員、プログラム委員として本国際会議の準備、運営を全面的にサポートしています。第20回となる折紙探偵団コンベンション(2014年8月15-17日)と合わせて折り紙の熱い夏をご期待ください。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第86回

ポニー(3Dモデル)

A 3D Pony

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

Created: 2012/12/31

Paper Size: 50cm×50cm

Height: 23cm

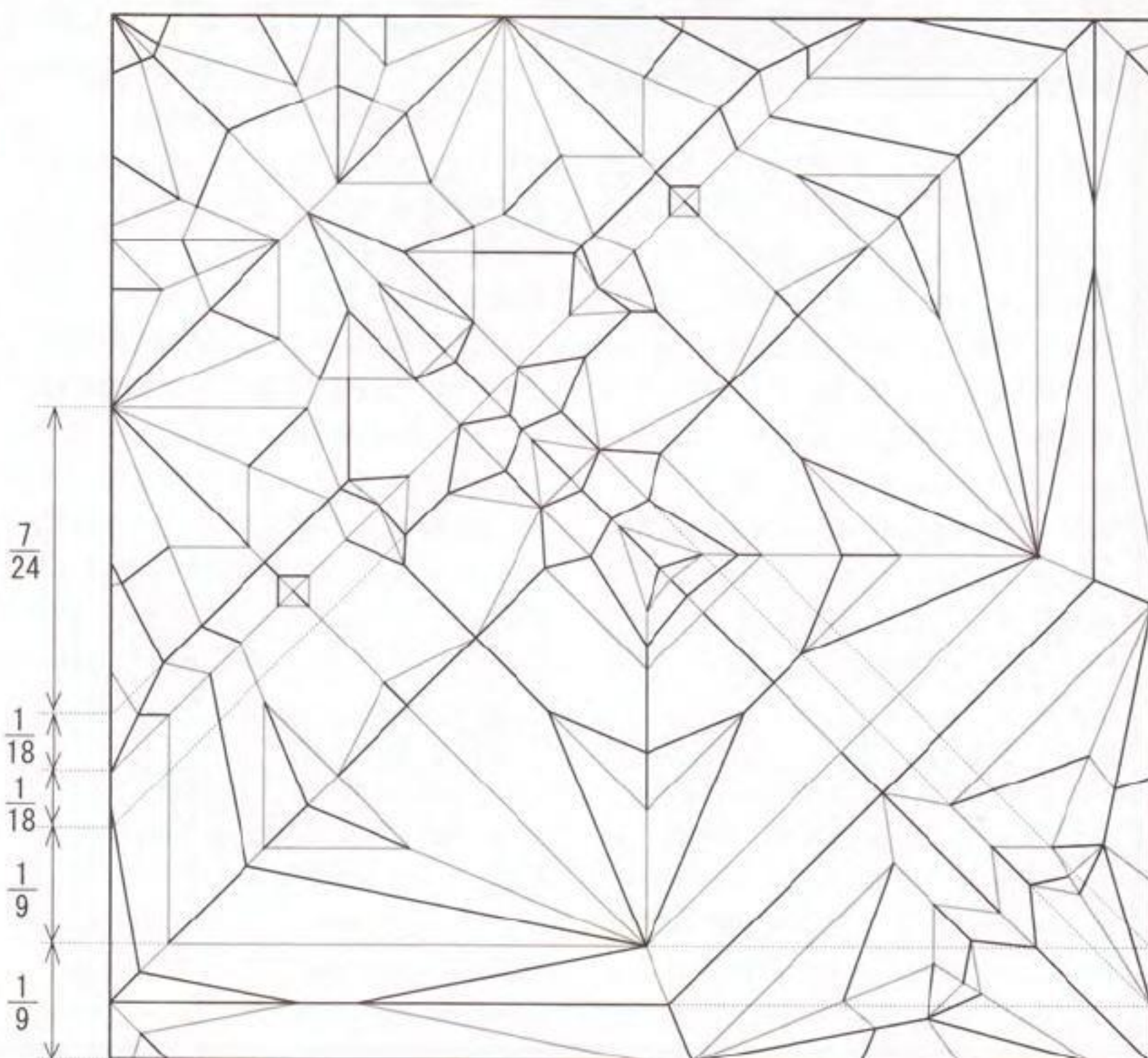


来年の干支は午です。馬は多くの折紙作家によって創作されているアイテムであり、写実的な作品から絵本の中に出てくるような幻想的な作品まで多くの名作が存在しています。馬の折紙で創作意欲を掻き立てられる部分の1つが「たてがみ」です。様々な技法が多くの作家によって生み出されていますが、「たてがみ」造形に大きなインパクトを与えたのが吉野一生さんの馬だと思っています。吉野さんにより最初に図版化されたのが1993年、今を遡ること20年前のこと。初めて吉野さんの作品を見せていただいたときの感動と衝撃は今もなお鮮明に覚えています。

馬と言っても、その種類は多種多様。サラブレッドや、シマウマ、ロバ等。それぞれ特徴があり、改めてその躍動感ある美しさに感動します。創作にあたっては、いつも必ず何らかの特徴を持たせたいと考えていますが、今回は種類の折分け、愛らしいポニーに挑戦してみました。ポニーの特徴は、ずんぐりとした胴体、体の模様、たてがみ、前髪等色々ありますが、前髪を折ることができればポニーの表現ができるのではないかと考えました。結果、前髪は折り出せたものの、紙中央部側からの折り出しのため、折工程がかなり難しくなっていました。たてがみは、左右に分けられた感じを表現しています。

今回の創作過程は、まず第1ステップとして平面的造形(2Dポニー)において、前髪の造形を考えることとし、第2ステップとして、ずんぐり感を出すための横幅方向を付加(帯設計を組み込む)する方法をとりました。従って2Dポニーも3Dポニーも結果的にほとんど同時に出来上がった作品です。

第1ステップで創作した2Dポニー(折図掲載)でも十分1つの作品になりますが、創作したかったイメージはようやくこの3Dバージョンで実現できました。折手順は2Dポニーと類似工程をとりながら、最後に中央にたたまれた胴体部分を左右に膨らませて立体感を得る工程となります。



Rabbit Ear つまみおり

Information

何時も何処かで 開催されている 折り紙コンベンション

An Origami Convention,
Anytime and Anywhere

国際交流が盛んになっている今日、今や世界中のどこかで大なり小なり、毎週のようにコンベンションが開かれているような状態だ。この秋は、川崎敏和氏と川村みゆき氏、そしてやまぐち真氏が全く別の国で行われたコンベンションにそれぞれ参加した。今回のつまみおりは、4ページ拡大版で、これらのレポートを紹介する。

(P.22～23に関連写真を掲載しています)

◆ハンガリー折紙協会のコンベンション

川崎敏和

海外コンベンションは、言葉・方式の違いで、全力投入すると疲れ果てる。メリハリつけて体力を温存し、楽しみを倍増させよう！ コツは、したいこと・したくないことの意味表明。

ハンガリーの首都ブダペスト市街地はユネスコ世界遺産。美しい都市に本部を置くハンガリー折紙協会の創立25周年記念大会に招かれた。開催地はハン

ガリー平原南西部のペーチ(Pecs)。市中央広場に面する特設会場では特別展示会も行われた。

広場でのキャンドルサービスは楽しかった。角香箱のキャンドルで描いた「25」を囲んで誕生歌を歌い、道行く人にキャンドルをプレゼントした。日本でもこのような折り紙交流をしたいと思った。

ステイ先の会長マリアン(Mariann

Villanyi)さん宅では、1989年の体制崩壊後の混乱からハンガリー折り紙の未来まで、筆談を交えて毎晩語り合った。協会の認知度は低く各国折り紙団体に機関紙を送っても無視されることが多いと嘆いておられた。

滞在中しばしば日本的なものを感じていたが、帰国してその理由がわかった。ハンガリーは蒙古斑をもつフン族が西に移動して作った国家だった。日産車3台を所有する会長やハンガリーにもっと目を向けるべきだろう。

◆BOSコンベンション・エジンバラ2013

川崎敏和

帰国の10日後、私は国際交流基金ロンドン文化センターの講演台に立っていた。通訳者は一流のプロ。200名の一般市民に、折り鶴変形理論、3度目の英国訪問、ウイスキーへの熱き思いを伝えてくれた。翌日、ハリー・ポッターで知られるキングス・クロス駅を経てエジンバラ駅に到着すると、大会主催者デニス(Dennis)さんの緊張した笑顔とブリル夫妻・布施夫妻のやや疲れた笑顔があった。

会場となったエジンバラ大学コンファレンスセンタは、英国式ガーデンの中に立派な会場と宿泊所が何棟も立ち並ぶ巨大施設だった。同大学のヒッグス名誉教授が優れた成果を出せた理由がわかるとともに大英帝国の底力と消費日本の危うさを痛感した。

ただ、スコットランドは大英帝国からの独立を望んでいるみたいだ。スコットランド国会議事堂や女王陛下の祝福を受けていないポンド紙幣があった。成田では両替してもらえない紙幣。藩札なのか？

もう1人の招待者ベス・ジョンソン(Beth Johnson)さんは聡明な女性だった。バーでのブリルさんの超高速講習についていけた。そんな彼女は、会員制ウイスキークラブで、羊の内臓料理ハギスを口にできなかった。布施さん曰く、狂牛病のせいかも。食い意地がはった筆者は、狂牛病など気にせず、この機を逃すまいとハギスとウイスキーに夢中になった。



低い円柱がハギス

そして禅に憧れて来日した外国人が、日本人の多くが禅と無縁であることを知るように、スコットランド人があまりスコッチを飲まないことを知った。行って・見て・発見するは旅の醍醐味。スコッチをストレートでパカパカ飲み、18年Taliskerを熱く語り、Jeanさんとダンスした筆者が、なかなかやるね！と日本人の評価を高めたことは間違いない。読者諸賢、したいことを明確にして、コンベンションを楽しもうではないか。



▲コンファレンスセンタ受付隣の建物

◆インド、バングラデシュ訪問

川村みゆき

9月16～26日は国際交流基金主催の文化事業の講師としてインドとバングラデシュの計3都市を訪問しました。

デリーでは明日仁見(Hitomi Ashta)さんが創設・運営されている「Origami Oritai」の皆様にお手伝いいただき、国立インド工科大学と私立アミティ大学の2カ所で理系学生を対象にユニットと多面体の関係についての講演を行いました。折紙自体初めてという人がかなりいて、「分かりますか?」と聞くと首を横に振るので言い回しを変えるなど工夫していましたが、あまりにも頻繁なので尋ねたところ、「OK」の意味だとのこと。この習慣を知らなかったのが最初はかなり焦りましたが、最後には全員で多面体を完成することができました。特に工科大学では学園祭に多面体折紙の展示を計画中のことで、たくさん質問が出てとても盛況でした。デリーではその他に一般向けの講演と中級コースの講習も各1回ずつ行いました。一般向けは70名以上が参加、作品を組み立てる様子をモニタに写すなどのデモンストレーションが中心でした。中級コースは「ウェッジ」の講習。参加者のほとんどがOritaiメンバーで、和気あいあい

と楽しい雰囲気での講習になりました。

次のムンバイでは日本領事館との共催で計4回の講演・講習を行いました。地元グループ「Origami Mitra」には昨年の東京・韓国でお会いしたヒマンシュさんがいて、ここでもメンバーの皆さんに展示やアシスタントなどお世話になりました。初級向けでは初めて折紙をするという人が何人かいましたが、伝承やシンプル作品など、特にひっかかるところもなく綺麗に仕上がっていました。デリーでも感じましたがインドの人は手先が器用だと思います。中級はMitraメンバー向けに「ジャバラ」の講習を、さらにインド工科大学・ムンバイ校の学生向けに多面体作品の講演と講習を行いました。2時間ずつの講習はどれもあっという間で、熱気のある楽しい時間でした。

バングラデシュの首都ダッカでは日本大使館との共催で5回の講習・講演を行いました。初級クラスの参加者は小中学生で、初心者から経験者まで色々なレベルの人が混じっていたため途中で止まってし

まう場面も何度かありましたが、伝承作品や簡単な動物など5～6種類折ることができました。中級は「ウェッジ」の講習をしたのですが、経験者限定で参加者募集したにも関わらず折紙は全く初めてという人が何人もいて、少々進行が難しかったです。しかも湿度がとても高くほとんどウェット・フォールディングの状態に。それでも皆さん半分ぐらいは完成していました。さらにダッカ工科大学では学生向けの講演も行い、ここでもたくさんの多面体が完成しました。

インドもダッカも気温と湿度がとても高く長時間屋外にしていると頭がぼーっとしてくる程でしたが、交流基金の方や各地の皆様には健康面でもご配慮いただき、体調を崩すことなく無事に全日程を終える事ができました。道中は本当にたくさんの皆様にお世話になりました。ありがとうございました。



▲インド工科大学での理系向け講習

◆第6回チェコの折紙コンベンション

川村みゆき

10月5・6日はチェコ折紙協会主催の第6回折紙コンベンションに特別ゲストとして参加してきました。日本文化紹介イベント「KAIZEN」との共催で、プラハから車で1時間半程のプルゼニという町のシャトーが会場です。特別講師としてドイツからカイ・クラシェウスキーさんも参加。彼は日本好きで、カッパや天狗、達磨などの和風モチーフを多く創作されています。会場では3ヶ月間の折紙展も開催とのことで、講師2名およびチェコ折紙協会が保有する作品を前日に1日ばかりで展示しました。



▲チェコ折紙協会メンバー

さて、事前情報では講習は3部屋に分かれてという話だったのですが、いざ当日になってみると各部屋は書道や漫画、刀剣の展示などに充てられていて、折紙用のスペースは長机2台のみ。講習3つを同時には無理ということでプログラムは全て白紙に戻され、手の空いている人が適当に何か教えるというスタイルに変更になりました。その間も一般のイベント見学者が次々にやってきては簡単な作品を1つ2つ教えてもらって帰ってゆくという感じで、聞けば今までもずっとこうだったらしく、これがチェコスタイルとのこと。私が知る限り一番流動的なコンベンションでした。

プロジェクターが使える別室では空手や茶道のデモンストレーションが行われていて、私もユニットと幾何学の話をしていただきました。他にも蛇腹を使った創作技法の解説や、巨大折紙の制作などがあり、一般の人もたくさん見学されていたようです。滞在中ずっとお世話になったオンドレイ・チブルカさ

んの出版記念サイン会も開かれました。

協会メンバーの展示ではヤクブ・ソロウスキーさん制作の「コスモスフィア」が目につきます。非常に面倒な作品ですが、とても綺麗に正確に作られていました。全体の入場者はのべ568名とのことで、展示や講習を見学した人は多かったと思います。協会からの参加者は20名弱で、例年並みとのことでした。

チェコは日中でも14～5℃。朝は霜が降りるぐらい寒かったですが、皆様とても穏やかで温かく迎えてくださって、オンドレイさんには名所の案内もしていただき、心に残る楽しい滞在となりました。



▲コンベンションの講習スペース

◆PCOCアルバカーキコンベンション

やまぐち真

PCOC(Pacific Coast OrigamiUSA Convention)は2年に一度、西海岸で開催されるOUSAのコンベンションである。また、毎回会場が変わり、今年はインターナショナルバルーンフェスティバルで有名なアルバカーキで開かれ、コンベンションのスケジュールはそのバルーンフェスティバルに合わせての開催であった。

ホテルを会場として260名の参加で盛り上がりを見せた。中には何処のコンベンションでも顔を合わせる方も多く、楽しいひとときを過ごすことができた。受け入れ側であるアルバカーキオリガミソサエティー(AOS)はとても気配りのある厚いオモテナシをしてくれた。

私はAOSのパティさんからの要請で、折紙きやらばんの活動をビデオ編集したVTRを持参して報告させていただいた。その中で、プレゼントするつもりで持参した折紙きやらばんのロゴ入りのTシャツを寄付する形で買ってもらい、キャラバンの活動に対して総額450ドルの寄付を頂いた。アメリカ人は寄付をする事にとても積極的で誇りを持っているかのようにさえ感じて、毎回感動する。

スペシャルゲストにはユーリ&カトリン・シュマコフ夫妻、マイケル・ラフォー

ス、リチャード・アレキサンダー、ソク・ソン、ベス・ジョンソン各氏ら6名。シュマコフ氏はアルバカーキのオールドタウンのジオラマの大作を展示していた。相変わらずの大作であるが設営、撤収ともに時間を要する割に3日間だけの展示ではもったいないと感じた。ベス・ジョンソン氏は最近注目されている女性作家で、テレビ東京のニュース番組がOUSAコンベンション取材した際にも彼女の作品が取り上げられていた。

懇親会では今年の探偵団コンベンションでの折り紙コンテストで、おりがみはうす賞を取ったバーニー・ペイトン氏に参加者の皆さんの前のステージ上でそのトロフィーを手渡すことができた。

エクスカーションではバルーンフェスティバル会場を訪れた。朝6時に出てバルーンを立ち上げるところから見学が

できた。この日は550基のバルーンがあがったという事で、まさに壮観であった。二度目のエクスカーションではニューメキシコ州の州都サンタフェに行く途中でロバート・ラング氏の作品等をモチーフにしたモニュメントを製作展示しているTurquoise Trail Sculpture Garden and Studioに寄った(<http://www.sculpturegarden.com>参照)。また、その日のディナーはエクスカーション参加者約80人が世話役のパティさんの自宅でピザパーティーに招待され、直径60センチ程もある日本では考えられないサイズのピザを皆で頂いた。

今回のコンベンションでは多くの方にお世話いただいた。中でもジューン・サカモトさん(いつもですが)、パティ・グロードナーさん、ドリス・アサノさんありがとうございました。



▲約80名が参加したピザパーティー



▲パティさんのコレクションは凄い。蔵書の一部

◆「若手創作勉強会」始動

JOASホールでは折紙探偵団東京友の会が毎月開催されているが、9月から新たに山口氏の発案で若手創作勉強会という集まりが始まった。東京友の会の若手創作者向けの発展形である。若手創作者の多い東京だから出来る荒業である。実は、今年の初夏には日本折紙学会よりJOASホールを若手のために活用できないかというお話を頂いていたのだが、ようやくスタートダッシュを切ることが出来た。とりあえず開催に向けて掲げられた目標が「折紙創作を続けていく若者の交流・研究」という名の通りの緩やかなものであった。



会の内容は発表とイベントの2本立てである。発表とは、参加者による自分の折紙に対する研究・こだわりのプレゼンである。参加者は最低1回、この発表を行わなければならない。結構鋭い意見が飛んでくる。しかし、研究や創作といった普段一人で抱え込みやすい問題は、他者に多くの刺激をもたらす、発表者にとっても、問題を客観的に捉え直し、有用な意見を得ることが出来る機会となるであろう。9月には森末圭氏による「インサイドアウト設計入門」、10月には岡本卓也氏による「自分の創作法の再検討」が発表された。

イベントには議論や輪読、講演などを予定している。10月のイベントでは「折紙創作を始めたい人々に作家は何か出来るか」について議論された。参加者の創作を始めるに至った経緯や今まで受けた質問など、個々の経験を語ることから始まり、「創作に有益な情報の集約

若手創作勉強会世話役 柏村卓朗

とその提供」を暫定的目標として今後活動していくことを確認した。議論の中では折紙人口、作家の増加を願うことで全会一致し、緩やかな会から少し高い意識が垣間見えた。

会は月1度の開催を目指していく。参加条件は、高校生以上の30才以下ということになっている。上記の通り、折紙教室ではなく議論メインなので、高校生以上という条件を設けた。また参加者は発表する必要があるのも、創作や研究を行っていることが望ましい。興味があれば東京友の会で参加希望と名乗り出よう。



◆第15回折り紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

第15回折り紙の科学・数学・教育研究集会を下記要項で行います。折り紙の科学・数学・教育に関する研究者の、最新研究の発表が行われます。どなたでも聴講ができますので、興味のあるかたはぜひご参加ください。また、発表者を公募します。詳細は、決定次第ウェブでお知らせします。

日時：12月14日(土)
会場：JOASホール

(東京都文京区白山1-33-8)
参加資格：なし
◇発表者応募要項
以下の内容を、12月2日までに、メールで送付してください。
氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表予定時間(30分以下としますが、交渉に応じます)
連絡先：webman@origami.gr.jp
(担当 前川)

◆館知宏氏と三浦公亮氏の共著論文が国際会議で受賞

今年9月にポーランドで開かれた、シェル・空間構造国際会議で、「剛体折り可能な筒及びセル」(館知宏・三浦公亮)が、栄誉ある坪井賞を受賞しました。坪井賞とは、オリンピックの代々木競技場などの構造設計で世界的に著名な故坪井善勝先生を記念した賞で、その年の最も優れた論文に授与するものです。論文の内容は、探偵団誌および折り紙の

科学の集いで、ご存知と思います。



東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45)
●12月7日(土)/講師：西川誠司/作品：「クリスマスツリー」※24cmの紙・カッター・カッター台・定規持参

●2014年1月11日(土)/講師：萩原元/作品：「うま」他 ※初心者には24cm以上の紙を推奨



「クリスマスツリー」



「うま」

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=10:30~15:00

※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

●12月8日(日)午前/講師：鈴木美恵子/

作品：連鶴(妹背山・蓬莱山・蓬莱)、午後/情報交換会等

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~15:00

●12月21日(土)/講師：未定/作品：未定

●2014年1月18日(土)/講師：未定/作品：未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=西宮市大学交流センター講義室2/参加費=500円/時間=10:00~16:00

●12月28日(土)開催予定/講師：立石浩一/作品：Pop-Up Horse Card (Sy Chen作)、Rocking Horse (John Montroll作)、Clydesdale (John Montroll作)

注1：講義室は飲食禁止です。向いのアクタ西館にレストランがありますのでご利用下さい。注2：終了後、関西コンベンションスタッフのミーティングを開催致します。スタッフの方はお残り下さい。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=500円(中学生以下は100円)

●12月15日(日)/時間=13:00~16:00/会場=4階第5研修室/講師：川村みゆき/作品：ユニット作品(予定)

●2014年1月19日(日)/時間=13:00~16:00/会場=4階第5研修室/講師：山北克彦/作品：未定

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「知子の部屋」

12月21日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00/定員=28名/アットホームな雰囲気の教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「OrigamiATC研究会」

2014年1月16日(木)/講師=松浦英子/参加費=1,000円(材料費別)/11:00~16:00/定員=20名/講習内容=アーティスト・トレーディングカード(ATC)作りと、折り紙講習、折り紙の情報交換等/お茶を飲みながらの気軽な集まりです。初心者大歓迎。

◆「小松英夫特別教室」

2014年1月19日(日)/講師=小松英夫/講習作品=魔女の面(完全版)/参加費=2,500円(材料費込み)/12:30~16:00/定員=28名

◆「ある折り紙作家の教室」

2014年2月2日(日)、2月9日(日)(2日とも同じ内容)/講師=神谷哲史/講習作品=イヌ(予定)/参加費=3,000円(材料費別)/11:00~16:00/定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■各地のコンベンションが盛んだ。■結果、JOASの作家が招待される機会が増えている。■今回のお二人は共にJOASの評議員である。■JOASにとって喜ばしい事である。■怠け者の私は義務が生じる招待は少々辛いから遠慮している。■私の場合は場の雰囲気を楽しむ事にある。■川崎さんのような楽しみ方もいいな、お酒も強いし。■しかし、私はもう年だしあと何回行けるか分からない。■カウントダウンが始まっている。■周りに迷惑をかけないうちには思っている。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2013年11月25日発行 第24巻4号 通巻142号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.142 / Published on 25, November 2013 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "A 3D Pony" Produced by Kawahata Fumiaki: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



神谷哲史作品集2

神谷哲史・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録

好評発売中!

コンプレックス折り紙界の最先端を走り続ける神谷氏の、約8年ぶりとなる作品集。描き下ろしの「フェニックス」をはじめ、レア度の高かった折り紙教室向けの折り図を含む16作品を収録。一層難易度を増した作品があなたの挑戦を待ち受ける!



第19回折紙探偵団 折り図集vol.19

日本折紙学会 編 / 2,300円 / 送料420円
B5判 / 全288頁 / 53作品収録

vol.18よりさらに16P増量!

ジャバラン: 川村みゆき、モザイク小物入れ: 川崎敏和、ニワトリ: 神谷哲史、リヤマ: 川畑文昭、サイ: 宮島 登、無限の輪: イザ・クライン、自転車: ジェイソン・クー、白ウサギ: ニコラス・ガハルド・エンリケス、グリズリー: セス・フリードマン等、国内外の53作品を収録。



小松英夫作品集

小松英夫・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録

折り図も一つの作品として捉え、常に新しい表現方法を追求する小松英夫氏の作品集が、満を持して登場! 「ライオン」「道化面2」など描き下ろし作品4点の他、過去に発表された作品もさまざまな形でリニューアル。シンプルからコンプレックスまで20作品を収録。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー	4,800円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第18回折紙探偵団 折り図集vol.18	2,200円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 折り図集vol.17	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 折り図集vol.16	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録

書籍2冊の送料は530円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	1～2セット 440円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かな恐竜柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	750円	1冊250円 2冊350円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail : info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://www.olshop.origamihouse.jp/>
※本ページ商品は取り扱いっておりません。ご注意ください

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

Miracle Rainbow

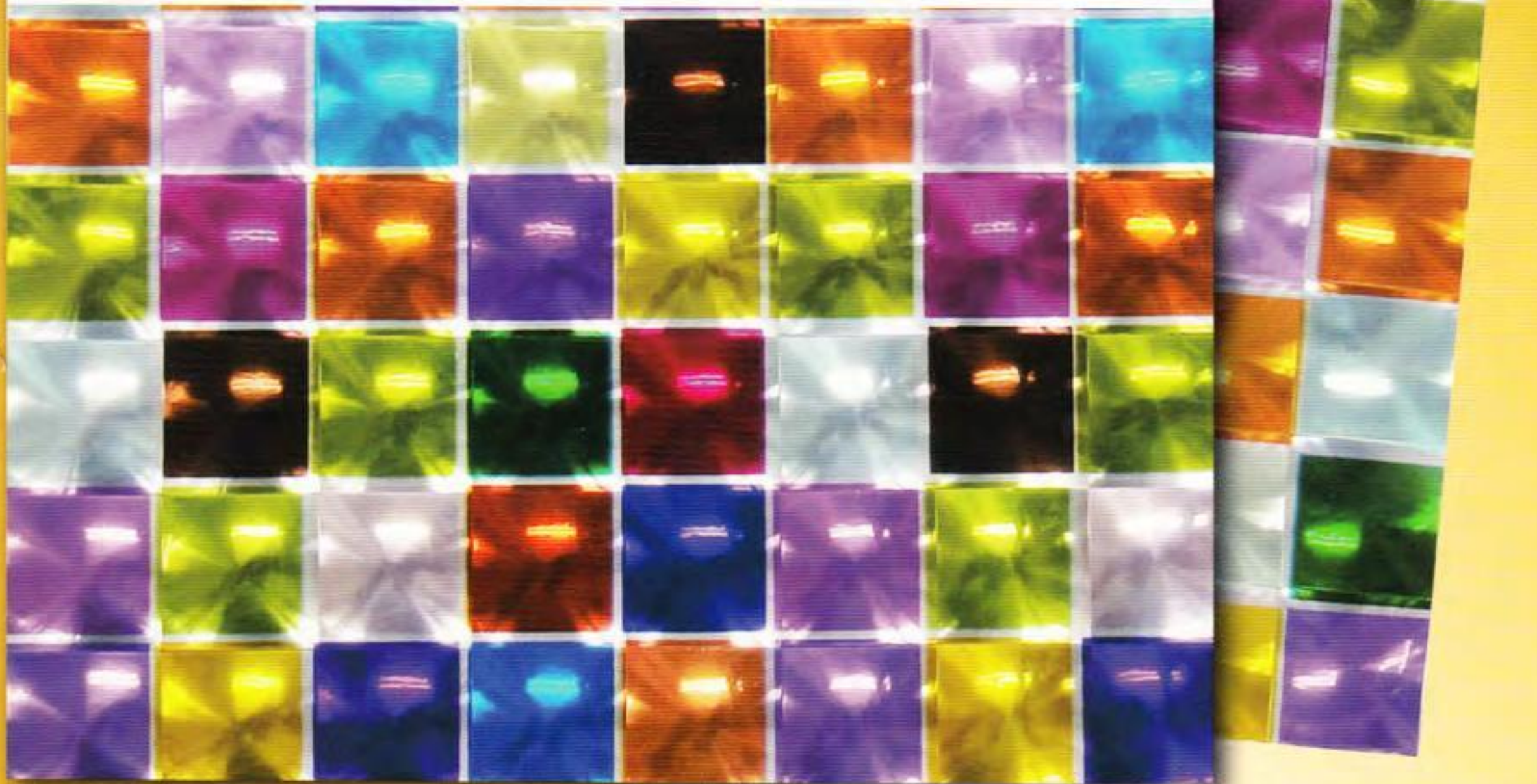
カラフルなレンズ状のOrigami paper

レンズフィルム (PET 素材) と上質紙を貼り合わせた立体感のある紙です。

¥300
(税抜き)

ト-ヨ- 15.0×15.0cm 5枚入

ミラクルレインボー
Miracle Rainbow
カラフルなレンズ状のOrigami paper



株式会社ト-ヨ-

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。

※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。

本 社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161

大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所